
小諸市
子ども・若者の生活状況アンケート調査
報告書
(速報値)

令和6年10月

目次

1 調査の概要	4
(1) 調査目的	4
(2) 調査対象・回収状況	4
(3) その他	4
2-1 調査結果の要約：子どもの生活状況調査	5
(1) ふだんの生活や勉強等の状況	5
(2) ほっとできる場所	5
(3) 家事や、家族のケアの状況	5
(4) 自己肯定感・将来への希望・生活満足度・孤独感	5
(5) 相談相手	5
(6) 利用したい施設・サービス	6
2-2 調査結果の要約：若者の生活状況調査	7
(1) 就業者の時間的・経済的なゆとり	7
(2) 結婚の状況・希望	7
(3) 理想の子どもの人数	7
(4) 自分にとってほっとできる居場所	7
(5) 生活の満足度	8
(6) 相談先や悩みごと	8
(7) 利用したい施設・サービス	8
(8) 定住意向	8
3-1 調査結果：子どもの生活状況調査	9
(1) 回答者のこと	10
(2) ふだんの生活や勉強等の状況	11
(3) 学校の授業の理解度	12
(4) 今後の進路希望	13
(5) 平日の放課後の過ごし方・ほっとできる場所	14
1) 平日の放課後の過ごし方	14
2) ほっとできる居心地のよい場所	15
(6) ふだんの活動、生活習慣の状況（食事、睡眠）	16
1) ふだんの活動にあてる時間	16
2) 食事の準備	17
3) 朝食・夕食の状況	18
4) ふだんの食生活	19
5) 睡眠時間	20
(7) 生活に関する満足度・自己肯定感	21
(8) 相談できる場所	25
(9) 普段の考え方	26
(10) 利用したことがある場所	28
(11) 自由記述	29
3-2 調査結果：若者の生活状況調査	35
(1) 回答者のこと	36

(2) 就労状況	38
(3) 結婚・出産・子育てについて	41
1) 結婚の状況や意向	41
2) 子どもの状況・意向	43
(4) 日常的な居場所、普段の活動	47
(5) 外出状況	50
(6) 生活の満足度	51
(7) 相談先や悩みごと	55
(8) 施設・サービスの利用	58
(9) 小諸市への定住意向	59
(10) 自由記述	62

1 調査の概要

(1) 調査目的

「小諸市子ども計画」の策定にあたり、支援施策の主な対象である子ども・若者の生活状況や意見を把握するために実施した。

(2) 調査対象・回収状況

調査は、小学校5年生、中学校2年生を対象とした「子どもの生活状況調査」、15歳～39歳の若者を対象とした「若者の生活状況調査」の2種類として実施した。各調査の配布・回収の状況は以下のとおりである。

子どもの生活状況調査

調査対象者	小学校5年生、中学生2年生
調査方法	小学校、中学校にて、QRコード及びURLを印字した依頼状を配布し、Webフォームによる回答を依頼した。
調査期間	2024年7月5日～2024年7月19日
配布数	694人
回収数	475人
回収率	68.4%

若者の生活状況調査

調査対象者	15歳～39歳の若者
調査方法	郵送にて調査票を配布し、紙調査票の返送またはWebフォームによる回答による回答を依頼した。
調査期間	2024年8月5日～2024年8月25日
配布数	1,250人
回収数	356人（うち、Webフォームによる回答は221人）
回収率	28.5%

(3) その他

- ◆ 回答結果の割合「%」は、有効回答数に対してそれぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入している。そのため、単数回答であっても合計が100.0%にならない場合がある。
- ◆ 図表中の「n」はNumber of caseの略で、「n=」は該当質問の回答者数を表す。なお、無回答があるため設問ごとに回答者数が異なる場合がある。
- ◆ 図表のタイトルや選択肢は、簡略化している場合がある。

2-1 調査結果の要約：子どもの生活状況調査

(1) ふだんの生活や勉強等の状況

- 学年別に学校の授業以外の1日あたりの勉強時間をみると、「まったくしない」の割合は小学5年生、中学2年生で変わらないが、中学生になると「1～2時間くらい」の割合が高くなり、勉強時間が伸びている。
- いつごろから授業がわからなくなったかをきくと、「小学5・6年生のころ」・「中学1年生のころ」の割合が高くなっている。学年別に学校の授業の理解度をみると、中学2年生で「いつもわかる」の割合が下がり、「だいたいわかる」「わからないことが多い」の割合が高くなっている。

(2) ほっとできる場所

- ほっとできる居心地の良い場所としては、自分の部屋や家庭が8割程度と高くなっている。学校は60.6%、地域の公民館や図書館、公園などは42.7%、インターネット空間は51.6%となっている。
- 学年別にみると、中学2年生では、自分の部屋、家庭に次いでインターネット空間が高くなっており、子どもたちにとって重要な場になりつつある。普段の活動をみても、テレビ・インターネットを見ることや、ゲーム機やゲームアプリで遊ぶことに比較的長い時間を費やしている。インターネット等は、便利であるものの、トラブル等に巻き込まれるリスクがあり、子どもたちの情報モラルの育成が必要である。

(3) 家事や、家族のケアの状況

- 毎日2時間以上、家事や家族のケアをしている割合をみると以下のとおりである。

	家事の手伝い	兄弟姉妹などの世話	家族の介護
毎日2時間以上している割合	5.9%	9.3%	1.3%

- 本来大人が担うと想定されている家族の世話や家事などを日常的に行っている場合は、その責任や負担が重くなり、子ども自身がやりたいことができないなど、学業や友人関係などに影響が出てしまう可能性がある。「家族のことは家族でなんとかしなければ」という思いで頑張るあまり、一人で悩みを抱えてしまう場合もあり、「誰かに頼ってもいいんだ」と思える環境を作っていくことが必要である。

(4) 自己肯定感・将来への希望・生活満足度・孤独感

- 自己肯定感（現在の自分が好きか）、将来について明るい希望を持っているか、生活満足度をみると、中学2年生の方が低くなっている。将来について明るい希望を持っている割合は、授業の理解度が高いほど高まっている。
- 孤独と感ることがある割合は、中学2年生の方が高い。また、国の結果よりも孤独を感じている割合が高い。
- 普段の考え方をみると、中学2年生では小学5年生と比較して「私は、なかのよい友だちが少なくとも一人はいる」など頼れる友人がいる一方、「心配ごとが多く、いつも不安だ」「新しい場面に直面すると不安になり、自信をなくしやすい」が高くなっており、心配事、不安が増える傾向にある。

(5) 相談相手

- 相談できると思う人は、「親」が73.3%と最も高く、次いで「学校の友だち」が64.6%となっている。一方「だれにも相談できない」「相談したくない」をあわせて14.1%である。

- 相談できない／したくない理由としては、「だれにも知られたくないことだから」「自分の欠点や失敗を悪く言われそうだから」「相手にうまく伝えられないから」「いやなこと、できないことを言われそうだから」となっている。

(6) 利用したい施設・サービス

- 施設・サービスのうち、利用したことがあるものは「図書館やこもテラスなどの公共施設」が49.3%、次いで「放課後や休日を過ごすことができる場所」が37.1%となっている。利用したことで生じた変化は「友だちが増えた」「生活の中で楽しみなことが増えた」「ほっとできる時間が増えた」が挙げられている。
- 利用したことはないが、あれば利用したい場所としては、「勉強を無料で見てくれる場所」「夕食が無料か安い場所」が2割弱程度みられる。

2-2 調査結果の要約：若者の生活状況調査

(1) 就業者の時間的・経済的なゆとり

- 就業者に時間的なゆとりをきくと、「ゆとりがない」「どちらかといえばゆとりがない」をあわせた割合は53.1%である。年代別にみると、年齢が上がるにつれて時間的なゆとりがないという回答が増えている。
- 経済的なゆとりをきくと、「ゆとりがない」「どちらかといえばゆとりがない」をあわせた割合は69.8%となっている。年代別にみると、大きな違いはないが10代の就業者で「ゆとりがある」の割合が高い傾向にある。

(2) 結婚の状況・希望

- 回答者のうち、結婚していない人の割合は52.2%である。結婚していない人のうち「いずれ結婚したい」と考えている人は56.5%である。「結婚するつもりはない」は12.4%、「わからない」は31.2%である。
- 結婚していない理由は、「適当な相手にめぐりあっていないから」が47.6%と最も高く、次いで「経済的に余裕がないから」が38.8%、「結婚するには若すぎるから」が35.9%となっている。
- 夫婦の知り合ったきっかけは、「職場や仕事、アルバイト関係で」が最も高く32.1%、次いで「学校で」が22.0%、「友だちやきょうだいを通じて」が18.2%となっている。

(3) 理想の子どもの人数

- 理想の子どもの数の平均は2.57人、実際に持つつもり子どもの数の平均は1.98人となっており、理想と実際の人数に乖離がある。理想の人数より実際の人数が少ない理由としては、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」の割合が最も高く86.2%となっている。次いで「自分の仕事（勤めや家業）に差し支えるから」「自分または配偶者の年齢的理由から」が理由として挙げられており、経済的負担や年齢的理由が乖離の要因となっている。
- 出産し、子どもを育てていくために、今後更に必要だと思うことをみると、子どもがいる人は「3歳未満児保育の費用の軽減・無償化」「妊娠・出産に伴う医療費補助の増額」「大学・短大・専門学校等の教育費の軽減の拡充」の順となっており、経済的負担の軽減を重視しているといえる。

(4) 自分にとってほってできる居場所

- 自身にとっての居場所（ほっとできる場所、居心地の良い場所など）をきくと、「自分の部屋」「家庭」が高いが、「インターネット空間」を挙げる人も多くなっている。
- 年代別に違いが見られ、10代は「学校」「職場」「図書館や公民館、公園など、現在住んでいる地域にある施設」、20代は「インターネット空間」が高い。
- 幸福度別にみると、幸せであると回答した人で「自分の部屋」「家庭」「学校」をほっとできる居場所と回答している傾向にある。また、孤独感別にみると、孤独を感じている人で「自分の部屋」「家庭」「学校」「職場」にほっとできる居場所がないと回答している。
- ほっとできる居場所があることで、幸福感の上昇、孤独感の低下につながるといえ、ほっとできる場所を増やしていく必要がある。

(5) 生活の満足度

- 生活に対する満足度について、0～10点で聞いたところ、平均は6.30点である。小中学生では8.01点であり、15～39歳の方が低くなっている。
- 属性別に生活満足度をみると、年代が上がるにつれて低下傾向にある。職業では「パート・アルバイト・非常勤職員」「自営業」「現在、働いていない／家事手伝い」層で低くなっており、仕事をしていなかったり、収入が不安定な職業で下がる傾向にある。
- 時間的、経済的にゆとりがないと回答した人や年収が低い層においても、生活満足度が低下する傾向にある。自分自身についての考えと生活満足度の得点との関係を見ると、どの項目においても、肯定的な考えの人と否定的な考えの人で生活満足度に差がみられ、否定的な層で生活満足度が下がっている。特に違いがあるのは「幸せである」「家族や周りの人に大事にされている」「人や社会の役に立ちたいと思う」で否定的な層で下がっている。

(6) 相談先や悩みごと

- 今、悩んでいることや心配なことが「ある」との回答は、72.4%であった。
- 年代別にみると、10代は「進学・就職のこと」「勉強のこと」、20代は「お金のこと」「仕事のこと」の割合が高くなっている。30代は「お金のこと」「仕事のこと」に加えて「家族・子育てのこと」の割合も高い。年代が上がるにつれて、悩みごとが増えている傾向がみられる。
- なお、相談する人がいない人は9.9%であった。

(7) 利用したい施設・サービス

- 若者向けの施設・サービスのうち、利用したことがある場所では「自分や友だちの家以外で、自習したり学校帰りにほっと休んだりできる場所（図書館、交流センター、こもテラス等）」の割合が41.6%と高く、次いで「家や学校・職場以外で何でも相談できる場所（電話やネットの相談を含む）」5.9%となっている。
- 利用したことはないがあれば利用したい割合をみると「自分や友だちの家以外で、夕ごはんを無料か安く食べることができる場所」が47.3%で最も高く、次いで「勉強を無料でみてくれる場所」が44.6%となっている。

(8) 定住意向

- 本調査（15～39歳）の小諸市への定住意向は、「住み続けたい」46.3%、「住み続けたくない」10.1%となっている。年代別にみると、年代が上がるにつれて「住み続けたい」割合は高くなっている。
- 居場所との関係を見ると、「住み続けたい」と回答した人で「図書館や公民館、公園など、現在住んでいる地域にある施設」をほっとできる居場所と回答しており、定住意向と公共施設、公園などの利用状況との関連がみられる。
- 本調査と令和5年度こもろ・まちづくり市民意識調査の一般市民の回答結果と比較すると、本調査の方が「住み続けたい」割合が18.3ポイント低く、「どちらともいえない」の割合が13.9ポイント高くなっており、本調査の回答者（15～39歳）で定住意向が低くなっている。
- 住み続けたい理由は、「持ち家があるから」「愛着があるから」「住環境がよいから」などとなっている。
- 住み続けたくない理由としては、「他の市町村に魅力を感じるから」「交通の便が悪いから」「買い物不便だから」などとなっている。

3-1 調査結果：子どもの生活状況調査

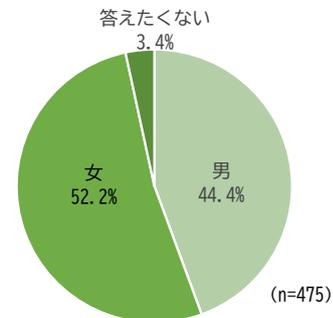
本章では、小学校5年生、中学校2年生を対象とした「子どもの生活状況調査」の結果を示す。

(1) 回答者のこと

- 回答者の学年は、小学5年生が54.1%、中学2年生が45.9%となっている。
- 居住地区は、最も多いのが「美南ガ丘小学校区」で25.9%、次いで「東小学校区」が19.8%、「水明小学校区」が19.4%となっている。
- 一緒に住んでいる人は、「お母さん」が97.1%、次いで「お父さん」が86.9%となっている。

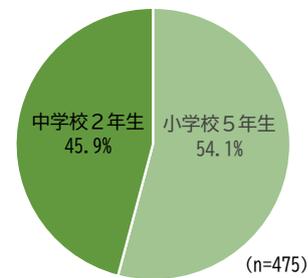
図表 1 性別

	人数	割合(%)
男	211	44.4
女	248	52.2
答えたくない	16	3.4
合計	475	100.0



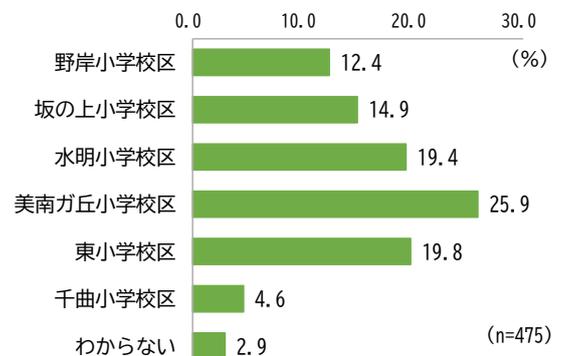
図表 2 学年

	人数	割合(%)
小学校5年生	257	54.1
中学校2年生	218	45.9
合計	475	100.0



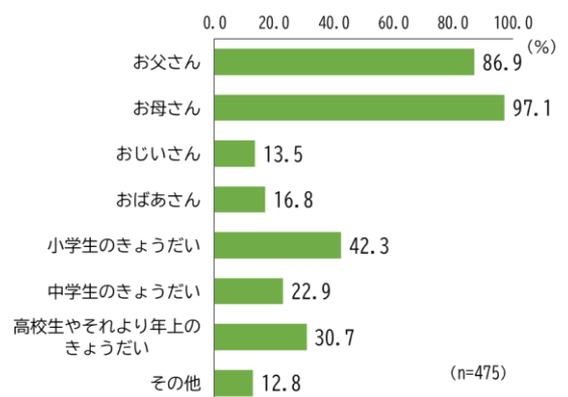
図表 3 住んでいる地区

	人数	割合(%)
野岸小学校区	59	12.4
坂の上小学校区	71	14.9
水明小学校区	92	19.4
美南ガ丘小学校区	123	25.9
東小学校区	94	19.8
千曲小学校区	22	4.6
わからない	14	2.9
合計	475	100.0



図表 4 いっしょに住んでいる人 [複数回答]

	人数	割合(%)
お父さん	413	86.9
お母さん	461	97.1
おじいさん	64	13.5
おばあさん	80	16.8
小学生のきょうだい	201	42.3
中学生のきょうだい	109	22.9
高校生やそれより年上のきょうだい	146	30.7
その他	61	12.8
回答者数	475	

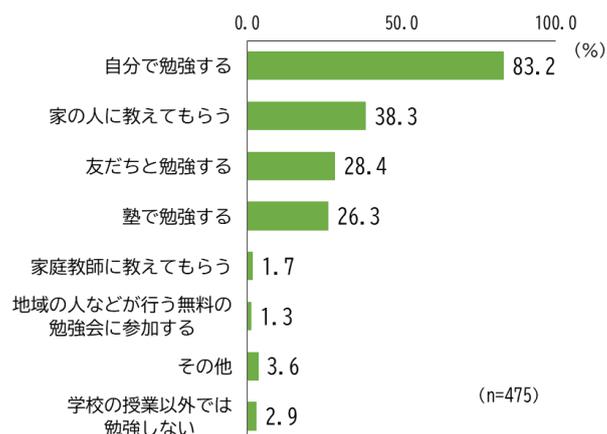


(2) ふだんの生活や勉強等の状況

- 授業以外にしている勉強は、「自分で勉強する」が 83.2%を占める。次いで「家の人に教えてもらう」38.3%、「友だちと勉強する」28.4%となっている。
- 学校の授業以外の1日あたりの勉強時間は、平日、学校がない日（土・日・祝日）ともに「30分～1時間くらい」の割合が最も高くなっている。

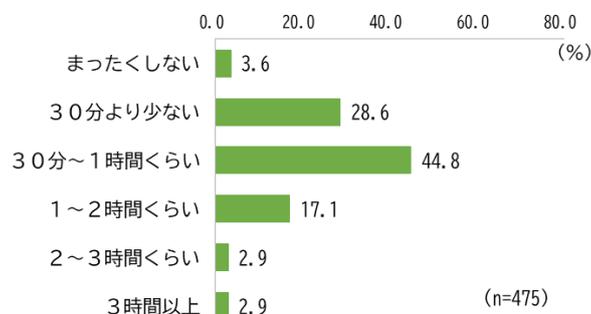
図表 5 ふだん学校の授業以外にどのように勉強しているか [複数回答]

	人数	割合(%)
自分で勉強する	395	83.2
家の人に教えてもらう	182	38.3
友だちと勉強する	135	28.4
塾で勉強する	125	26.3
家庭教師に教えてもらう	8	1.7
地域の人などが行う無料の勉強会に参加する	6	1.3
その他	17	3.6
学校の授業以外では勉強しない	14	2.9
回答者数	475	



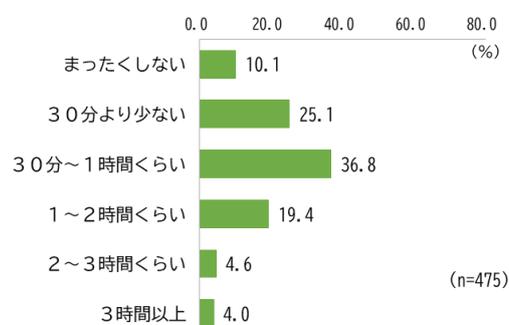
図表 6 学校の授業以外の1日あたりの勉強時間 学校がある日（月～金曜日）

	人数	割合(%)
まったくしない	17	3.6
30分より少ない	136	28.6
30分～1時間くらい	213	44.8
1～2時間くらい	81	17.1
2～3時間くらい	14	2.9
3時間以上	14	2.9
合計	475	100.0



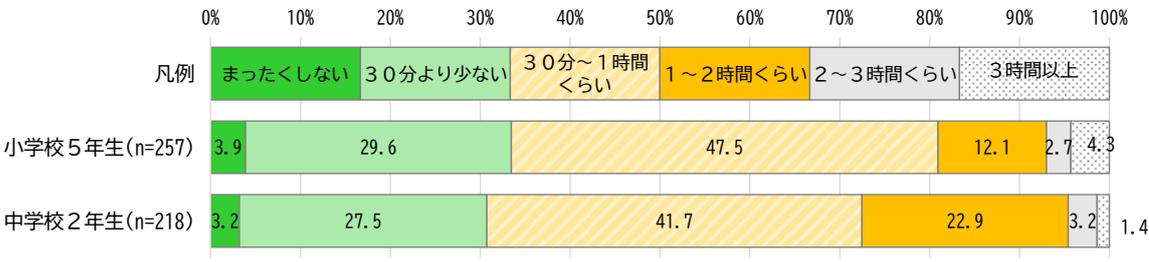
図表 7 学校の授業以外の1日あたりの勉強時間 学校がない日（土・日曜日・祝日）

	人数	割合(%)
まったくしない	48	10.1
30分より少ない	119	25.1
30分～1時間くらい	175	36.8
1～2時間くらい	92	19.4
2～3時間くらい	22	4.6
3時間以上	19	4.0
合計	475	100.0

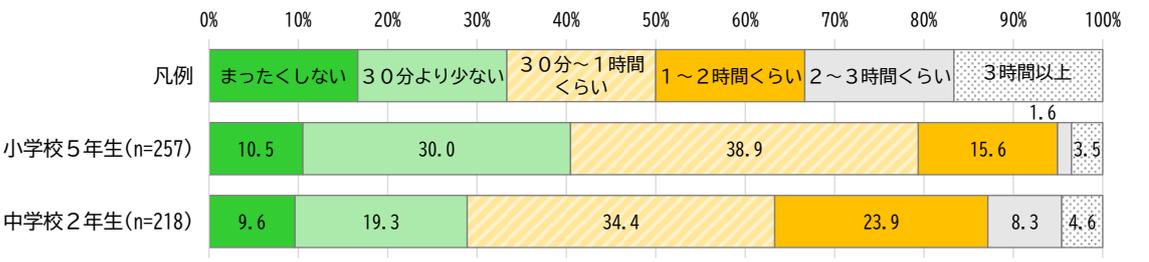


• 学年別に学校の授業以外の1日あたりの勉強時間をみると、「まったくしない」の割合は変わらないが、中学生になると「1～2時間くらい」の割合が高くなり、勉強時間が伸びている。

図表 8 学年別 学校の授業以外の1日あたりの勉強時間 学校がある日（月～金曜日）



図表 9 学年別 学校の授業以外の1日あたりの勉強時間 学校がない日（土・日曜日・祝日）

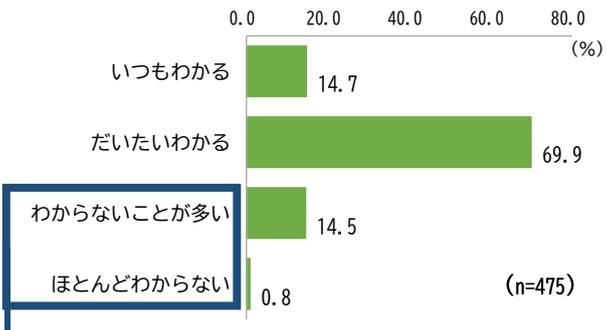


(3) 学校の授業の理解度

• 学校の授業については、「いつもわかる」「だいたいわかる」があわせて84.6%となっている。一方で、「わからないことが多い」「ほとんどわからない」はあわせて15.3%となっている。
 • 「わからないことが多い」「ほとんどわからない」と答えた人のうち、いつごろから授業がわからなくなったかをきくと、「小学5・6年生のころ」・「中学1年生のころ」の割合が高く、それぞれ32.9%・28.8%（合計で61.7%）となっている。

図表 10 学校の授業の理解度

	人数	割合(%)
いつもわかる	70	14.7
だいたいわかる	332	69.9
わからないことが多い	69	14.5
ほとんどわからない	4	0.8
合計	475	100.0



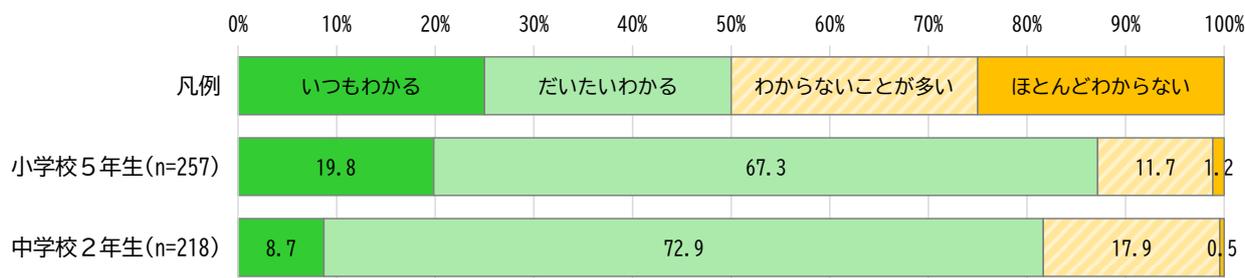
図表 11 回答対象者：授業がわからないことが多い、ほとんどわからない人
いつごろから授業がわからないか

	人数	割合(%)
小学1・2年生のころ	2	2.7
小学3・4年生のころ	16	21.9
小学5・6年生のころ	24	32.9
中学1年生のころ	21	28.8
中学2年生のころ	10	13.7
回答者数	73	100.0



- 学年別に学校の授業の理解度をみると、中学2年生で「いつもわかる」の割合が下がり、「だいたいわかる」「わからないことが多い」の割合が高くなっている。

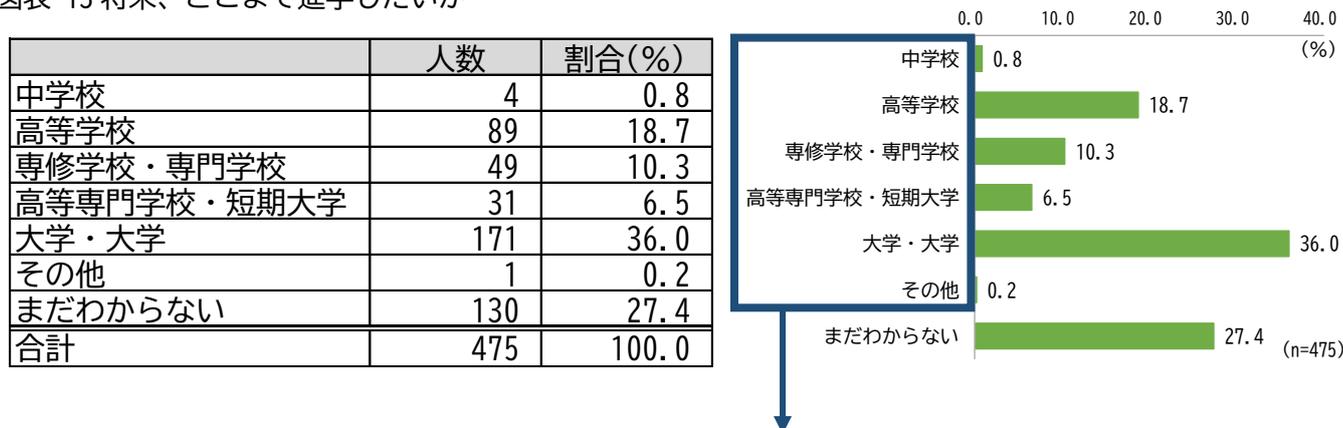
図表 12 学年別 学校の授業の理解度



(4) 今後の進路希望

- 進学先の希望は、「大学・大学院」が36.0%と最も高く、次いで「高等学校」が18.7%となっている。
- 進学先についての考えは「行きたい学校やなりたい職業があるから」が70.4%と最も高い。一方で、「早く働く必要があるから」(7.5%)「家にお金がないと思うから」(3.2%)、といった外的要因でやむをえず進路を判断するケースもみられる。

図表 13 将来、どこまで進学したいか



図表 14 回答対象者：進学を希望している人 進学先についての考え [複数回答]

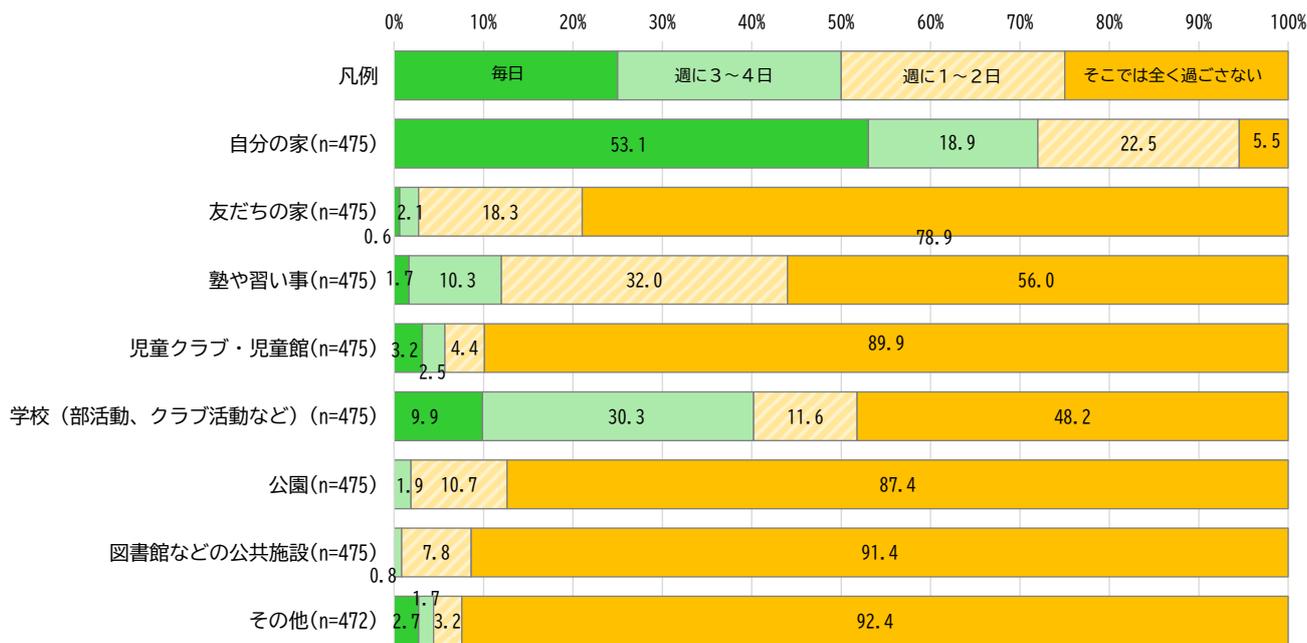


(5) 平日の放課後の過ごし方・ほっとできる場所

1) 平日の放課後の過ごし方

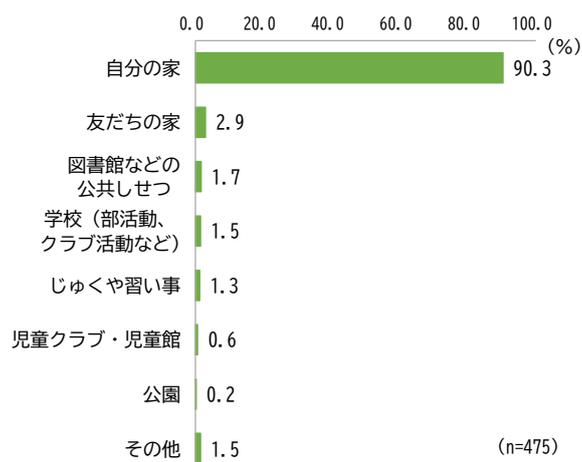
- 平日の放課後に過ごす場所をきくと、自分の家では「毎日過ごす」が53.1%である。次いで、学校（部活動、クラブ活動など）で過ごす割合も一定数見られ、頻度としては「週に3～4日」が多くなっている。
- 塾や習い事や友だちの家は「週に1～2日」の割合が高く、それぞれ32.0%、18.3%となっている。
- このうち、一番ほっとできる場所をきくと、自分の家が90.3%と大半を占める。

図表 15 平日の放課後（夕方6時くらいまで）に過ごす場所



図表 16 一番ほっとできる場所

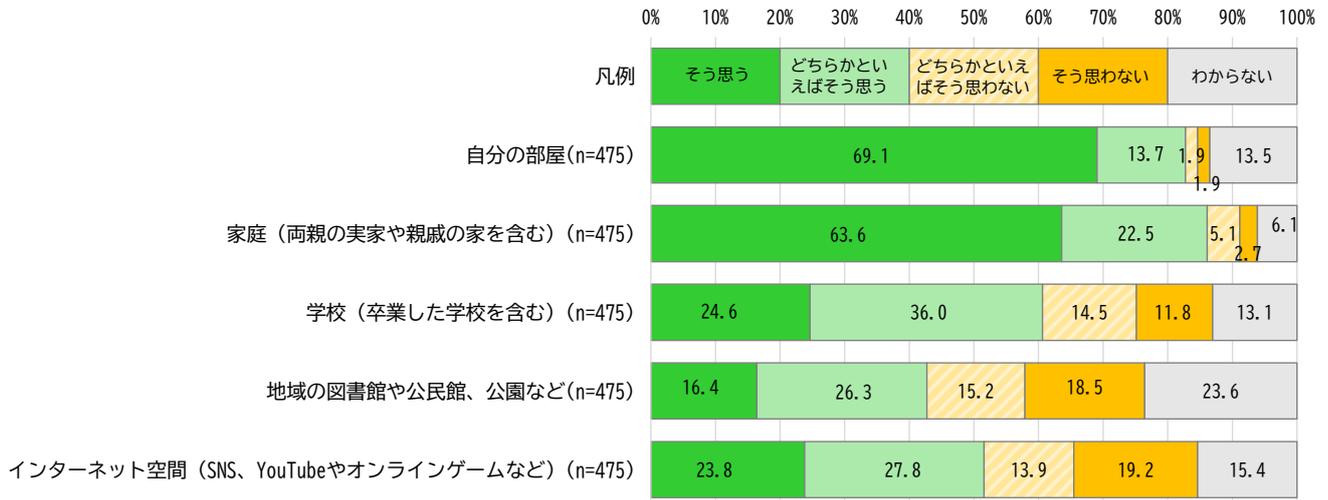
	人数	割合(%)
自分の家	429	90.3
友だちの家	14	2.9
図書館などの公共しせつ	8	1.7
学校（部活動、クラブ活動など）	7	1.5
じゅくや習い事	6	1.3
児童クラブ・児童館	3	0.6
公園	1	0.2
その他	7	1.5
合計	475	100.0



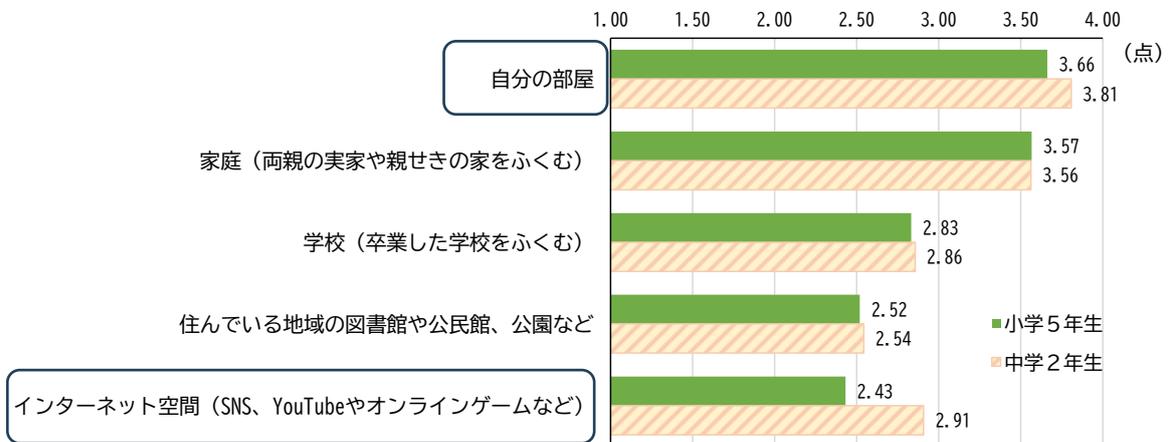
2) ほっとできる居心地のよい場所

- 提示された場所が自分の居場所になっているかについて、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」をあわせた割合をみると、自分の部屋、家庭は、それぞれ8割程度と高くなっている。学校は60.6%、地域の公民館や図書館、公園などは42.7%、インターネット空間は51.6%となっている。
- 学年別にみると、自分の部屋とインターネット空間は、中学2年生で、自分の居場所と捉えている傾向にある。インターネット空間は、年齢が上がるにつれて、重要な居場所になりつつある。

図表 17 自分の居場所（ほっとできる居心地のよい場所）



図表 18 学年別 自分の居場所（ほっとできる居心地のよい場所）



※5%水準で統計的検定をした結果、違いが見られた項目を囲っている

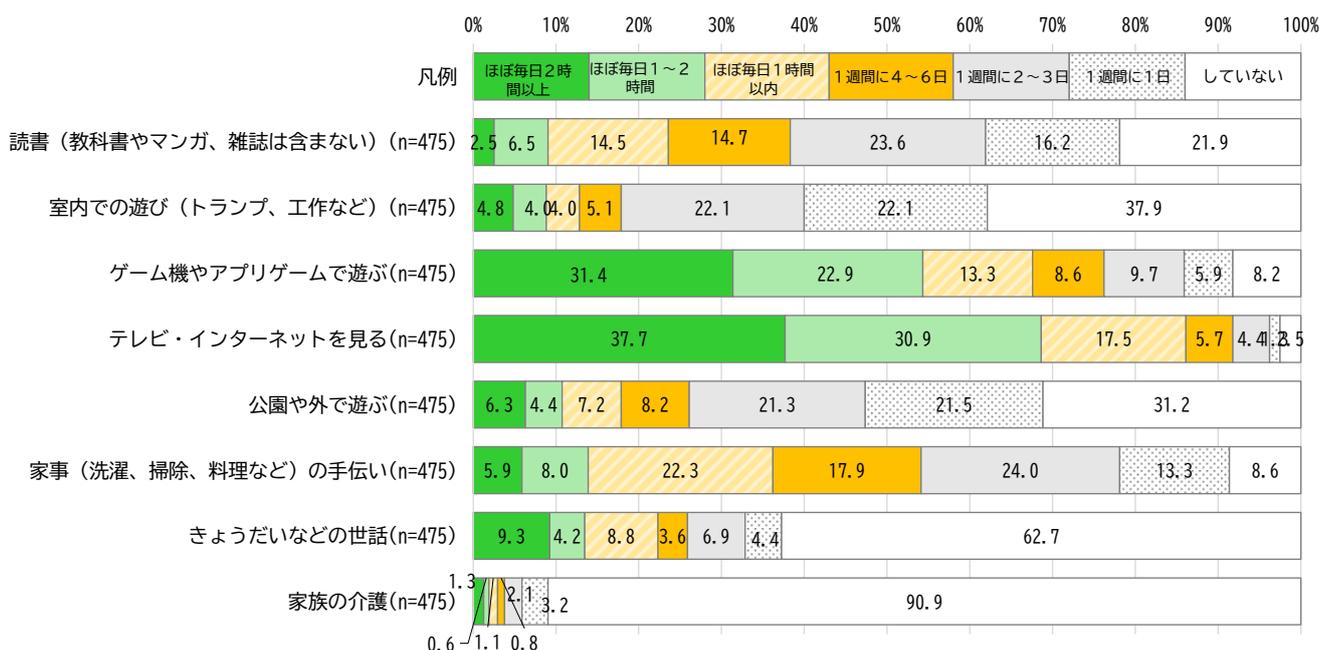
※「そう思う」4点、「どちらかといえばそう思う」3点、「どちらかといえばそう思わない」2点、「そう思わない」1点とし、「わからない」は除き得点を算出

(6) ふだんの活動、生活習慣の状況（食事、睡眠）

1) ふだんの活動にあてる時間

- 普段の活動では、テレビ・インターネットを見ること、ゲーム機やゲームアプリで遊ぶことに比較的長い時間を費やしている。毎日1時間以上の割合（「毎日1～2時間」「2時間以上」を合わせた割合）をみると、「テレビ・インターネットを見る」は68.6%、「ゲーム機やゲームアプリで遊ぶ」は54.3%となっている。
- 家族のケアをする活動をみると、毎日（2時間以上）していると答えた人の割合は、それぞれ「家事」で5.9%、「きょうだいなどの世話」で9.3%、「家族の介護」で1.3%となっている。

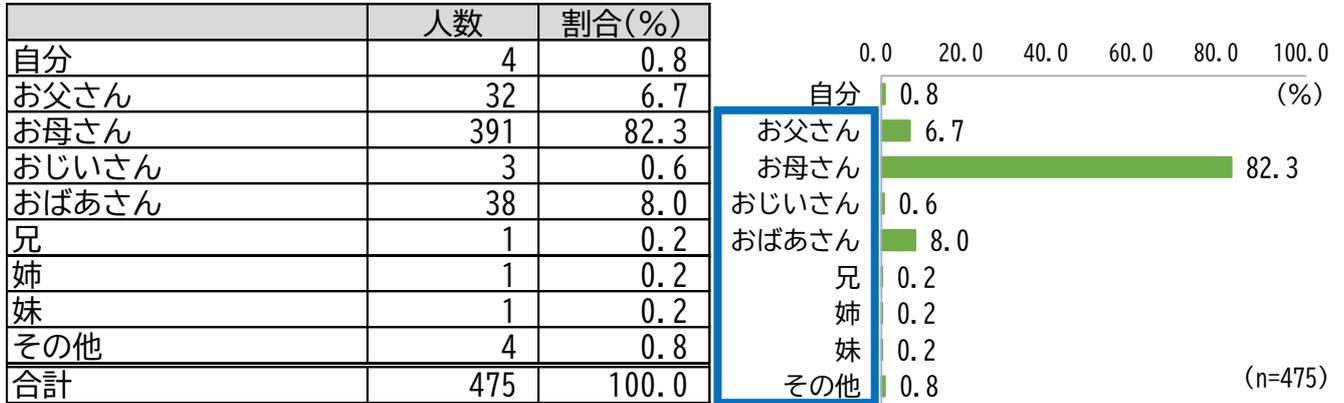
図表 19 ふだんの活動にあてる時間



2) 食事の準備

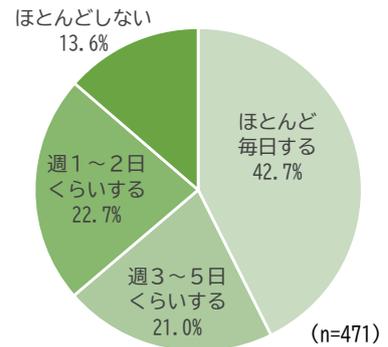
- 主に食事をつくる人は、「お母さん」が82.3%である。「自分」との回答は0.8%（回答者4名）、「兄・姉・妹」との回答は0.6%（回答者3名）である。
- 食事の準備などの手伝いをしている頻度については、「ほとんど毎日する」が42.7%と最も高く、次いで「週1～2日くらいする」が22.7%となっている。「ほとんどしない」と回答した人は13.6%となっている。

図表 20 主に食事をつくる人



図表 21 回答対象者：主につくる人「自分」以外の人
食事の準備などの手伝い

	人数	割合(%)
ほとんど毎日する	201	42.7
週3～5日くらいする	99	21.0
週1～2日くらいする	107	22.7
ほとんどしない	64	13.6
合計	471	100.0

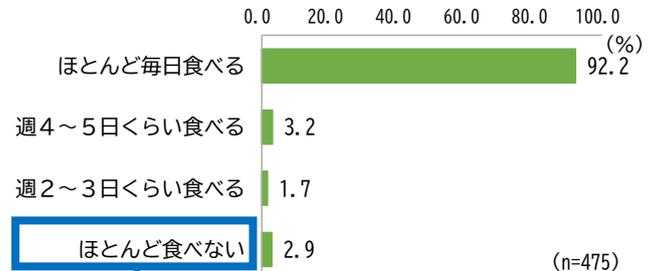


3) 朝食・夕食の状況

- 朝食を食べているかどうかについては、「ほとんど毎日食べる」が92.2%と大半を占める。一方で「ほとんど食べない」割合は2.9%となっている。
- 食べない理由としては「朝はおなかがすかないから」が64.3%と大半となっている。
- 夕食については、「ほとんど毎日食べる」が97.7%となっている。「ほとんど食べない」と回答した人はいなかった。

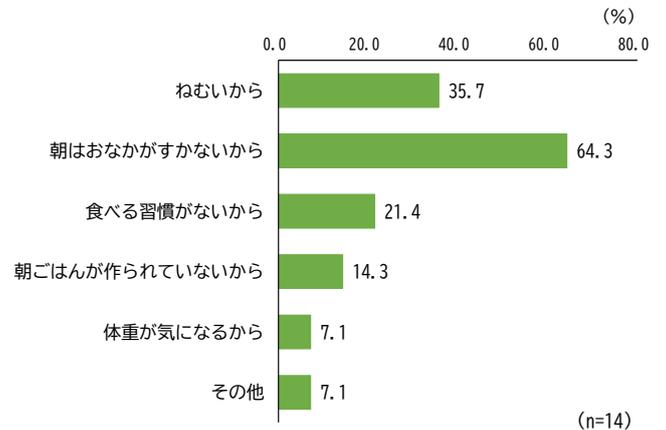
図表 22 朝食を食べるか

	人数	割合(%)
ほとんど毎日食べる	438	92.2
週4～5日くらい食べる	15	3.2
週2～3日くらい食べる	8	1.7
ほとんど食べない	14	2.9
合計	475	100.0



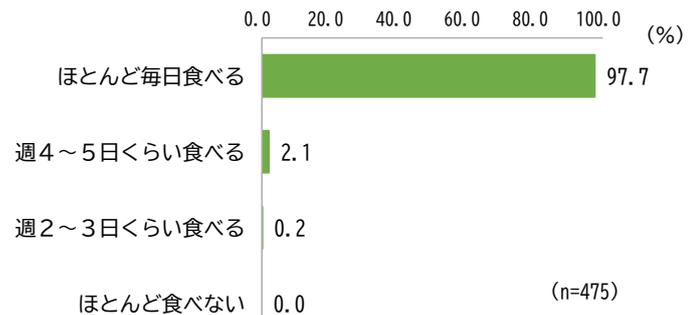
図表 23 回答対象者：朝食を食べない人
食べない理由[複数回答]

	人数	割合(%)
ねむいから	5	35.7
朝はおなかがすかないから	9	64.3
食べる習慣がないから	3	21.4
朝ごはんが作られていないから	2	14.3
体重が気になるから	1	7.1
その他	1	7.1
回答者数	14	



図表 24 夕食を食べるか

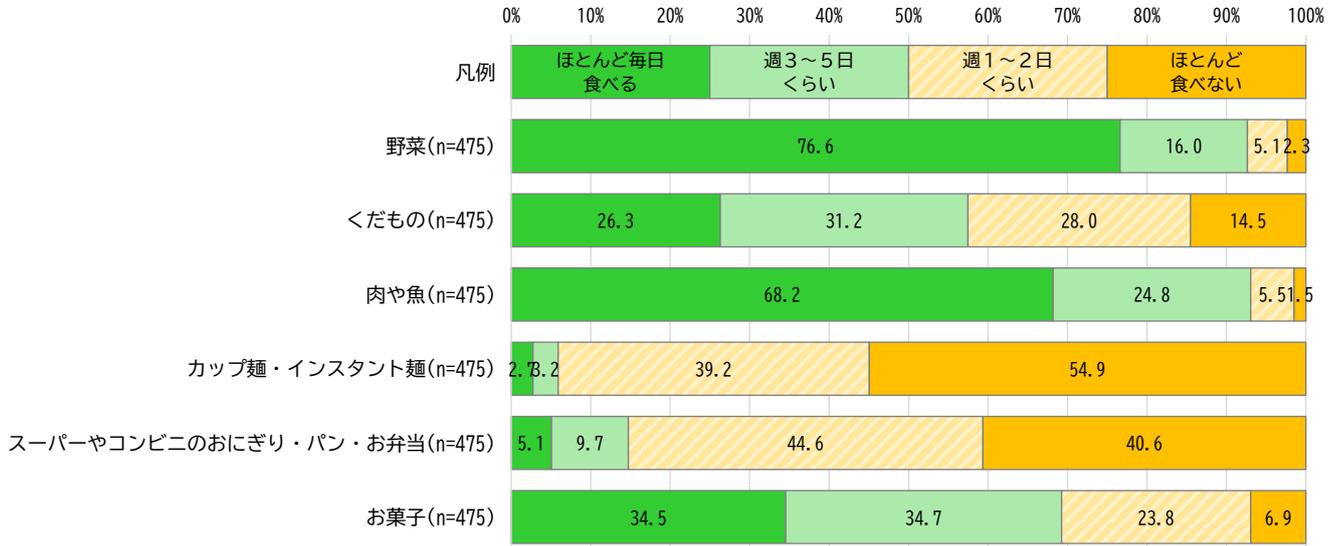
	人数	割合(%)
ほとんど毎日食べる	464	97.7
週4～5日くらい食べる	10	2.1
週2～3日くらい食べる	1	0.2
ほとんど食べない	0	0.0
合計	475	100.0



4) ふだんの食生活

- 普段の食べ物の内容をみると、野菜は「ほとんど毎日食べる」が76.6%、肉や魚は「ほとんど毎日食べる」が68.2%となっている。スーパーやコンビニのおにぎり・パン・お弁当、カップ麺・インスタント麺は、「週1～2回程度食べる」の割合が高く、それぞれ44.6%、39.2%となっている。

図表 25 ふだんの食べ物の内容（給食以外）

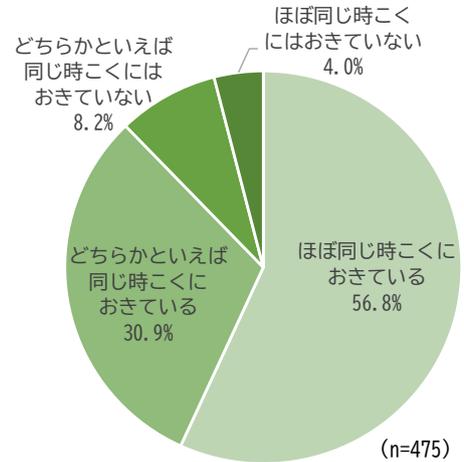


5) 睡眠時間

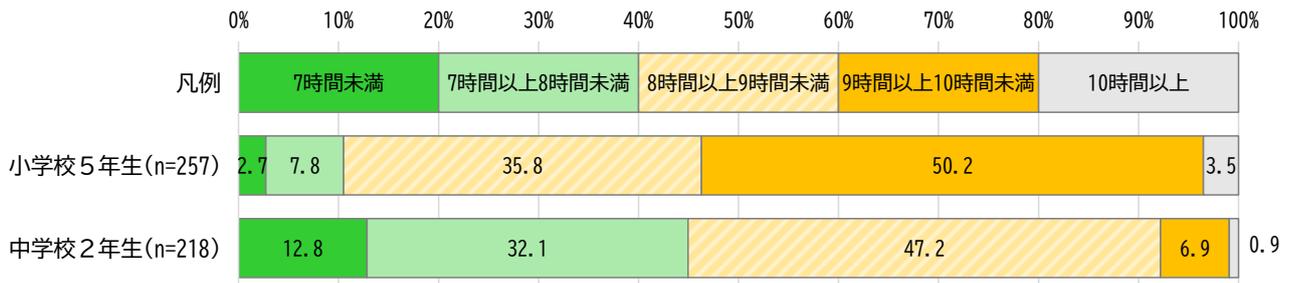
- 平日、ほぼ同じ時刻に起きるかについてきくと、「ほぼ同じ時刻におきている」と「どちらかといえば同じ時刻におきている」をあわせると 87.7%である。
- 厚生労働省「健康づくりのための睡眠ガイド 2023」によると、小学生は9～12時間、中学・高校生は8～10時間の睡眠時間が推奨されている。推奨時間以上の睡眠を取れている割合は、小学5年生、中学2年生で半数程度である。

図表 26 平日、ほぼ同じ時刻に起きるか

	人数	割合(%)
ほぼ同じ時刻におきている	270	56.8
どちらかといえば同じ時刻におきている	147	30.9
どちらかといえば同じ時刻にはおきていない	39	8.2
ほぼ同じ時刻にはおきていない	19	4.0
合計	475	100.0



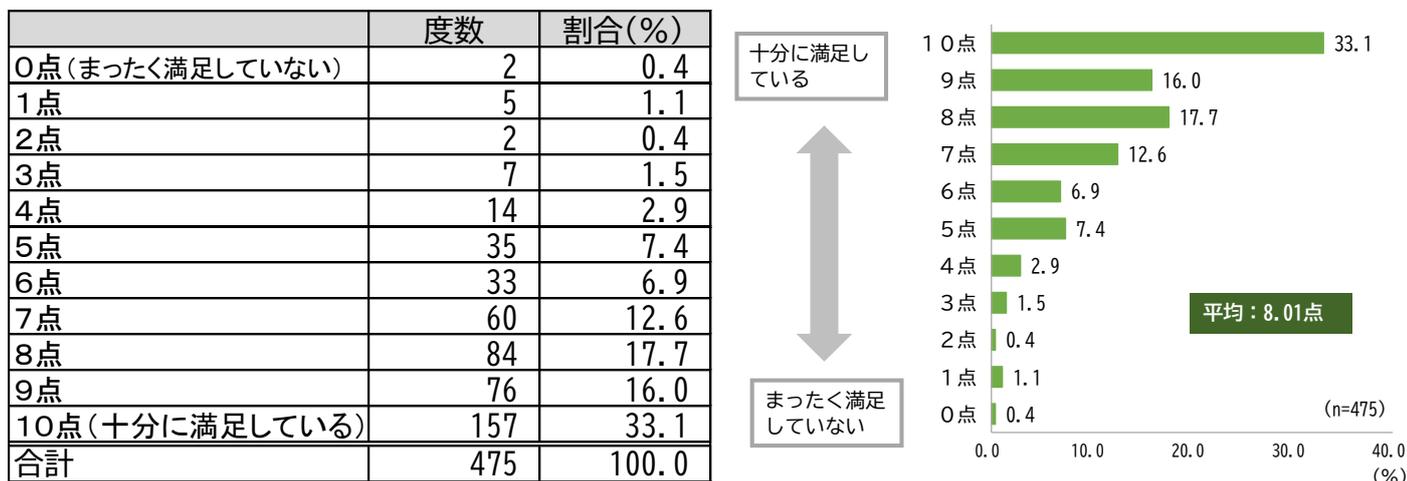
図表 27 学年別 睡眠時間



(7) 生活に関する満足度・自己肯定感

- 生活に対する満足度について、0～10点で評価をきいたところ、平均は8.01点となった。学年別にみると、小学5年生は8.23点、中学2年生は7.75点であり、中学2年生の方が低くなっている。
- 現在の自分が好きかについては、「好き」「どちらかといえば好き」をあわせて74.3%となっている。自己肯定感も中学2年生の方が、低くなっている。

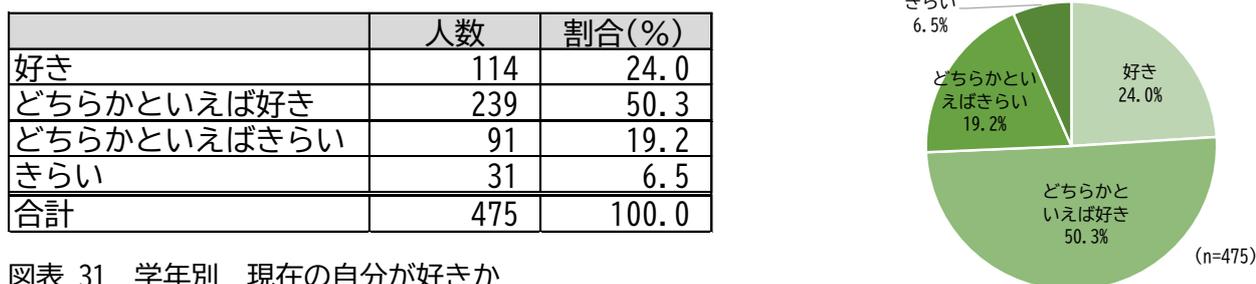
図表 28 生活に対する満足度



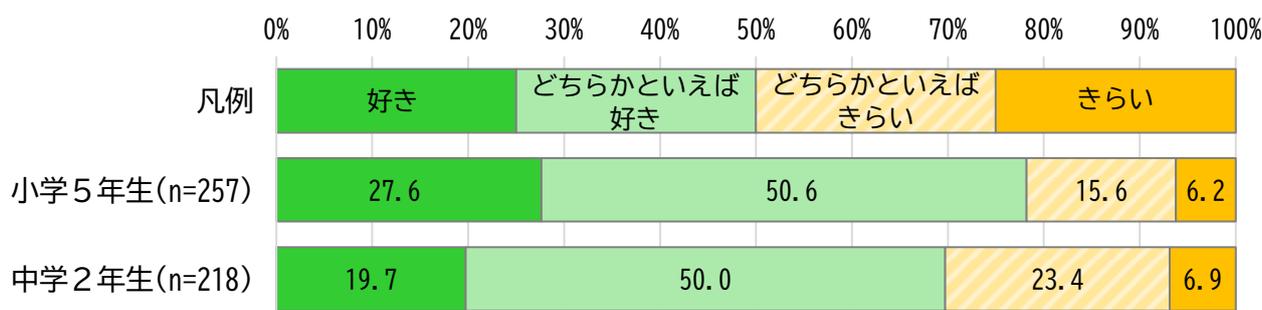
図表 29 学年別 生活に対する満足度

	単位 (%)										平均点	
	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	
全体(n=475)	0.4	1.1	0.4	1.5	2.9	7.4	6.9	12.6	17.7	16.0	33.1	8.01
小学5年生(n=257)	0.4	1.6	0.0	1.2	1.6	8.9	5.4	11.7	10.5	19.1	39.7	8.23
中学2年生(n=218)	0.5	0.5	0.9	1.8	4.6	5.5	8.7	13.8	26.1	12.4	25.2	7.75

図表 30 現在の自分が好きか



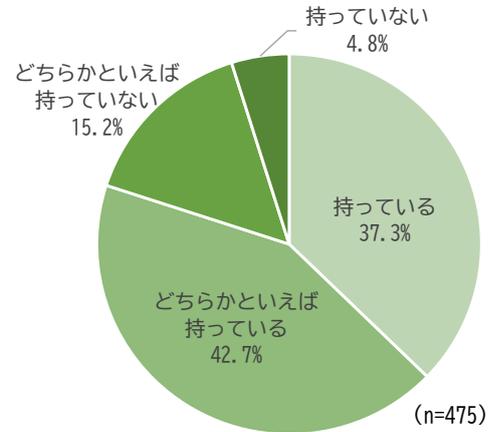
図表 31 学年別 現在の自分が好きか



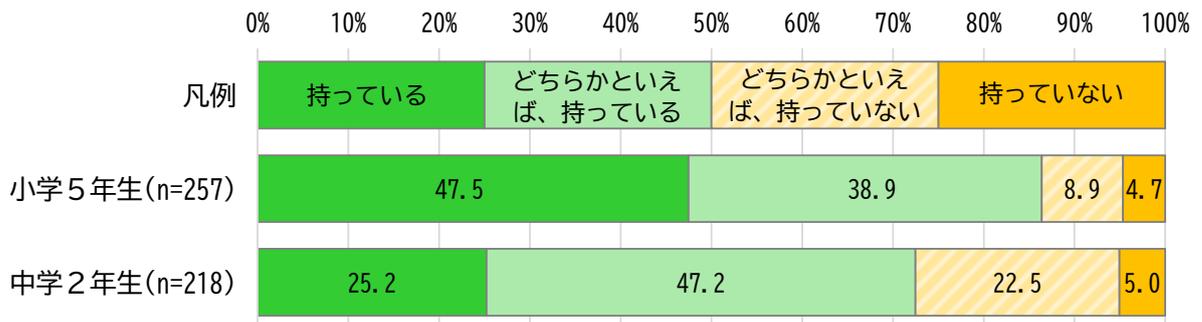
- 将来に明るい希望を持っているかについては、「持っている」「どちらかといえば持っている」をあわせた割合は80.0%となっている。中学2年生の方がその割合は下がっている。
- 学校の授業の理解度別にみると、「いつもわかる」と回答した児童・生徒ほど、将来に明るい希望を持っている割合が高くなっている。

図表 32 将来について明るい希望を持っているか

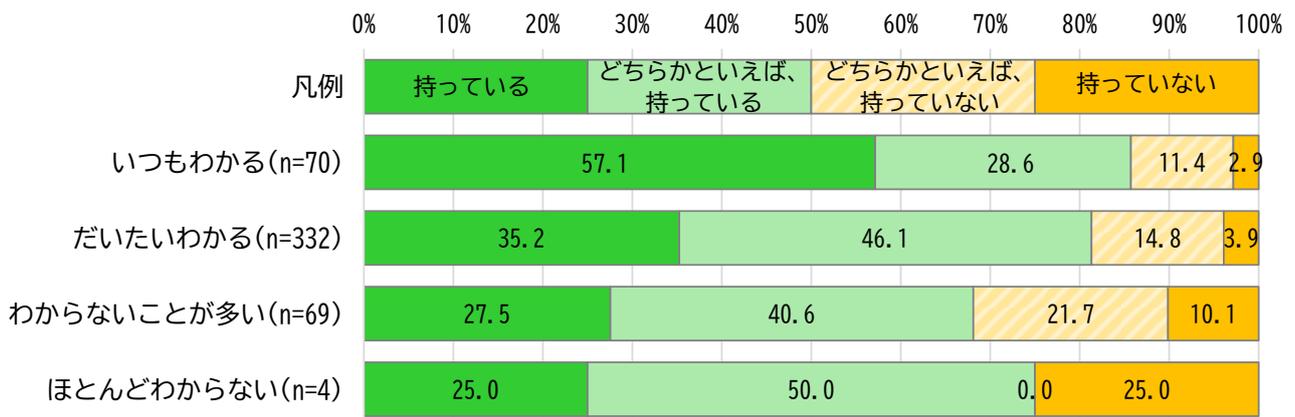
	人数	割合(%)
持っている	177	37.3
どちらかといえば、持っている	203	42.7
どちらかといえば、持っていない	72	15.2
持っていない	23	4.8
合計	475	100.0



図表 33 学年別 将来について明るい希望を持っているか



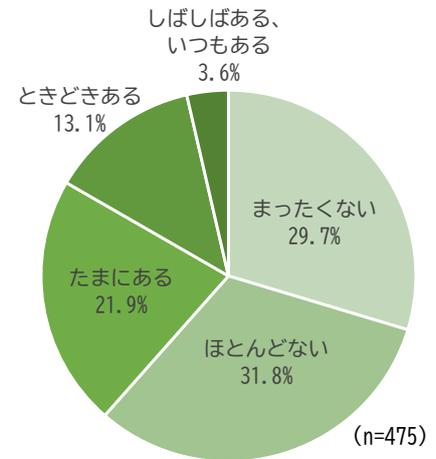
図表 34 授業の理解度別 将来について明るい希望を持っているか



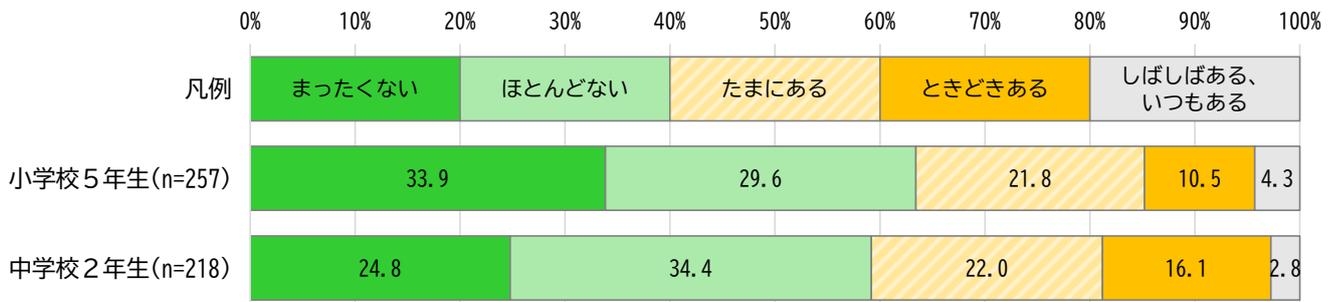
- 孤独と感ることがあるかについては、「たまにある」「ときどきある」「しばしばある、いつもある」をあわせた割合は 38.6%である。
- 中学2年生の方が「まったくない」の割合が下がっている。

図表 35 孤独と感ることがあるか

	人数	割合(%)
まったくない	141	29.7
ほとんどない	151	31.8
たまにある	104	21.9
ときどきある	62	13.1
しばしばある、いつもある	17	3.6
合計	475	100.0



図表 36 学年別 孤独と感ることがあるか

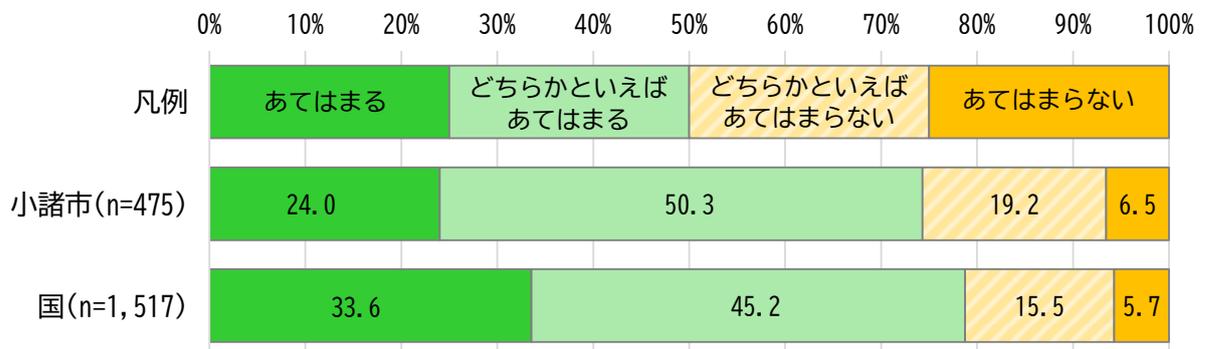


〈参考：令和4年内閣府「こども・若者の意識と生活に関する調査」との比較〉

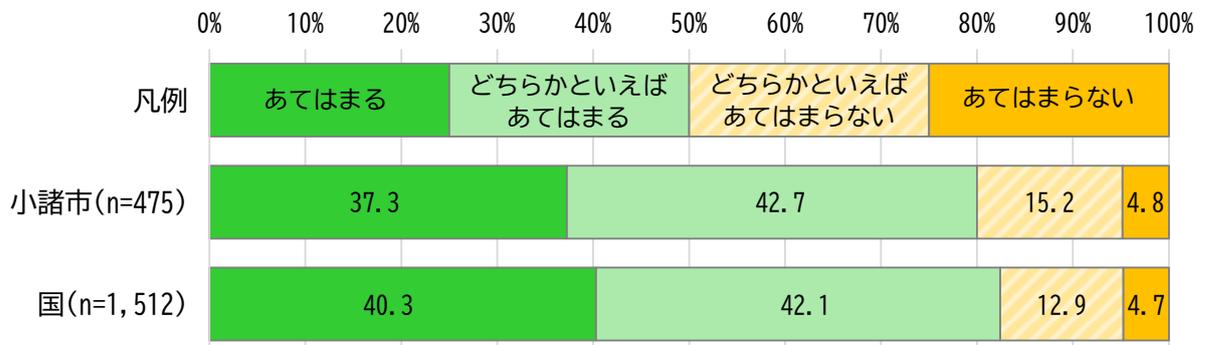
■内閣府「こども・若者の意識と生活に関する調査」実施概要
 ・実施時期……令和4年11月
 ・対象……10～14歳（令和4年4月1日現在）
 ・有効回収数……1,520

- ・現在の自分が好きかについては、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の割合は、国の78.8%に比べて小諸市は74.3%で、4.5ポイント低くなっている。
- ・将来に明るい希望を持っているかについては、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の割合は、国の82.4%に比べて小諸市は80.0%である。
- ・孤独と感ずることが「たまにある」「ときどきある」「しばしばある、いつもある」の合計割合は、国の24.4%に比べて小諸市は38.6%で、14.2ポイント高くなっている。

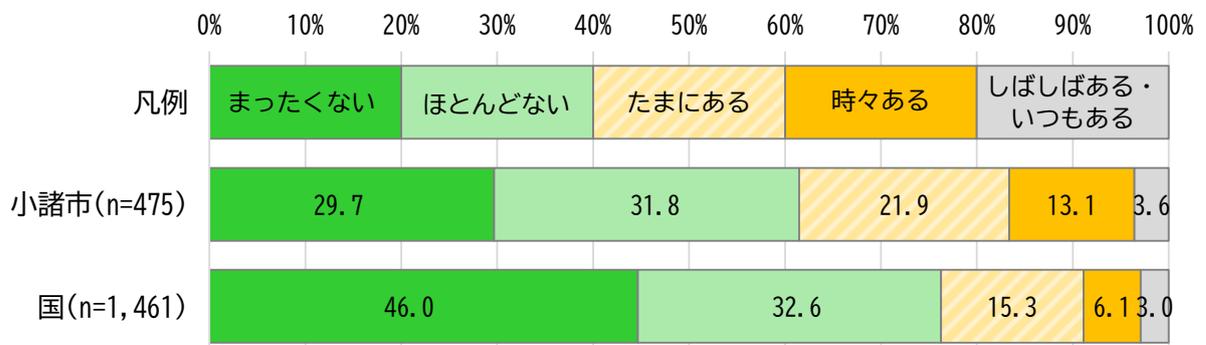
○現在の自分が好きか



○将来について明るい希望を持っているか



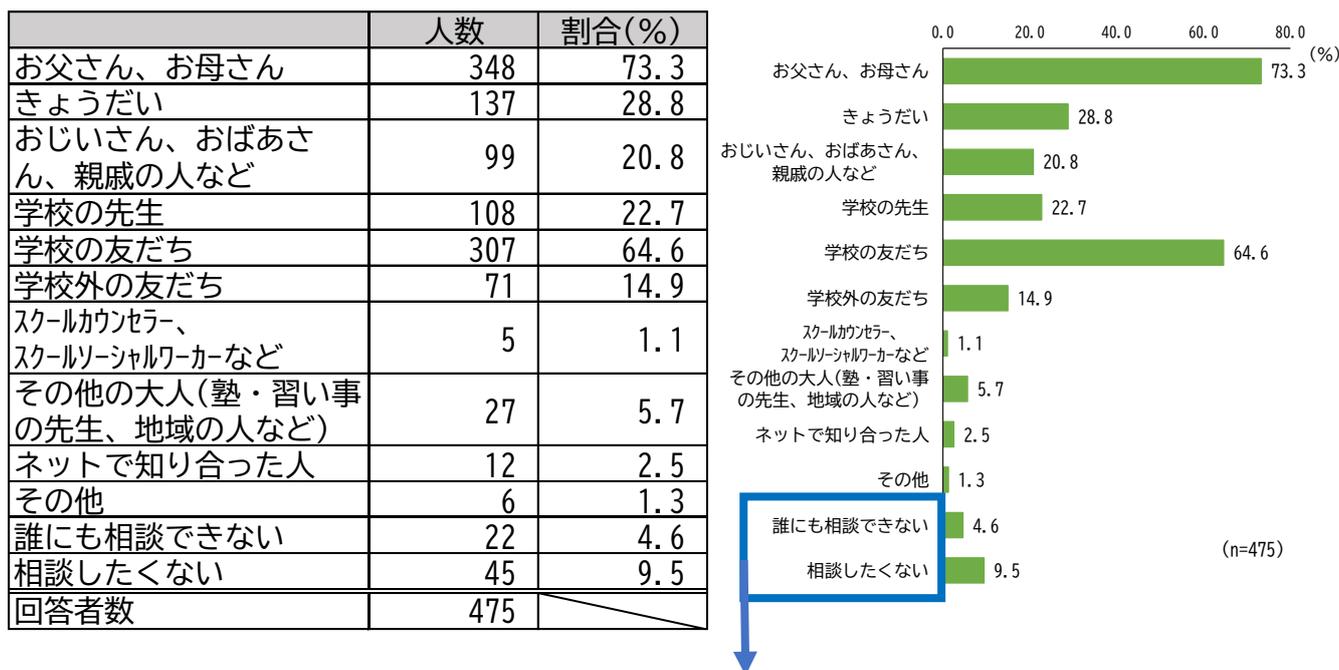
○孤独と感ずることがあるか



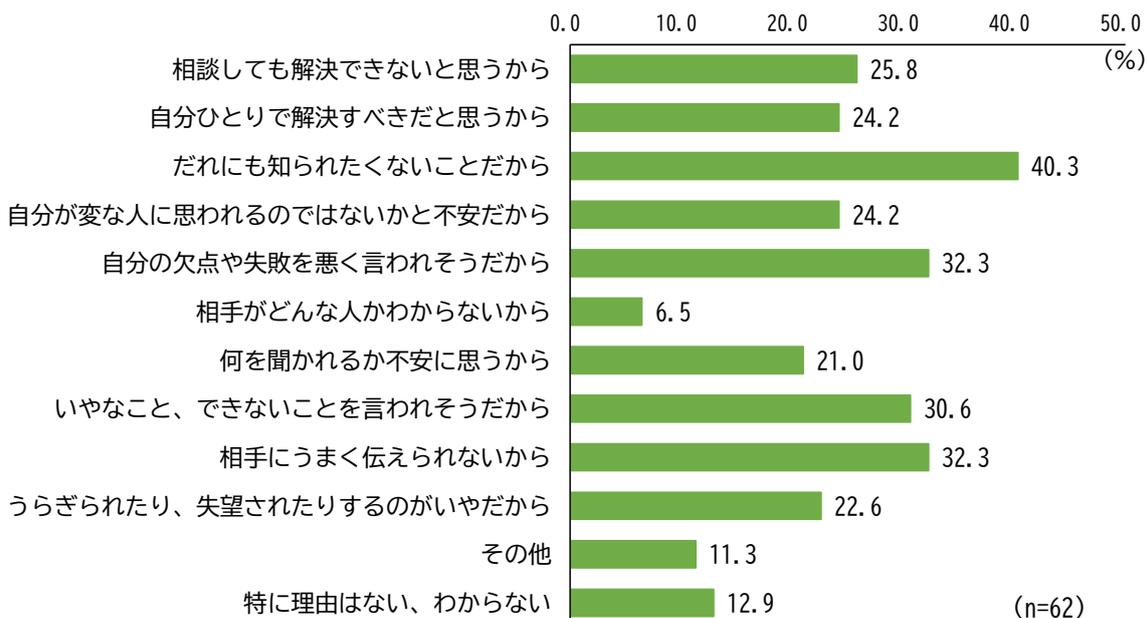
(8) 相談できる場所

- 相談できると思う人は、「親」が73.3%と最も高く、次いで「学校の友だち」が64.6%となっている。一方「だれにも相談できない」「相談したくない」はあわせて14.1%である。
- 相談できない／したくない理由としては、「だれにも知られたくないことだから」が40.3%と最も高くなっている。これに次ぐのが「自分の欠点や失敗を悪く言われそうだから」「相手にうまく伝えられないから」「いやなこと、できないことを言われそうだから」となっている。

図表 37 相談できると思う人[複数回答]



図表 38 回答対象者：だれにも相談できない、相談したくない人
相談できない/相談したくない理由[複数回答]



(9) 普段の考え方

【情緒】

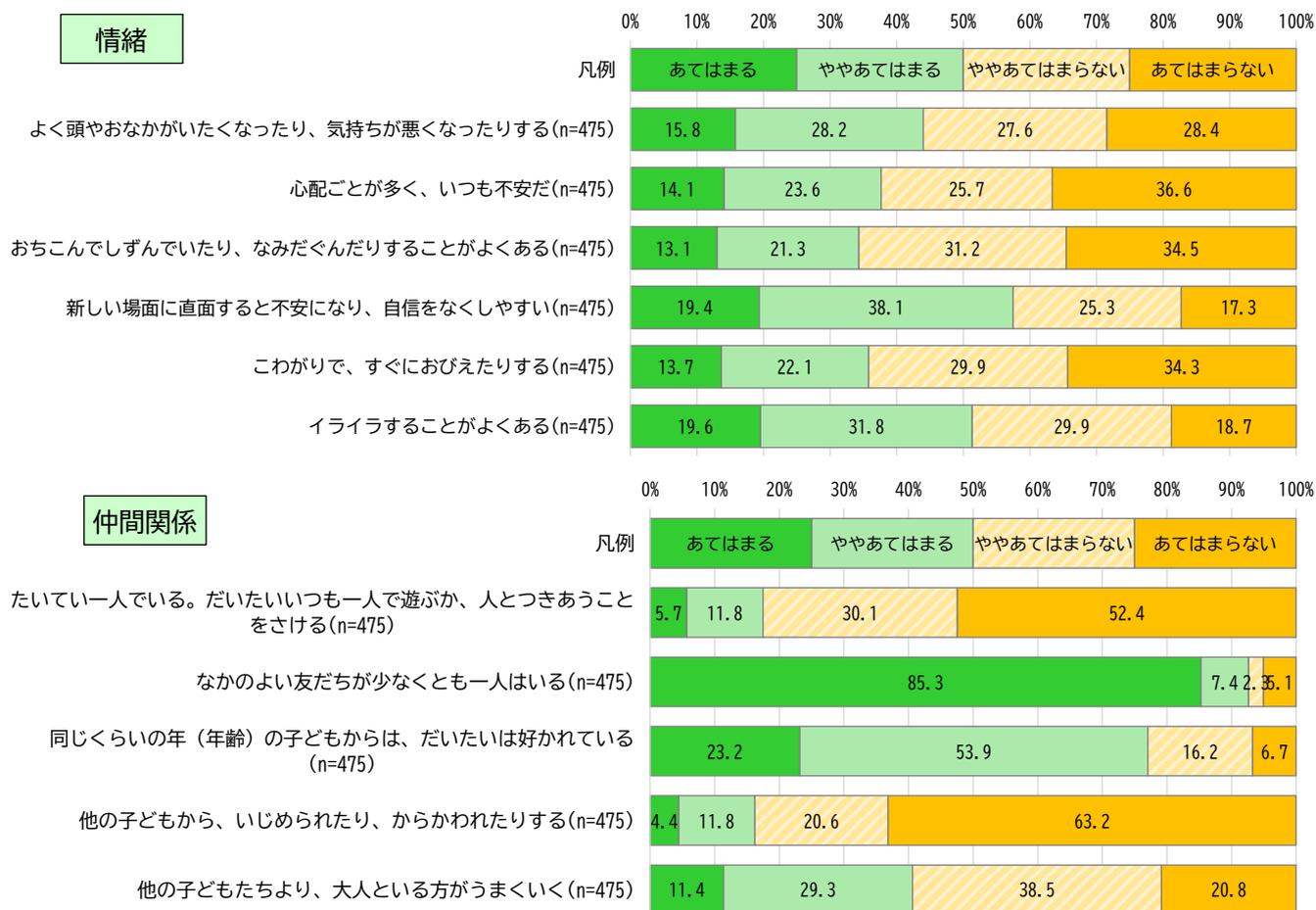
- 情緒面では、ポジティブな傾向とネガティブな傾向が同程度みられるが、ややポジティブな傾向となっている。一方、ネガティブな傾向（「あてはまる」「ややあてはまる」）の割合が高いのは「新しい場面に直面すると不安になり、自信をなくしやすい」「イライラすることがよくある」で、それぞれ 57.5%、51.4% となっている。

【仲間関係】

- 「仲のよい友だちが少なくとも一人はいる」では、「あてはまる」割合は 85.3% である。また「同じくらいの年の子どもからは、だいたい好かれている」では、「ややあてはまる」が 53.9%、「あてはまる」と合わせると 77.1% となっている。
- 仲間関係のネガティブな傾向についてみると、「あてはまる」「ややあてはまる」の割合が高いのは「他の子どもたちより、大人という方がうまくいく」で、40.7% となっている。

※この項目は、SDQ (Strengths and Difficulties Questionnaire: 子どもの強さと困難さアンケート) に基づき、25 の項目のうち、「情緒」「仲間関係」「向社会性」の3観点に関する16項目を調査項目とした。なお、SDQは親が子どもを評価する調査であることに留意が必要である。

図表 39 普段の考え方

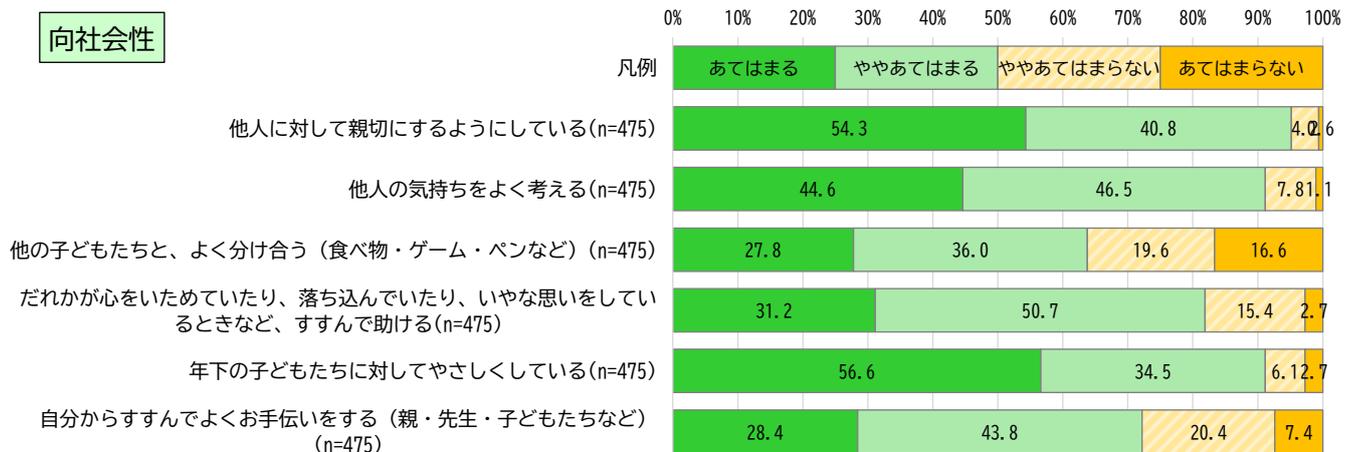


【向社会性】

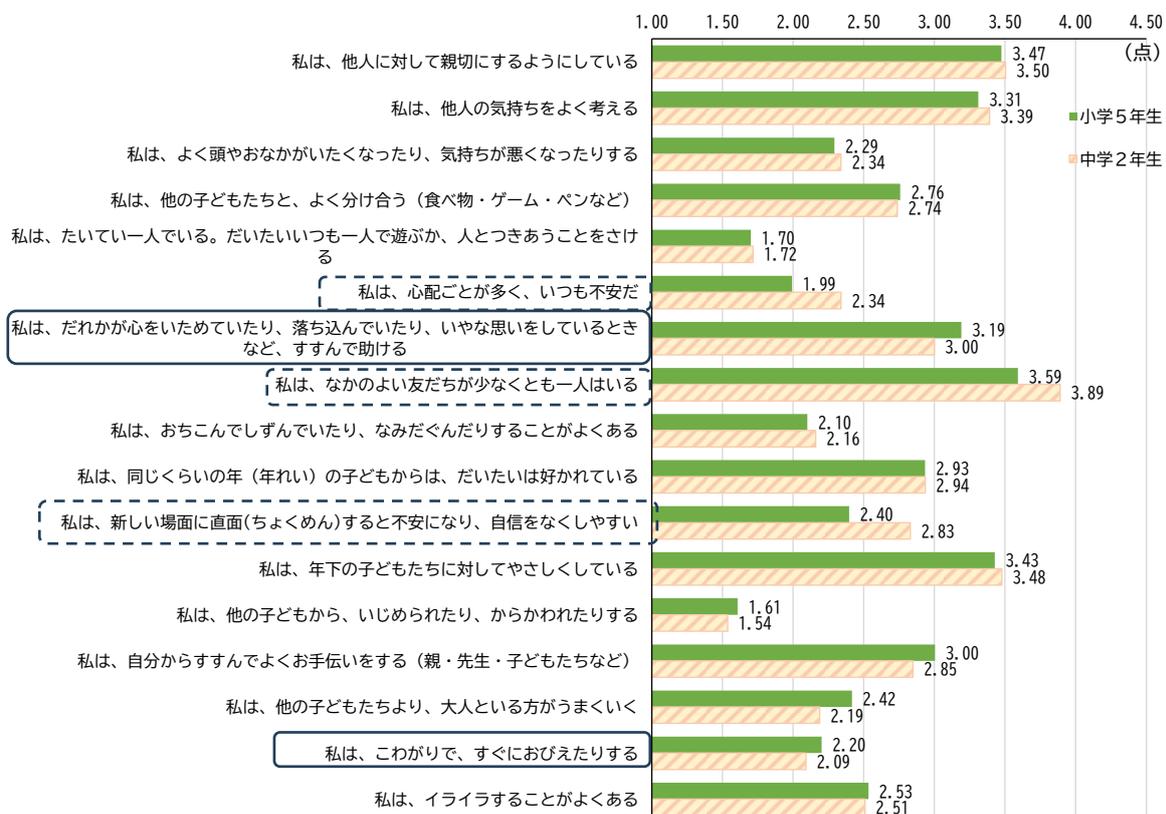
- 向社会性については、いずれもポジティブな傾向にある。「あてはまる」「ややあてはまる」をあわせた割合が特に高いのは「他人に対して親切にしているようにしている」で95.1%となっている。一方で肯定的な割合が比較的低いのは、「他の子どもたちと、よく分け合う」（合計63.8%）、「自分からすすんでよくお手伝いをする」（合計72.2%）などとなっている。

【学年別の傾向】

- 小学5年生で得点が高いのは「だれかが心をいためていたり、落ち込んでいたり、いやな思いをしているときなど、すすんで助ける」「自分からすすんでよくお手伝いをする」などであり、中学2年生で高い項目は「心配ごとが多く、いつも不安だ」「私は、なかのよい友だちが少なくとも一人はいる」「新しい場面に直面すると不安になり、自信をなくしやすい」である。



図表 40 学年別 普段の考え方

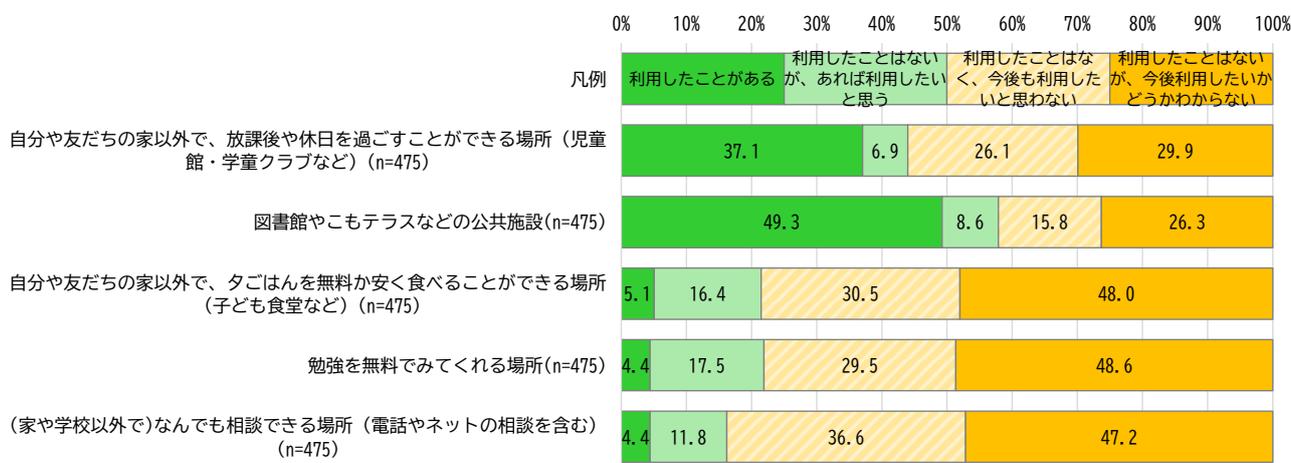


□…小学5年生で高い項目、 []…中学2年生で高い項目
5%水準で統計的検定をした結果、学年で違いが見られた項目を囲っている

(10) 利用したことがある場所

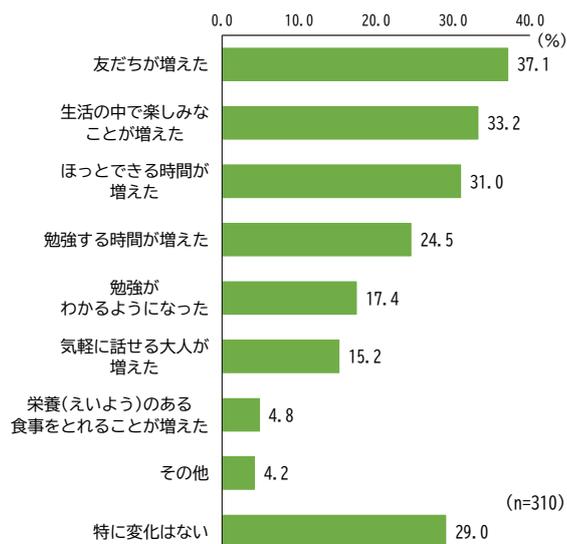
- 提示した施設・サービスのうち、利用したことがあるものは「図書館やこもテラスなどの公共施設」が49.3%、次いで「放課後や休日を過ごすことができる場所」が37.1%となっている。
- 「利用したことはないが、あれば利用したい」との回答をみると、「勉強を無料で見てくれる場所」が17.5%で最も高く、次いで「夕食が無料か安い場所」が16.4%となっている。
- いずれかの施設・サービスを利用したことがある人にとって、利用したことで生じた変化をきいたところ、最も割合が高いのが「友だちが増えた」で37.1%である。次いで「生活の中で楽しみなことが増えた」で33.2%、「ほっとできる時間が増えた」で31.0%となっている。

図表 41 利用したことがある場所



図表 42 回答対象者：いずれかの施設・サービスを利用したことがある人
その場所を利用したことで生じた変化 [複数回答]

	人数	割合(%)
友だちが増えた	115	37.1
生活の中で楽しみなことが増えた	103	33.2
ほっとできる時間が増えた	96	31.0
勉強する時間が増えた	76	24.5
勉強がわかるようになった	54	17.4
気軽に話せる大人が増えた	47	15.2
栄養(えいよう)のある食事をとれることが増えた	15	4.8
その他	13	4.2
特に変化はない	90	29.0
回答者数	310	



(11) 自由記述

図表 43 ぐらしのなかで感じていること、困っていること、こうだったらいいなと思うこと

【小学校5年生】

性別	意見
女性	あんまり生きててよかったと思っことがない。
無回答	教えたくない。
女性	歯のきょうせいをしていてワイヤーがほっぺの裏っかわにあたって深い傷ができていてとても痛いことを歯医者さんに言ってもなれるまで仕方がないと言われて授業中集中できない。
男性	学校の体育が増えたらいいな。
女性	もっと友達と仲良くなりたい。
女性	お姉ちゃんやお兄ちゃんも、自分の事もみんなで協力できるようになると良いと思います。
女性	お母さんの怒り方が怖いからもっと優しく言ってくれたらいいと思っことがある。
女性	学校が指定の時間にいなくてもよかつたらしいのにな 疲れている時に喋りかけないでほしいな 休みたい時に休めればいいな 学校が10分くらいで行ければいいな みんなが、がまんをせずに過ごせる環境になればいいな。
女性	授業中うるさいことがあるとき、静かになれたら良いなと思います。喧嘩も少し多い？気がするのでそこも少し減らせたらなと思います。
男性	いやなことや、僕の好きなものばかり言うてくる人がクラスにいる。
男性	普段感じていることで栄養のある食事が美味しく楽しく感じていることです。
男性	学校の登下校、生活の中などで、女子と一緒にいるだけで、周りの男子からよくからかわれたりしていて、少し困っています。
女性	友達のたいどが1週間に2回くらい変わる。
女性	家までが遠いのでバスにして欲しい(2キロ)。
男性	トイレが臭い。
女性	じゅぎゅうでならつたことをしょうらい使わなそうなことがあるからなかそうならわなくていいと思っ。
男性	屋上に行かせてください。
女性	みんなに、ウルトラマンのことをもっと知ってもらって、いろいろな人のいろいろな「好き」を共有できるようにしたい。それに、態度が気に入らなくても、その人がなにかしたら、ぴーぴー騒ぐことしかできない人がいるため、困る。そしてみんないろいろな勉強に興味を持ってくれるようお願いしたい。．．ひとつの強化に一点集中するのもいいが、私はオールマイティーに色々こなせるほうがいいと思う。自分の苦手を認識して、それを改善しようと思っことが大事なのだと思う。
女性	友達関係。
無回答	友達とうまく話しあえなかつたり、遊ぶのがめんどくさく感じてしまう時がたまにある。
女性	周りの視線が気になる。
男性	最近授業中うるさい。
男性	もっと学校休み増やして(最低100日以上)。
男性	もっと野球の練習をしたい。
女性	誰もが安心安全に過ごせるような社会(になってほしい)。
女性	喧嘩をしないでいじめもなくしていい気持ちでみんなが過ごせるようにしたいです。

女性	登校班でばらばらで行きたい。教室の天井をきれいにしたい。
女性	毎日楽しく学校の通いたい。
男性	学校で、ゲームがしたい。
女性	クラスみんなと友だちになれたらいいな。
男性	お金持ち。
女性	みんなが仲良く、楽しい暮らし。
女性	学校のトイレがもう少しきれいだったら良いなと思う。
男性	がっこうのばそこんでげーむがしたい。
女性	休み時間を、5分か、10分増やしてほしい。
男性	クラスの女子がうざい。
女性	友達と毎日仲良く過ごせるようになりたい。
男性	学校の休み時間が楽しいこと。
男性	もっとみんなと仲良くしたいと思う。
無回答	友達とたくさん遊べること。最もたくさん遊びたい！。
女性	本をもう少し増やしてほしい。。
男性	学校でジオラマが作れたらいいなと思う。
女性	家にブランコがあればいいな。家庭の事情で給食費が払えない人もいるから給食費がなくなればいいなと思いました。
女性	英語がうまくなりたい 怒らないようにしたい 怒られないようにしたい 兄弟に優しくしたい。
無回答	友達によく避けられたり話そうと思ったことをうまく伝えられない。
女性	自分のいけんを「あー」など「おー」などではなくて「なるほど」などってほしいときがある。
男性	そらをとんだりスケボーをうまくなりたい。
女性	なんでも悩みを相談できるようになるといいと思っている。
女性	しっかりやっているのに、怒られるのは、理不尽。
男性	空飛んだり ゲームの中に好きな人と入ったり 個性があったり バレーボールをうまくなりたい 絶対無理むりなことをしてみたい。
女性	気軽に話せる人が増えたらいいと思う。
女性	ズルをする人がいなくなったらいいな。
男性	みんなが喧嘩なく平等に過ごせる暮らし。
女性	宿題が少し減ってほしい。
女性	友達がいっぱいいて楽しい。
男性	だれでも楽しく笑顔いっぱい、いやなことがなかつたらいいな。
女性	学校で喧嘩がなくなる(暴力がなくなる)といいです。
女性	人を信じるのが少し不安だから友達に気軽に相談できたらいいなと思う。
女性	友達関係のこと。
女性	学校に苦手な人がいます。嫌なことをするというをやめてほしい。
男性	プールが温水だったらいいな。
女性	友達と最近喧嘩をしちゃう。
女性	うるさい人がいるから静かにしてと言われたら静かにして欲しいです。
女性	ともだちにたまにいやなことをされる。

女性	つらい思いを誰もしない環境がほしい。
女性	登校している道に、犬をフンや、ゴミが落ちていることがある。
女性	最近の1週間ぐらい、友達と喧嘩っぽくなること多くて少し心配。
女性	ふだんは楽しい。
女性	図書館に本を増やしてほしいです。
男性	学校のプールのシャワーが冷たすぎるので、温水にしてほしい 授業中、ふざけてしまう人が多いので、もう少し静かにしてほしい。
女性	友達のことはありすぎてかけません。 書いていると涙がでてきます。
女性	家庭のことで、妹が短気すぎて2日に一回は 喚いてることが悩み。
女性	もっと寝たい。
女性	ゲームがもっとしたい...!!!
男性	二年生がうざい。
女性	ユニコーンに乗ってみたい。
女性	学校のこと、みんなが助け合ったり、やさしくし合ったりしてほしいです。
男性	友達との話が長く続かない。 友達ともっと長く話したい。
女性	家に友立ちが来てくれると良い。
女性	みんなが楽しく過ごすこと。
女性	もっと友達に親切にしたり仲良くしたりしていきたい。
女性	いじめがなくなる。
男性	もっとボクの好きなことをしたり、好きなものを買ってほしい。
女性	友達で自己中心的な子がいてうまく伝えたいけど 上手に伝えられない。
男性	もっとみんなと遊びたい。
男性	魔法をつかいたい。

【中学校2年生】

性別	意見
女性	小諸にはなにもないこと。
女性	遊ぶところが少ないこと。
女性	もう少し学校が快適だったらなと思います なつだったら涼しく、冬だったら暖かくだったらいいなと思います。
男性	学校の家庭科室と理科室にエアコンをつけてほしい。
女性	学校の授業がわかりやすく教えてくれる先生とわかりにくい先生がいて授業後に質問してもあまりわからない。タブレットなどで自分がわからないところを解けるような学習方法にしてほしい。
男性	もうちょっと涼しくなってほしい。窓を開けてほしい。
男性	趣味がほしい。
男性	もっと給食のデザートを増やしてほしい。
男性	積極的に地域のクラブに参加できること。
男性	友達がいて学校生活が楽しいが高校になったら一緒にならない可能性があるので新しい高校でうまくやっていけるか心配。
男性	小諸市にラウンドワンがほしい。
女性	友達からでも話しかけ欲しい。もっと友達が欲しい。
男性	平均よりテスト点はとれてるし満足な結果でも親に何かと理由をつけておこってくるのが辛い。
男性	僕がいやだと思うことを友達がいじってくる。
男性	学校理科室と、家庭科室に、クーラーがない。
女性	家族と喧嘩？をしてインターネットが使えなくなったから親と話したいけど、話せない。塾以外にも勉強アプリを使えるようにしてほしい。
男性	自分のお金でものを自由に行いたい 芦原中学校のエアコンの付いていない部屋にもエアコンを付けてほしい 先生の残業に残業代をだしてほしい。
男性	学校の全教室にエアコンを付けてほしい。
女性	学校の教室にエアコンが付いていない場所があるからつけてほしい。
男性	椅子を新しくしてほしい。
女性	プールをやる人の気持ちを考えてほしい。
男性	机がガタガタしているものが多いので、できれば新品を多く届けてほしい。
男性	トイレが汚い。
男性	自分がやってみたい部活があれば自分から作ってもいい。
女性	机がたがたしないほしい。
男性	給食のデザートを増やして欲しい。
女性	みんながみんなに平等に接することができれば良いと思います。
女性	学校の洋式のトイレを和式より多くしてほしい。
男性	芦中のエアコンがない部屋にエアコンを付けてほしい 部活のボールを新品のソフトテニスのボールにしてほしい。
男性	机や椅子が古くてミシミシ音がなったり、ゆれたりする。理科室や家庭科室、音楽室などにクーラーが無くて夏結構暑い。
女性	水泳の授業のときにドライヤーokにしてほしい。
男性	少しうるさい。
女性	モールができてほしい。

男性	トイレに和式はいらない。
女性	休みがほしい。
女性	自分の名前であらかわられることがおおい。
男性	行き過ぎた弄りが目立つことがあってなんかやだ。
女性	学校のロータリーを安全にしてほしい。
女性	教室の扇風機の場所が真中じゃなくて端につけてほしい。
男性	エアコンを自分たちで設定できるようにしたい。
女性	遊べる場所を増やしてほしい 学校の机と椅子を新しくしてほしい。
男性	学校を建て替えたい。
無回答	みんなが快適にクレームなどがない施設があったらいいなと思います。
女性	人と喋りたくない。
女性	勉強を無料で教えてくれる場所。
男性	学校きれいにしてくれればいいなと思う。
女性	遊ぶ場所を増やしてほしい。
男性	自分の部屋が欲しい。
女性	もっとエアコンを設置して欲しい（家庭科室、理科室、体育館など） 教室などのロッカーを増やすか、大きくして欲しい 古くなってしまった机や椅子を新しくして欲しい 図書館の本を増やして欲しい。
女性	学校のトイレをきれいにしてほしい。
女性	学校がない。
男性	最近佐久市の学校でも、エアコン取り付けがすすんでいます、小諸市（芦原中学校）では理科室や被服室（家庭科室）などの、授業よくで使うと所にエアコンがないので、エアコンの設置をお願いします。そして、学校で使用する学習机・椅子が古いものが多く、座り心地が悪く授業に集中できないので、古い学習机・椅子を交換してほしいです。
女性	学校の体育館がすごく暑いからクーラーを付けてほしい。
女性	父方の祖父母が苦手です。昔から、虐待的なことをされていて、今も時々、叩かれたり、暴言をはかれたりしています。両親は離婚をしていて、母方の祖父母は昔から仲良くしてくれるので大好きですが、離婚したせいなのか、父の方の祖父母は、家事を私達に任せるようになり、やっていなかったら、姉ではなく、私だけに怒ったり、殴ったりしてきます。昔はパパっ子でしたが、今はこの生活からすごく逃げたいから、できれば、母と一緒に過ごしたいです。ですが、父は嫌いではないので、父の方の祖父母とはかかわらないようにしたいです。そんな事ができたらいいな…と最近また思うようになってきました。
女性	周りに合わせていて本来の自分を学校でさらけ出すことができない。
無回答	暑い部屋があらから、エアコンをつけてほしい。
女性	友達といっしょに毎日いてたくさん話せるといいな。
男性	遊ぶところ増やせしてほしい。
女性	もっと早く寝たい。
女性	物の値段が安くなればいいな。
男性	遊ぶところや遊ぶ施設を増やしてほしい。
男性	自分の家の周辺にお店ができたらいい。
男性	たのしい。
女性	部活の時間を減らしてほしい。

男性	受験なくなればいい。プレッシャーがすごい。
男性	部活の練習環境がより良くなってほしい。
女性	部活がスムーズに進むと良い。
女性	学校で苦手な教科の効率の良い勉強法を教えてください。
女性	人間関係の複雑さ消えればいいのにな。
女性	恋愛のことでいじってくるのをやめてって言っているのにやめてくれない。
男性	もっと身近なところで利用できる図書館などが増えたらいいなと思う。
女性	周りがスマホを持っているけど自分は持ってないから、話についていけない。スマホにも年齢制限みたいなのがほしい。
女性	図書館の本を増やしてほしい 夏祭りは現時点で、2回あると思いますが今後3回や4回など増やしてほしい。
女性	友達ともっと表情を顔に出して話したい。
男性	学校にいないときの一日が長くなったらいいなと思う。水曜日も休みになったらいいと思う。
女性	友達が怖い。
女性	学校の授業時間を毎日5時間にしてほしい。
女性	クラスのみんなと仲良くすごせたらいいなと思った。
男性	みんながいつでもニッコリして笑えたらいいなと思う。
男性	平和な感じ。
女性	制服をなくしてほしい。小諸市以外の場所にも生徒同士で行けるようにしてほしい。
男性	校則をゆるくしてほしい。
女性	いつも通りに生活していけたらいいなと思います。
男性	小諸市内にイオンなどを作ってほしい。
女性	小諸市外に生徒同士で行ってもいいことにしてほしい。小諸市内では生徒同士で遊ぶ場所がなさすぎる。部活の時間を短くしてほしい。
男性	東中でやっている勉強を無料で教えてくれる場所があるが、一回授業でやったほうが良いと思う。
女性	小諸にイオンとかを作ってほしい。
無回答	自然や伝統を残しながら小諸が発展したら良いな。
女性	子供だけで行っても良いところを増やしてほしい。
男性	小諸市外に出られるようになってほしい。
無回答	人口が増えてほしい。
男性	自分の好きなことに色々言われたり、遠回しにやめたほうが良いと言われたりするのが嫌だからできれば、やめてほしいし、言わないでほしいと思っている。
男性	親がいちいち部屋に何もノックとかしなくて気付かないとき喋って通話してる時に来たらできれば来ないでほしい。
女性	クラス皆が落ち着いて学習したい。
女性	学校の校則がゆるくなってほしい。
女性	妹がふたりうざい(うるさい)。
男性	新しいクラスになってから結構な時間がたったけれど、クラスにはだいたい馴染めているので毎日が楽しい。

3-2 調査結果：若者の生活状況調査

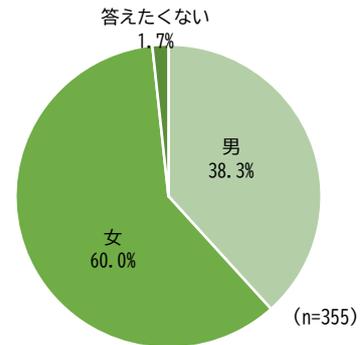
本章では、15～39 歳を対象とした「若者の生活状況調査」の結果を示す。

(1) 回答者のこと

- 回答者は、「女性」が60.0%、「男性」が38.3%となっている。
- 年齢は「10代」が17.4%、「20代」が28.3%、「30代」が54.3%である。
- 回答者の居住地は、現在小諸市に住んでいる割合が94.4%である。市外の居住地としては、「長野県」7人、「埼玉県」「東京都」がそれぞれ3人となっている。
- 居住地区をみると、「美南ガ丘小学校区」26.5%、「東小学校区」18.5%、「野岸小学校区」14.0%となっている。

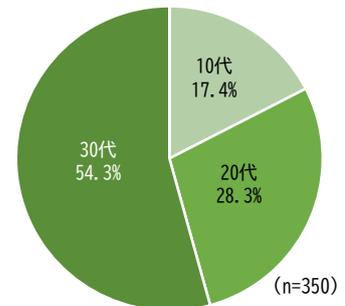
図表 44 性別

	人数	割合(%)
男	136	38.3
女	213	60.0
答えたくない	6	1.7
合計	355	100.0



図表 45 年齢

	人数	割合(%)
10代	61	17.4
20代	99	28.3
30代	190	54.3
合計	350	100.0



図表 46 小諸市に住んでいるか

	人数	割合(%)
はい	336	94.4
いいえ	20	5.6
合計	356	100.0

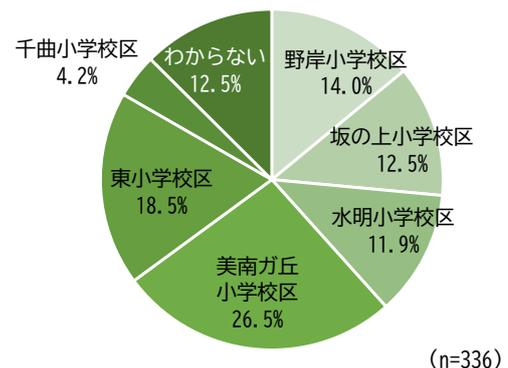
図表 47 回答対象者：いいえと答えた人

居住都道府県

居住都道府県	人数
長野県	7
埼玉県	3
東京都	3
千葉県	2
愛知県	1
山形県	1
新潟県	1
大分県	1
栃木県	1

図表 48 居住地区

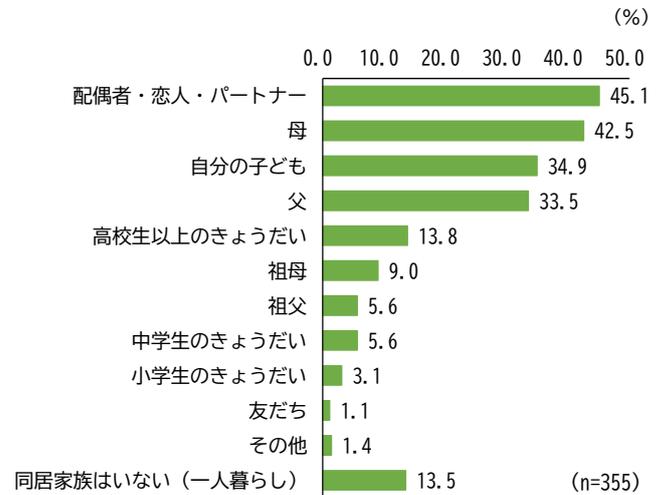
	人数	割合(%)
野岸小学校区	47	14.0
坂の上小学校区	42	12.5
水明小学校区	40	11.9
美南ガ丘小学校区	89	26.5
東小学校区	62	18.5
千曲小学校区	14	4.2
わからない	42	12.5
合計	336	100.0



- 同居家族をみると、「配偶者・恋人・パートナー」45.1%、「母」42.5%、「自分の子ども」34.9%の順に割合が高くなっている
- 回答時点での最終学歴をみると、「大学・大学院」が36.7%と最も割合が高い。

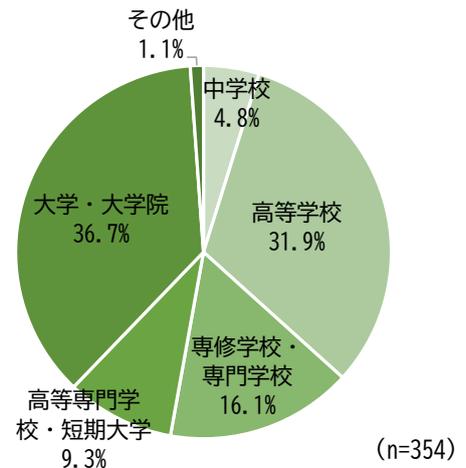
図表 49 同居家族 [複数回答]

	人数	割合(%)
配偶者・恋人・パートナー	160	45.1
母	151	42.5
自分の子ども	124	34.9
父	119	33.5
高校生以上のきょうだい	49	13.8
祖母	32	9.0
祖父	20	5.6
中学生のきょうだい	20	5.6
小学生のきょうだい	11	3.1
友だち	4	1.1
その他	5	1.4
同居家族はいない(一人暮らし)	48	13.5
回答者数	355	



図表 50 学歴 (在学中の場合は現在の在籍校)

	人数	割合(%)
中学校	17	4.8
高等学校	113	31.9
専修学校・専門学校	57	16.1
高等専門学校・短期大学	33	9.3
大学・大学院	130	36.7
その他	4	1.1
合計	354	100.0

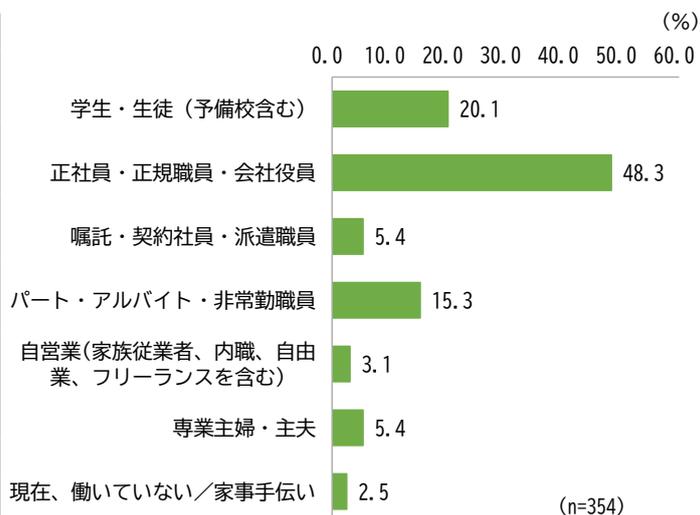


(2) 就労状況

- 回答者の職業をみると、「正社員・正規職員・会社役員」が48.3%と最も割合が高い。次いで「学生・生徒」が20.1%となっている。
- 回答者のうち、就業している人は74.9%である。

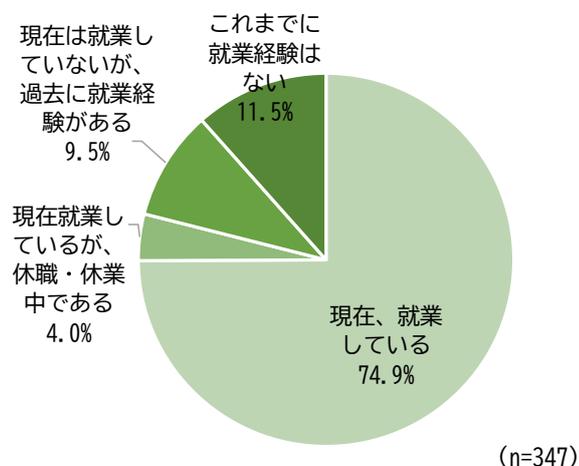
図表 51 職業

	人数	割合(%)
学生・生徒（予備校含む）	71	20.1
正社員・正規職員・会社役員	171	48.3
嘱託・契約社員・派遣職員	19	5.4
パート・アルバイト・非常勤職員	54	15.3
自営業(家族従業者、内職、自由業、フリーランスを含む)	11	3.1
専業主婦・主夫	19	5.4
現在、働いていない／家事手伝い	9	2.5
合計	354	100.0



図表 52 就業経験

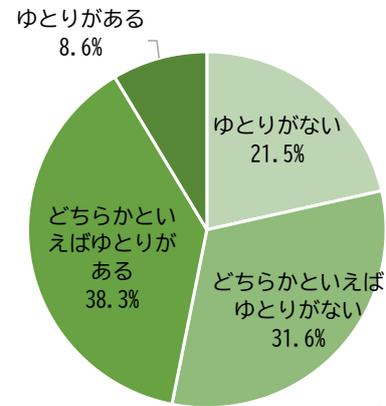
	人数	割合(%)
現在、就業している	260	74.9
現在就業しているが、休職・休業中である	14	4.0
現在は就業していないが、過去に就業経験がある	33	9.5
これまでに就業経験はない	40	11.5
合計	347	100.0



- 就業者に時間的なゆとりをきくと、「ゆとりがない」「どちらかといえばゆとりがない」をあわせた割合は53.1%である。年代別にみると、年齢が上がるにつれて時間的なゆとりがないという回答が増えている。
- 就業者に経済的なゆとりをきくと、「ゆとりがない」「どちらかといえばゆとりがない」をあわせた割合が69.8%となっている。年代別にみると、10代の就業者で「ゆとりがある」の割合が高い傾向にある。

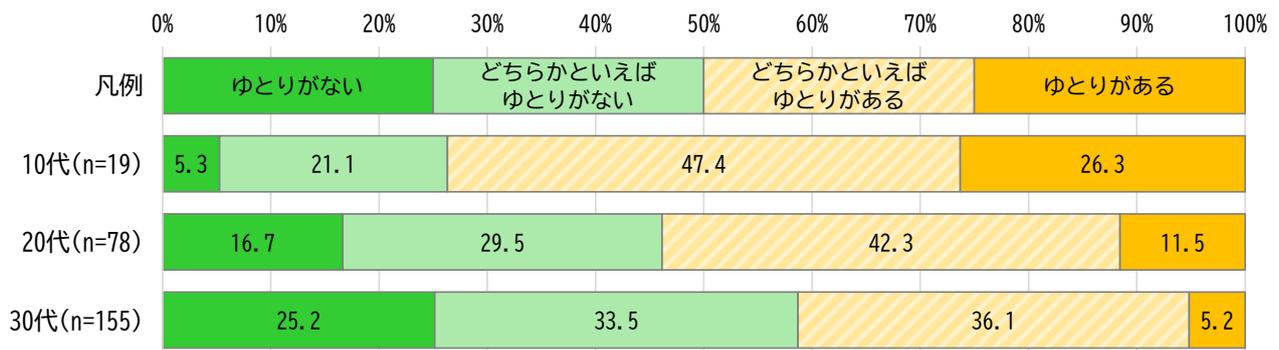
図表 53 回答対象者：就業している人 時間的なゆとりがあるか

	人数	割合(%)
ゆとりがない	55	21.5
どちらかといえばゆとりがない	81	31.6
どちらかといえばゆとりがある	98	38.3
ゆとりがある	22	8.6
合計	256	100.0



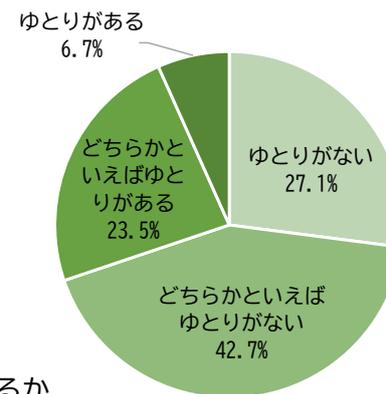
(n=256)

図表 54 回答対象者：就業している人 年代別 時間的なゆとりがあるか



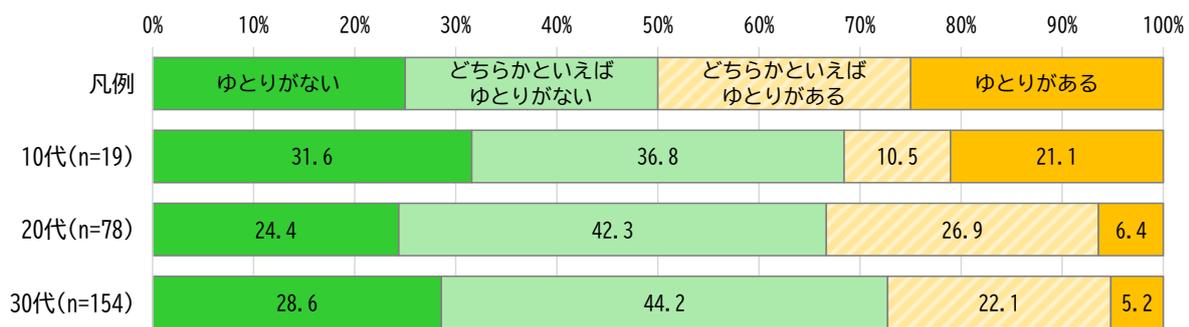
図表 55 回答対象者：就業している人 経済的なゆとりがあるか

	人数	割合(%)
ゆとりがない	69	27.1
どちらかといえばゆとりがない	109	42.7
どちらかといえばゆとりがある	60	23.5
ゆとりがある	17	6.7
合計	255	100.0



(n=255)

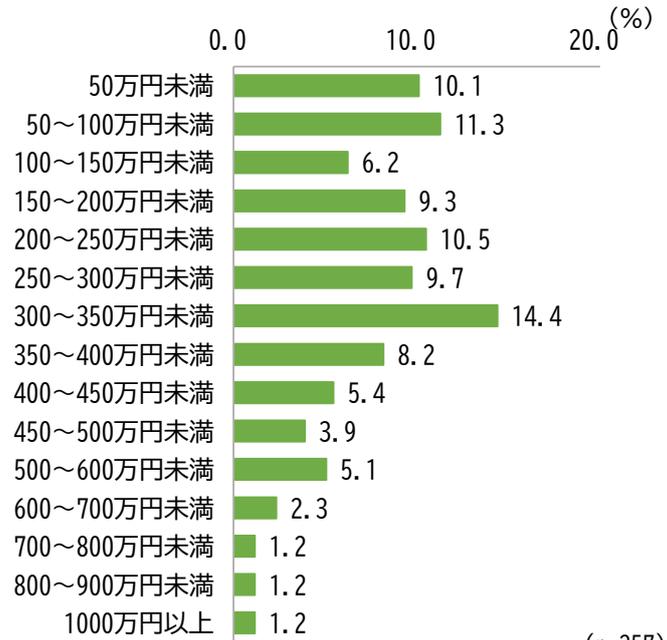
図表 56 回答対象者：就業している人 年代別 経済的なゆとりがあるか



- 年収では「300～350万円未満」が14.4%で、次いで「50～100万円未満」が11.3%である。250万円未満で47.4%と約半数を占めている。
- 年収別に経済的ゆとりをみると、「ゆとりがない」「どちらかといえばゆとりがない」の割合は、250万円未満で高い傾向にある。

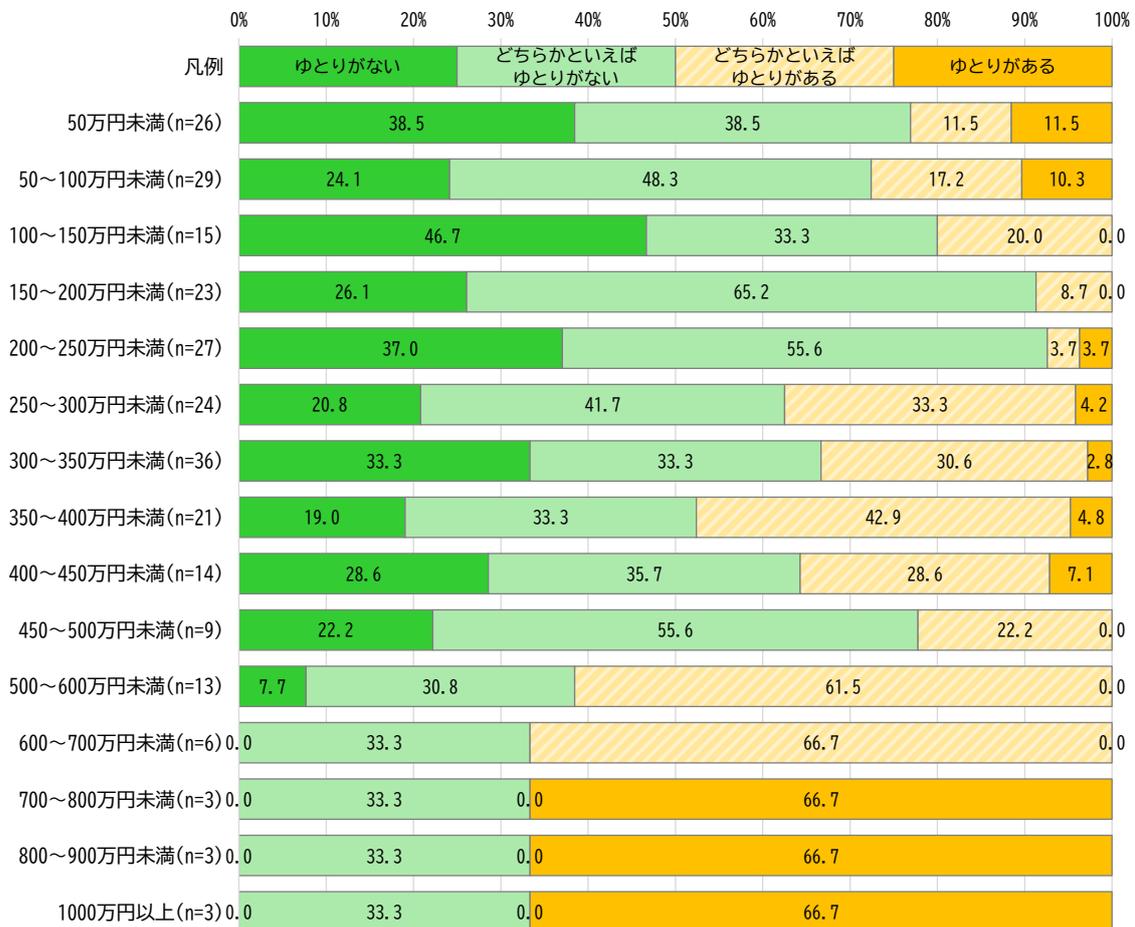
図表 57 回答対象者：就業している人 年収

	人数	割合(%)
50万円未満	26	10.1
50～100万円未満	29	11.3
100～150万円未満	16	6.2
150～200万円未満	24	9.3
200～250万円未満	27	10.5
250～300万円未満	25	9.7
300～350万円未満	37	14.4
350～400万円未満	21	8.2
400～450万円未満	14	5.4
450～500万円未満	10	3.9
500～600万円未満	13	5.1
600～700万円未満	6	2.3
700～800万円未満	3	1.2
800～900万円未満	3	1.2
1000万円以上	3	1.2
合計	257	100.0



(n=257)

図表 58 回答対象者：就業している人 年収別 経済的ゆとり



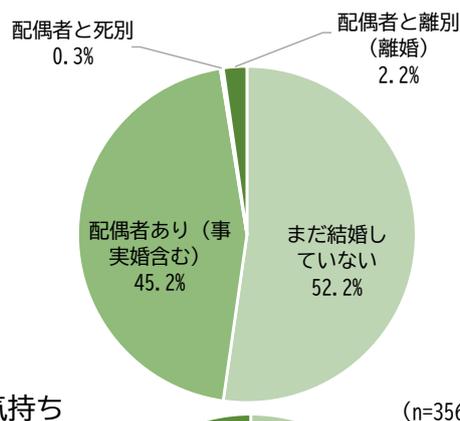
(3) 結婚・出産・子育てについて

1) 結婚の状況や意向

- 回答者のうち、結婚していない人は52.2%である。
- 結婚していない人のうち「いずれ結婚したい」と考えている人は56.5%である。「結婚するつもりはない」は12.4%、「わからない」は31.2%である。
- 結婚していない理由は「適当な相手にめぐりあっていないから」の割合が最も高く47.6%、次いで「経済的に余裕がないから」38.8%、「結婚するには若すぎるから」35.9%となっている。

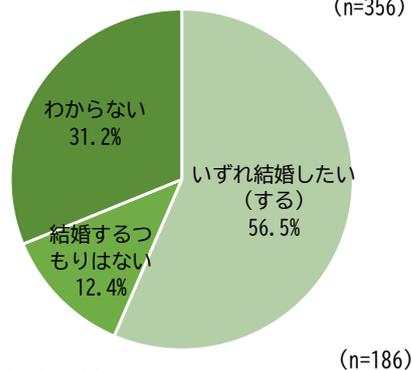
図表 59 現在、結婚しているか

	人数	割合(%)
まだ結婚していない	186	52.2
配偶者あり(事実婚含む)	161	45.2
配偶者と死別	1	0.3
配偶者と離別(離婚)	8	2.2
合計	356	100.0



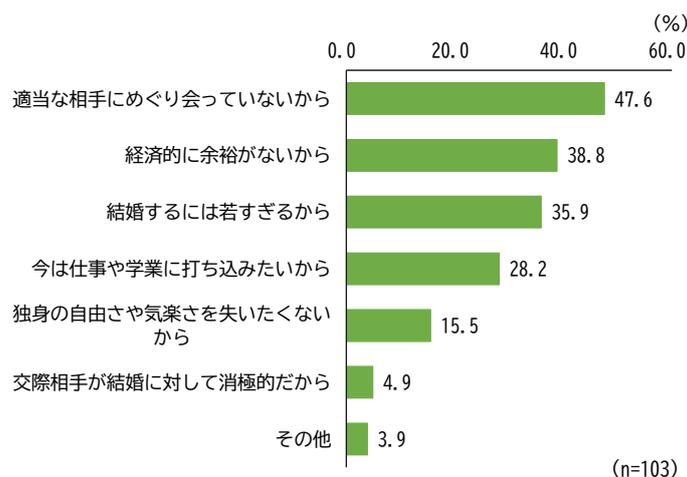
図表 60 回答対象者：まだ結婚していない人 結婚についての気持ち

	人数	割合(%)
いずれ結婚したい(する)	105	56.5
結婚するつもりはない	23	12.4
わからない	58	31.2
合計	186	100.0



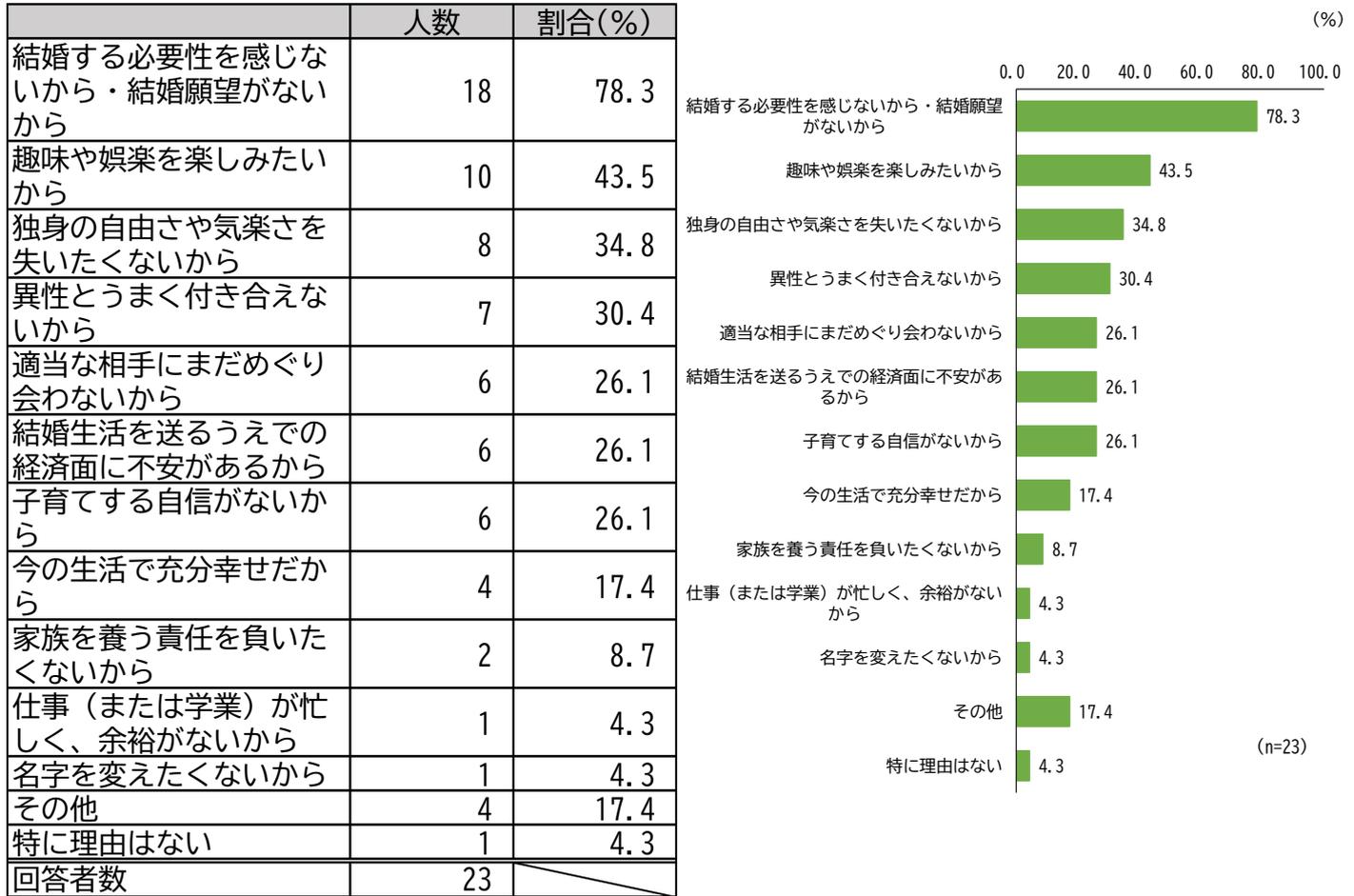
図表 61 回答対象者：まだ結婚していない人 結婚していない理由 [複数回答]

	人数	割合(%)
適当な相手にめぐり会っていないから	49	47.6
経済的に余裕がないから	40	38.8
結婚するには若すぎるから	37	35.9
今は仕事や学業に打ち込みたいから	29	28.2
独身の自由さや気楽さを失いたくないから	16	15.5
交際相手が結婚に対して消極的だから	5	4.9
その他	4	3.9
回答者数	103	

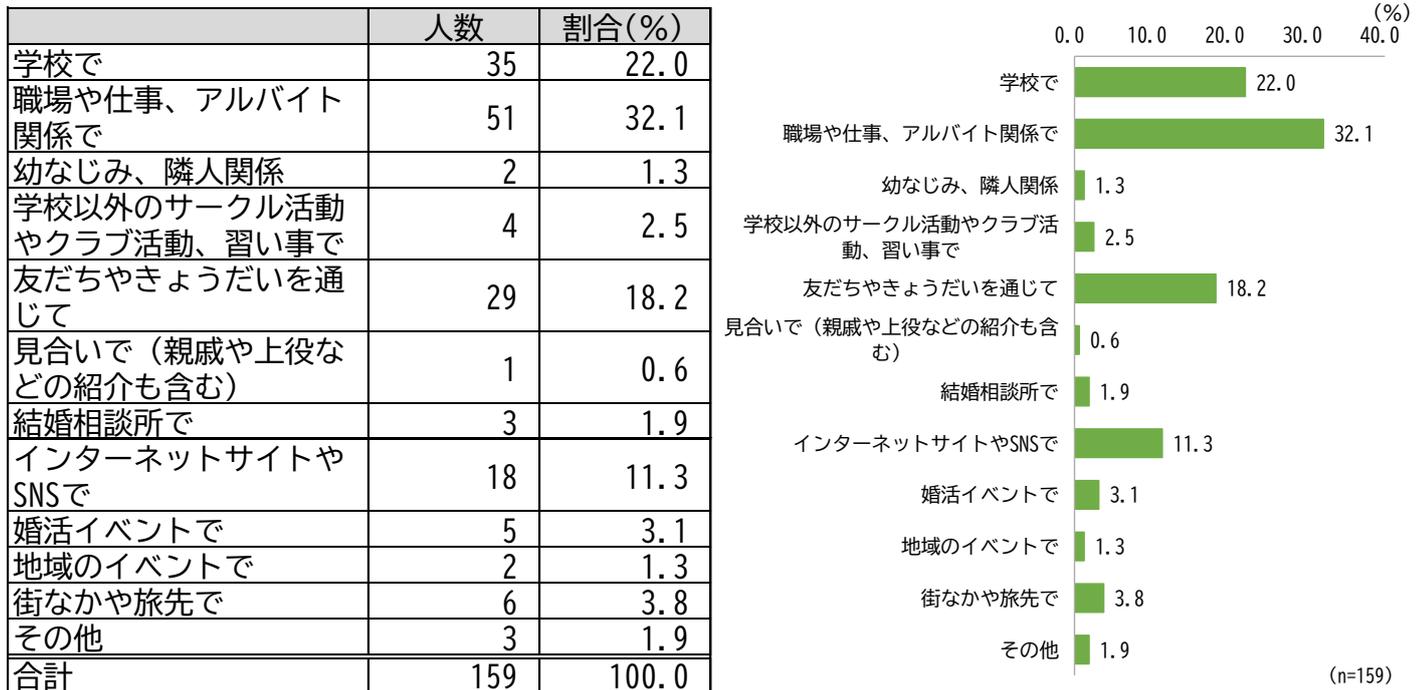


- 結婚するつもりがない理由は、「結婚する必要性を感じないから」の割合が最も高く 78.3%、次いで「趣味や娯楽を楽しみたいから」が 43.5%となっている。
- 夫婦の知り合ったきっかけは、「職場や仕事、アルバイト関係で」の割合が最も高く 32.1%、次いで「学校で」22.0%、「友だちや兄弟を通じて」18.2%となっている。

図表 62 回答対象者：結婚するつもりがない人 結婚するつもりがない理由 [複数回答]



図表 63 回答対象者：配偶者あり（事実婚含む） 知り合ったきっかけ

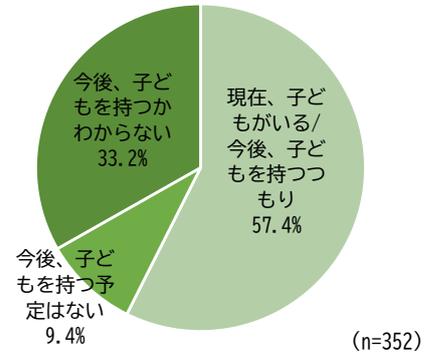


2) 子どもの状況・意向

- 子どもについては、「現在、子どもがいる／今後、子どもを持つつもり」は57.4%であった。「今後、子どもを持つかわからない」が33.2%、「今後、子どもを持つ予定はない」は9.4%である。
- 現在の子どもの数は「0人」の割合が34.3%と最も高く、次いで「2人」28.9%、「1人」27.4%となっている。
- 理想の子どもの数は「2人」が46.2%、「1人」が40.9%である。平均は2.57人となっている。
- 実際に持つつもり子どもの数は「2人」が65.2%と半数以上を占める。平均は1.98人となっている。

図表 64 自身の子どもについて

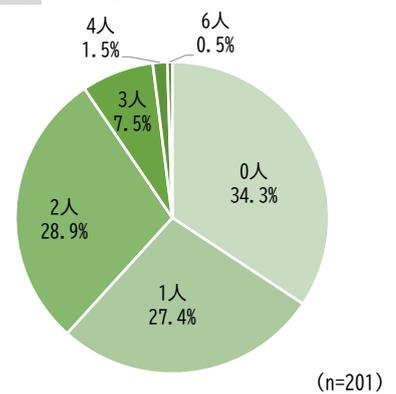
	人数	割合(%)
現在、子どもがいる/今後、子どもを持つつもり	202	57.4
今後、子どもを持つ予定はない	33	9.4
今後、子どもを持つかわからない	117	33.2
合計	352	100.0



図表 65 回答対象者：現在、子どもがいる／今後、子どもを持つつもりの人

	人数	割合(%)
0人	69	34.3
1人	55	27.4
2人	58	28.9
3人	15	7.5
4人	3	1.5
6人	1	0.5
合計	201	100.0

現在の子どもの数

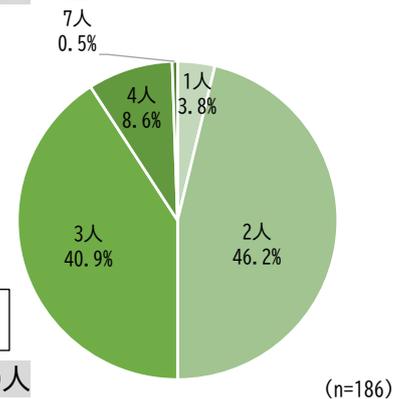


図表 66 回答対象者：現在、子どもがいる／今後、子どもを持つつもりの人

※出産や子育てのハードルが無いと仮定した場合に欲しい子どもの数

	人数	割合(%)
1人	7	3.8
2人	86	46.2
3人	76	40.9
4人	16	8.6
7人	1	0.5
合計	186	100.0

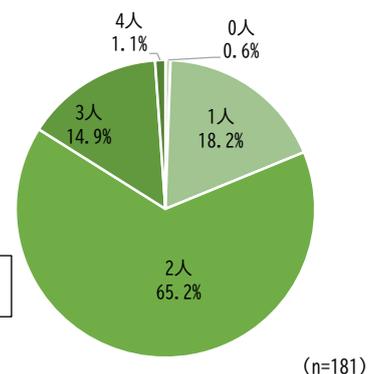
理想の子どもの数



平均：2.57人

図表 67 回答対象者：現在、子どもがいる／今後、子どもを持つつもりの人
実際に持つつもり（予定）の子どもの数

	度数	パーセント
0人	1	0.6
1人	33	18.2
2人	118	65.2
3人	27	14.9
4人	2	1.1
合計	181	100.0



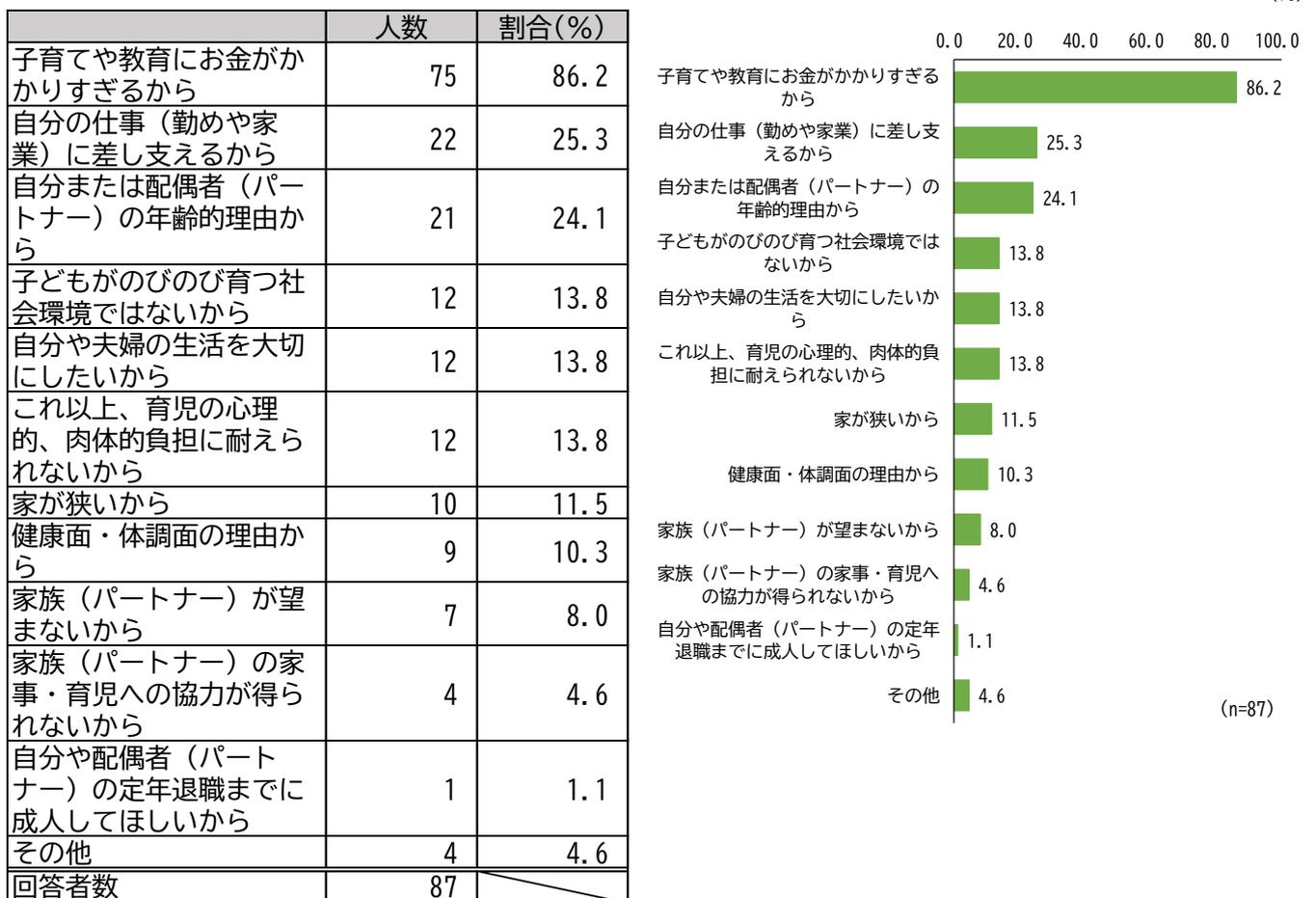
平均：1.98人

- 実際に持つつもり（予定）の子どもの人数別に理想の子どもの人数をみると、実際に持つつもり（予定）の子どもが「2人」の人の理想は平均2.51人、「3人」の人の理想は平均3.37人となっている。
- 理想の人数より実際の人数が少ない理由としては、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」の割合が最も高く86.2%となっている。

図表 68 回答対象者：現在、子どもがいる/今後、子どもを持つつもりの人
実際に持つつもり（予定）の子どもの人数別 理想の子どもの数

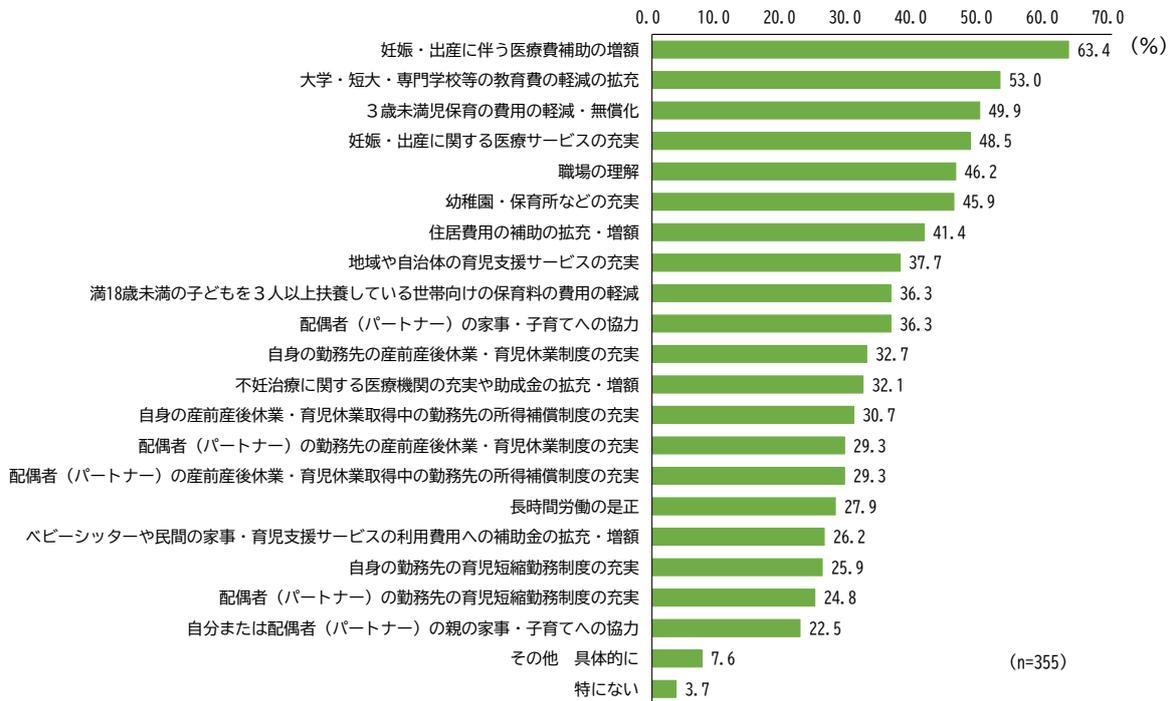


図表 69 回答対象者：「実際に持つつもり（予定）の子どもの数」が「理想の子どもの数」より少ない人
理想の子どもの数が少ない理由 [複数回答]



- 出産し、子どもを育てていくために、今後更に必要だと思うことをみると、「妊娠・出産に伴う医療費補助の増額」の割合が最も高く、次いで「大学・短大・専門学校等の教育費の軽減の拡充」「3歳未満児保育の費用の軽減・無償化」など、経済的負担の軽減に関する取組みが上位となっている。

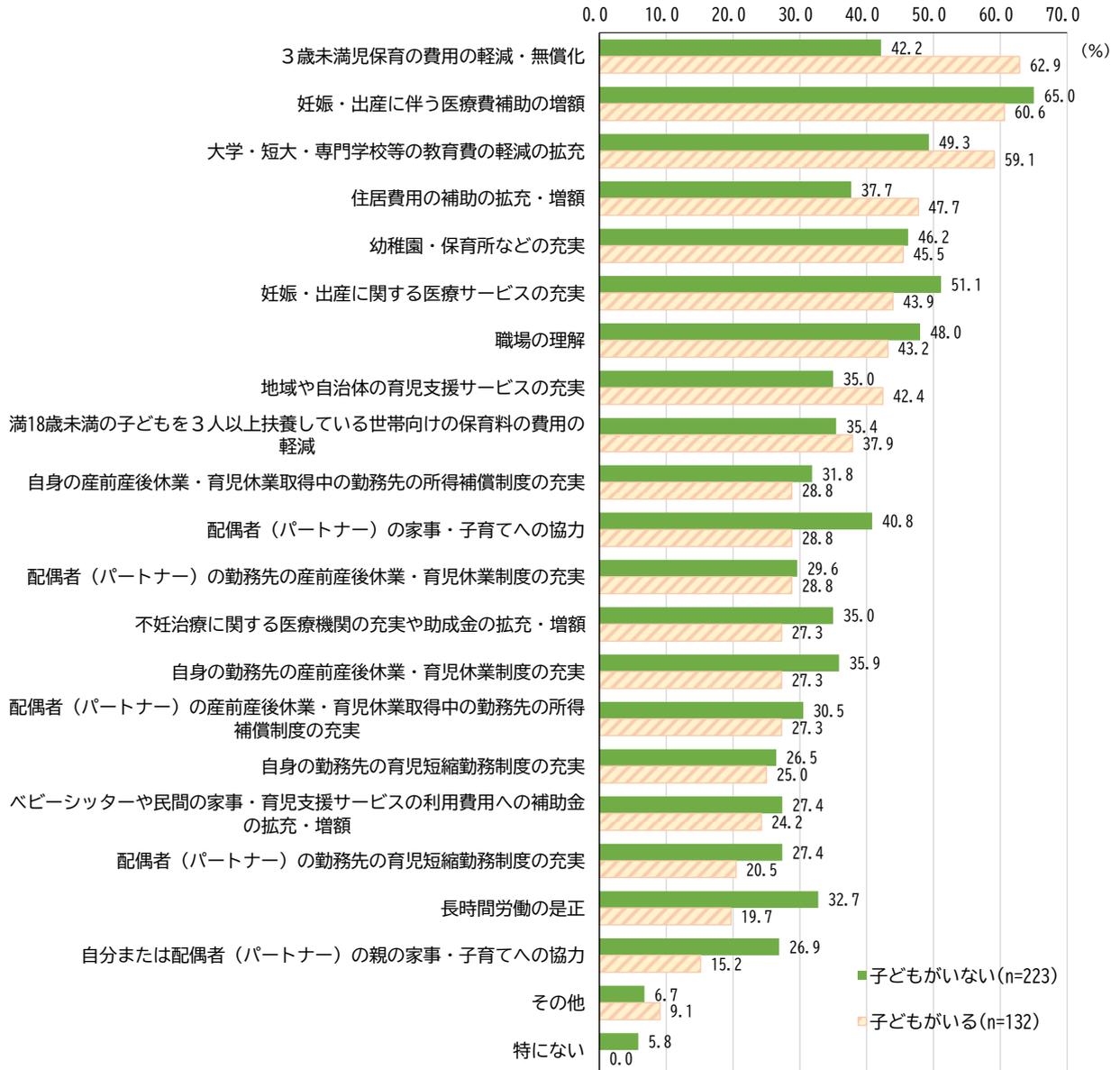
図表 70 出産し、子どもを育てていくために、今後更に必要だと思うこと [複数回答]



	人数	割合 (%)
妊娠・出産に伴う医療費補助の増額	225	63.4
大学・短大・専門学校等の教育費の軽減の拡充	188	53.0
3歳未満児保育の費用の軽減・無償化	177	49.9
妊娠・出産に関する医療サービスの充実	172	48.5
職場の理解	164	46.2
幼稚園・保育所などの充実	163	45.9
住居費用の補助の拡充・増額	147	41.4
地域や自治体の育児支援サービスの充実	134	37.7
満18歳未満の子どもを3人以上扶養している世帯向けの保育料の費用の軽減	129	36.3
配偶者（パートナー）の家事・子育てへの協力	129	36.3
自身の勤務先の産前産後休業・育児休業制度の充実	116	32.7
不妊治療に関する医療機関の充実や助成金の拡充・増額	114	32.1
自身の産前産後休業・育児休業取得中の勤務先の所得補償制度の充実	109	30.7
配偶者（パートナー）の勤務先の産前産後休業・育児休業制度の充実	104	29.3
配偶者（パートナー）の産前産後休業・育児休業取得中の勤務先の所得補償制度の充実	104	29.3
長時間労働の是正	99	27.9
ベビーシッターや民間の家事・育児支援サービスの利用費用への補助金の拡充・増額	93	26.2
自身の勤務先の育児短縮勤務制度の充実	92	25.9
配偶者（パートナー）の勤務先の育児短縮勤務制度の充実	88	24.8
自分または配偶者（パートナー）の親の家事・子育てへの協力	80	22.5
その他 具体的に	27	7.6
特にない	13	3.7
回答者数	355	

- 子どもの有無別に、出産し、子どもを育てていくために、今後更に必要だと思うことをみると、子どもがいる人は「3歳未満児保育の費用の軽減・無償化」「妊娠・出産に伴う医療費補助の増額」「大学・短大・専門学校等の教育費の軽減の拡充」の順に割合が高くなっている。

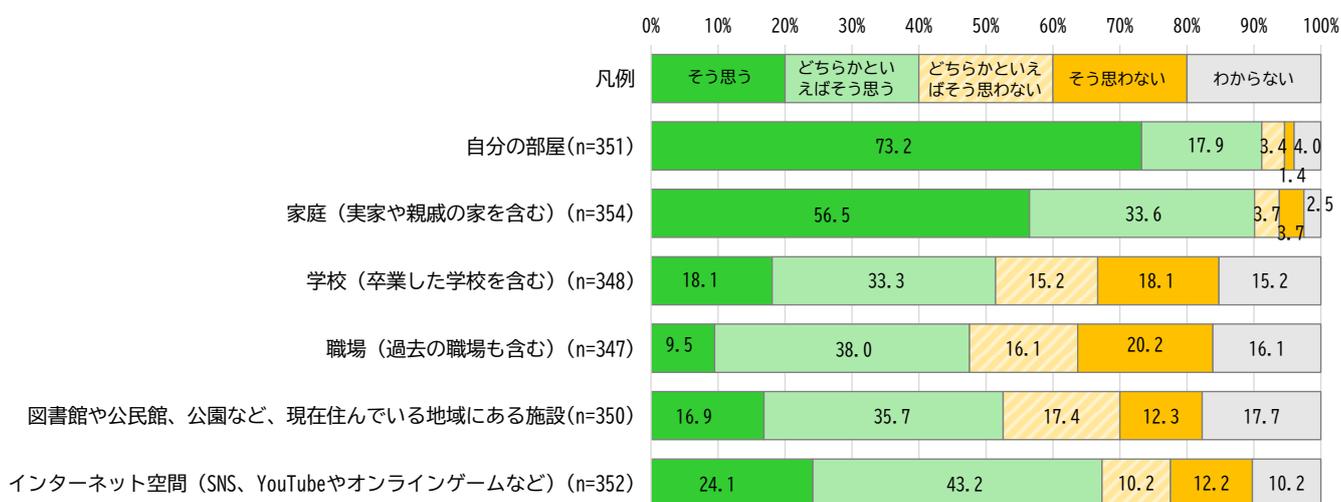
図表 71 子どもの有無別 出産し、子どもを育てていくために、今後更に必要だと思うこと
[複数回答] 子どもがいる人の割合が高い順



(4) 日常的な居場所、普段の活動

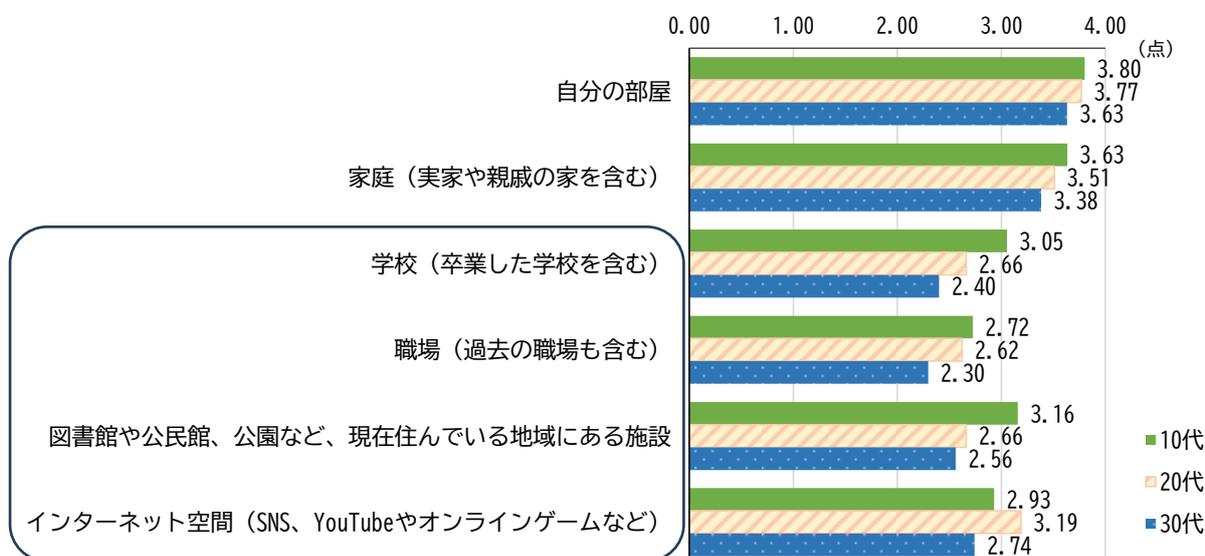
- 提示された場所が自身にとって居場所（ほっとできる場所、居心地の良い場所など）であるかをきくと、「そう思う」の割合が最も高いのは「自分の部屋」73.2%、次いで「家庭」56.5%となっている。また「インターネット空間」を「そう思う」と答える割合は24.1%で、「どちらかといえばそう思う」を含めると67.3%となっている。
- 年代別にみると、「学校（卒業した学校を含む）」「職場（過去の職場も含む）」「図書館や公民館、公園など、現在住んでいる地域にある施設」「インターネット空間」は年代によって違いがみられる。10代は「学校」「職場」「図書館や公民館、公園など、現在住んでいる地域にある施設」の得点が高くなっており、20代は「インターネット空間」の得点が高くなっている。

図表 72 あなたにとって居場所（ほっとできる場所、居心地の良い場所など）であるか



※以降の分析は、「そう思う」4点、「どちらかといえばそう思う」3点、「どちらかといえばそう思わない」2点、「そう思わない」1点とし、わからないは除き得点を算出

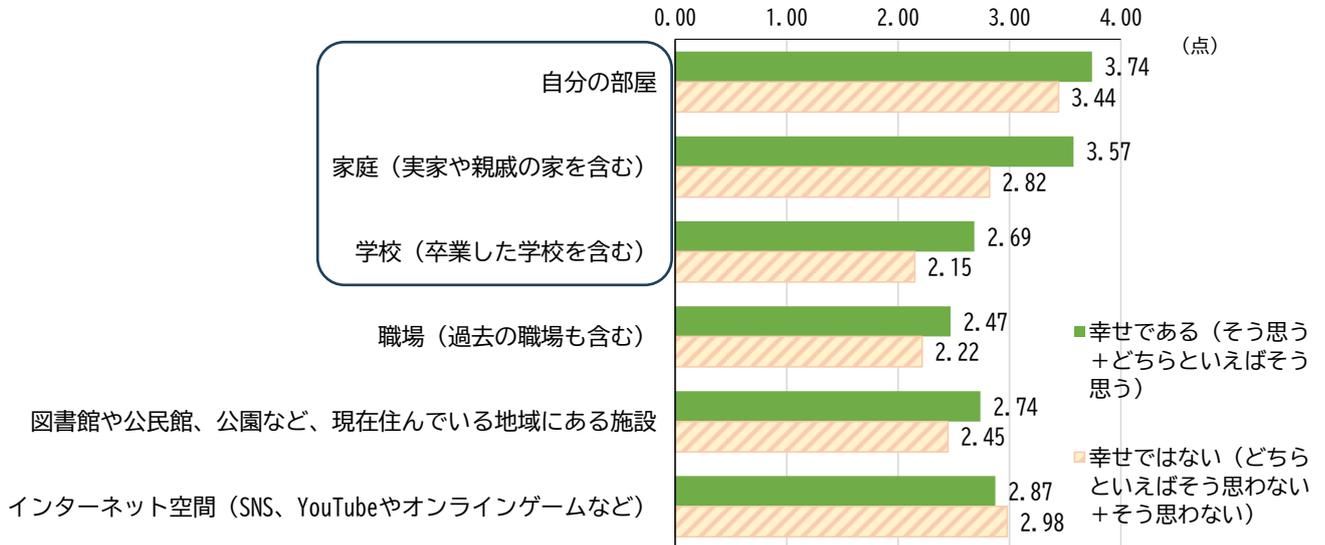
図表 73 年代別 あなたにとって居場所（ほっとできる場所、居心地の良い場所など）であるか



※5%水準で統計的検定をした結果、違いが見られた項目を囲っている

- 幸せであると回答した人は、「自分の部屋」「家庭（実家や親戚の家を含む）」「学校（卒業した学校を含む）」を居場所と回答している傾向にある。
- 孤独を感じていると回答した人は、「自分の部屋」「家庭（実家や親戚の家を含む）」「学校（卒業した学校を含む）」「職場（過去の職場も含む）」がほっとできる居場所ではないと回答している。

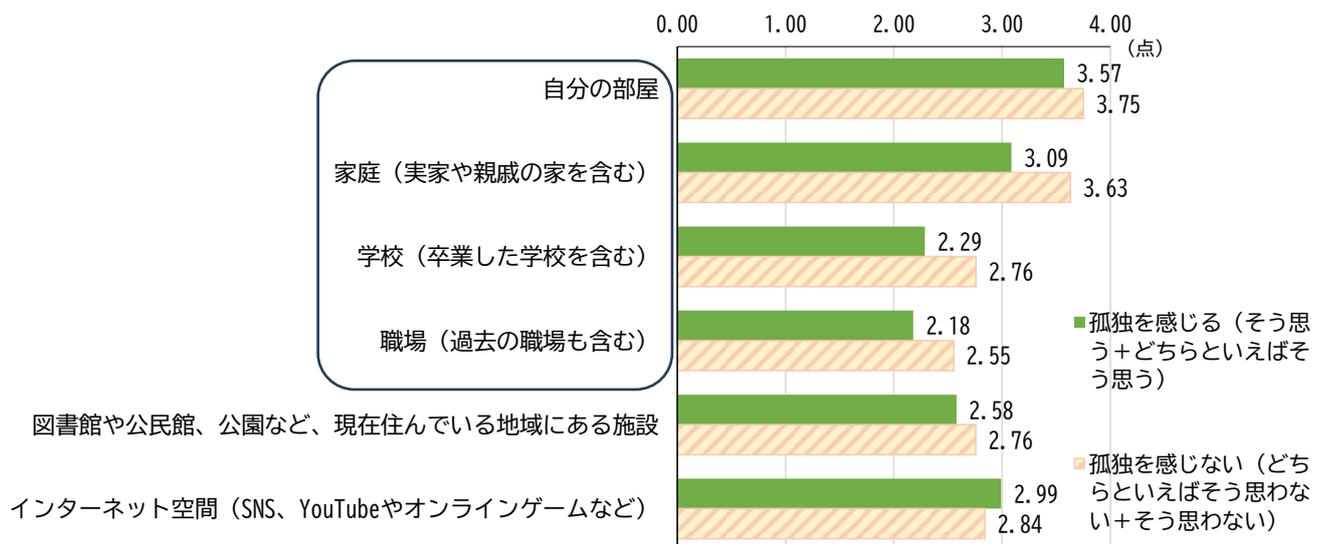
図表 74 幸福度別 あなたにとって居場所（ほっとできる場所、居心地の良い場所など）であるか



※5%水準で統計的検定をした結果、違いが見られた項目を囲っている

※「幸せである」という設問に対して「そう思う」「どちらかといえばそう思う」という回答と「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」という回答に分け、得点を算出した。

図表 75 孤独感別 あなたにとって居場所（ほっとできる場所、居心地の良い場所など）であるか

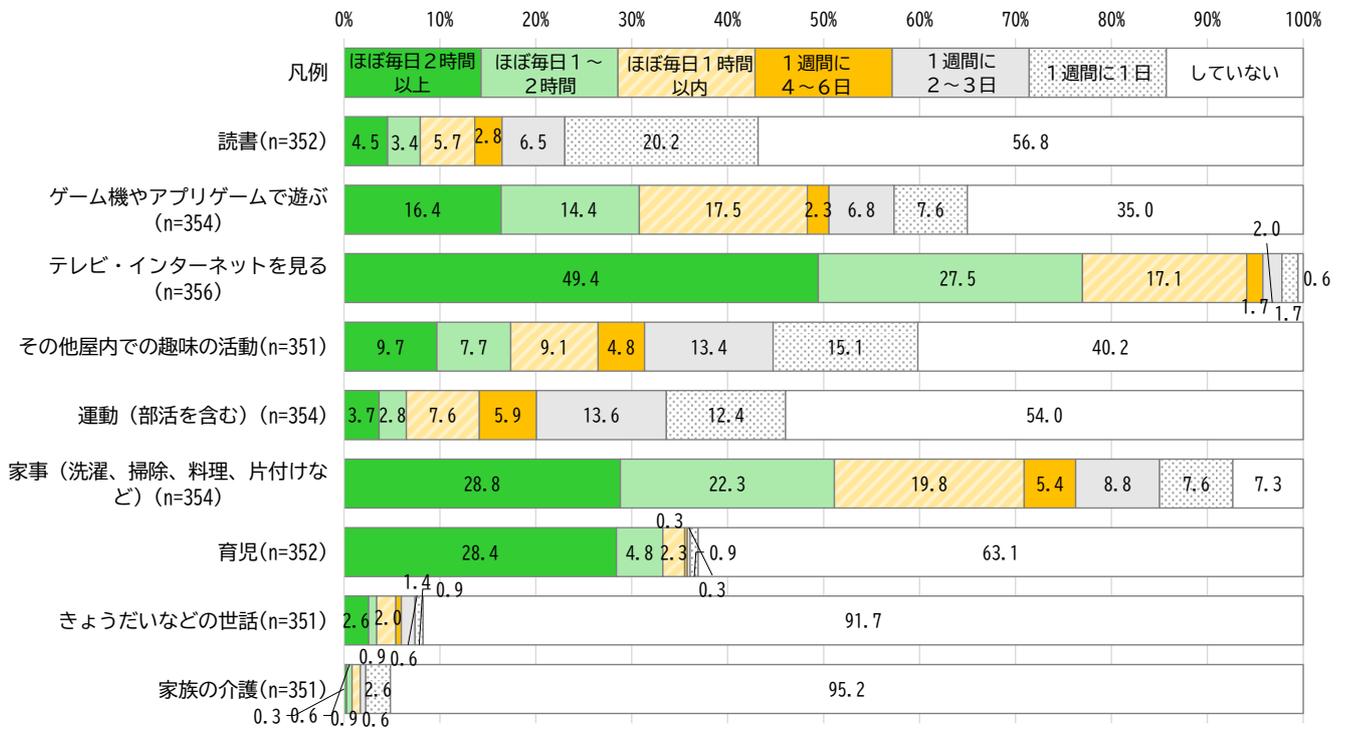


※5%水準で統計的検定をした結果、違いが見られた項目を囲っている

※「孤独を感じている」という設問に対して「そう思う」「どちらかといえばそう思う」という回答と「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」という回答に分け、得点を算出した。

- 普段の活動では、「テレビ・インターネットを見る」「ゲームで遊ぶ」に費やす時間が比較的多くなっている。
- 「家事」を毎日1時間以上する割合は51.1%である。また「兄弟姉妹の世話」を毎日1時間以上する割合は3.5%となっている。

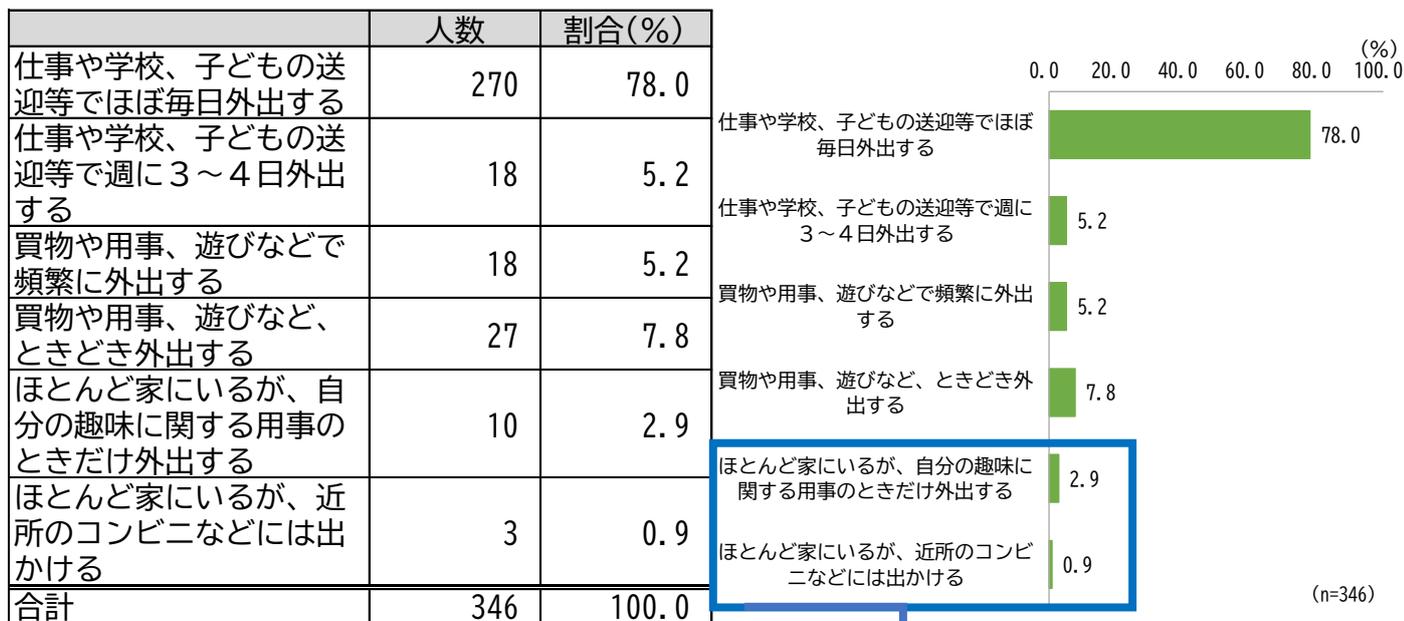
図表 76 活動頻度



(5) 外出状況

- 日常的な外出頻度は、「ほぼ毎日外出する」の割合が最も高く 78.0%である。一方、「ほとんど家にいる」は 3.8%である。
- 「ほとんど家にいる」人がそのような状態になってどれくらいの期間かを聞いたところ、「1年～2年未満」「5～10年未満」がそれぞれ 23.1%となっている。
- 外出しない状況となったきっかけは「外出する必要がなかったため」が 50.0%と最も高い。

図表 77 ふだんどれくらい外出するか



図表 78 回答対象者：ほとんど家にいる人
外出の状況が現在の状態となってどれくらいか



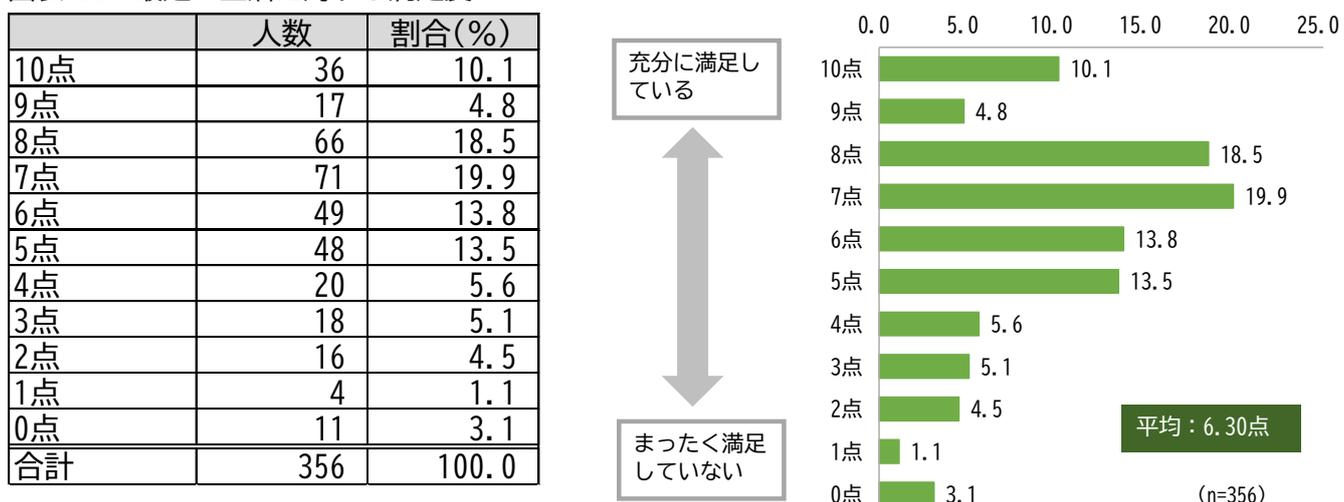
図表 79 外出状況が現在のようになったきっかけ [複数回答]



(6) 生活の満足度

- 生活に対する満足度について、0～10点で聞いたところ、平均は6.30点である。
- 年齢別にみると、年代が上がるにつれて生活満足度は低下傾向にある。
- 職業別では、「パート・アルバイト・非常勤職員」「自営業」「現在、働いていない／家事手伝い」で生活満足度が低くなっている。
- 時間的、経済的にゆとりがないと回答した人や年収が低い層で生活満足度が特に下がっている。

図表 80 最近の生活に対する満足度



図表 81 属性別 最近の生活に対する満足度

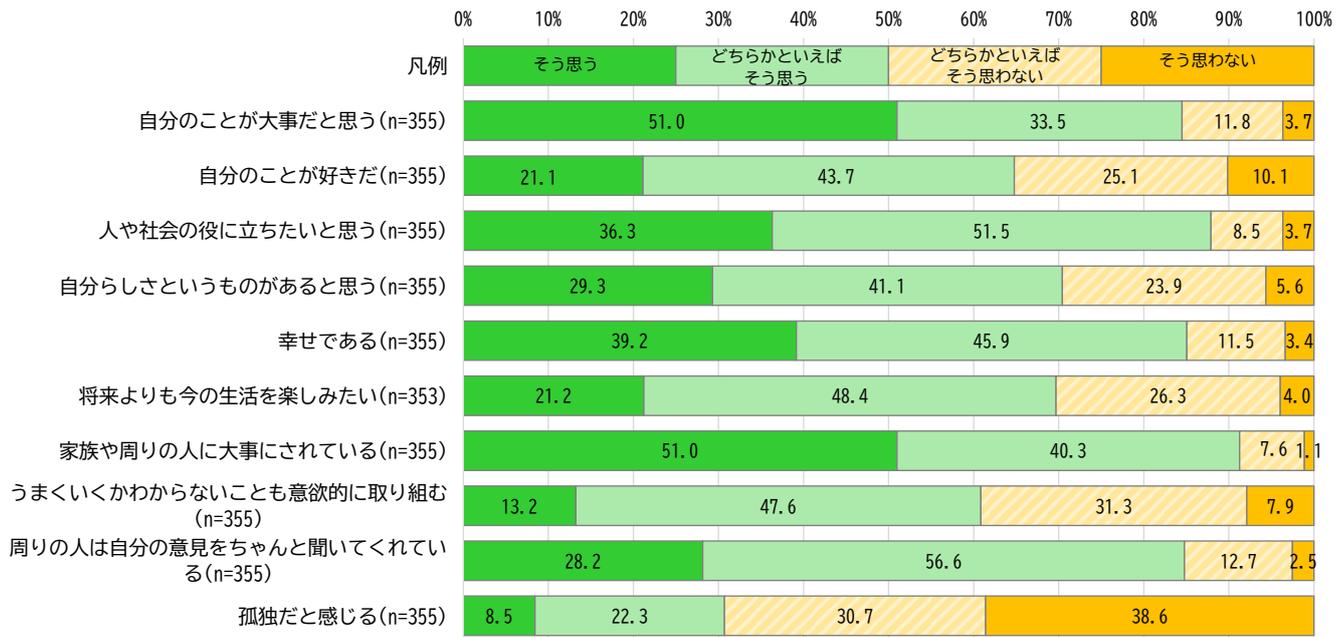
属性		得点(点)	全体(6.30点)との差分
年代	10代(n=61)	7.16	0.86
	20代(n=99)	6.55	0.25
	30代(n=190)	5.88	-0.42
職業	学生・生徒(予備校含む)(n=71)	7.35	1.05
	正社員・正規職員・会社役員(n=171)	6.23	-0.07
	嘱託・契約社員・派遣職員(n=19)	5.84	-0.46
	パート・アルバイト・非常勤職員(n=54)	5.67	-0.63
	自営業(家族従業者、内職、自由業、フリーランスを含む)(n=11)	5.00	-1.30
	専業主婦・主夫(n=19)	7.32	1.02
	現在、働いていない／家事手伝い(n=9)	3.33	-2.97
時間的ゆとり	ゆとりがない(n=55)	4.82	-1.48
	どちらかといえばゆとりがない(n=81)	6.14	-0.16
	どちらかといえばゆとりがある(n=98)	6.71	0.41
	ゆとりがある(n=22)	6.77	0.47
経済的ゆとり	ゆとりがない(n=69)	4.90	-1.40
	どちらかといえばゆとりがない(n=109)	6.10	-0.20
	どちらかといえばゆとりがある(n=60)	7.20	0.90
	ゆとりがある(n=17)	7.53	1.23

属性		得点(点)	全体(6.30点)との差分
年収	50万円未満(n=26)	5.73	-0.57
	50～100万円未満(n=29)	6.21	-0.09
	100～150万円未満(n=16)	5.38	-0.93
	150～200万円未満(n=24)	5.92	-0.38
	200～250万円未満(n=27)	6.56	0.26
	250～300万円未満(n=25)	5.72	-0.58
	300～350万円未満(n=37)	6.16	-0.14
	350～400万円未満(n=21)	5.95	-0.35
	400～450万円未満(n=14)	6.36	0.06
	450～500万円未満(n=10)	6.20	-0.10
	500～600万円未満(n=13)	6.15	-0.15
	600～700万円未満(n=6)	6.50	0.20
	700～800万円未満(n=3)	6.33	0.03
	800～900万円未満(n=3)	7.67	1.37
1000万円以上(n=3)	7.33	1.03	

※全体 6.30点と比較して、0.5点以上低い項目が網掛けになっている。

- 現在の自分が好きかについては、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」をあわせた割合は64.8%となっている。
- 孤独と感ずることがあるかについては「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」をあわせた割合は69.3%である。
- 自分自身のことと生活満足度の得点との関係を見ると、どの項目においても、肯定的な考えの人と否定的な考えの人で生活満足度に差がみられる。特に違いがあるのは「幸せである」「家族や周りの人に大事にされている」「人や社会の役に立ちたいと思う」などであり、否定的回答をした層で生活満足度が低い。

図表 82 自分自身に対する考えなど



図表 83 自分自身に対する考えと生活満足度との関係

属性		生活満足度 得点 (点)	全体(6.30 点)との差分	肯定と否定の 得点の差分
自分のことが大事だと思う	そう思う+どちらかといえばそう思う (n=300)	6.58	0.28	1.71
	どちらかといえばそう思わない+そう思わない (n=55)	4.87	-1.43	
自分のことが好きだ	そう思う+どちらかといえばそう思う (n=230)	6.84	0.54	1.50
	どちらかといえばそう思わない+そう思わない (n=125)	5.34	-0.96	
人や社会の役に立ちたいと思う	そう思う+どちらかといえばそう思う (n=312)	6.56	0.26	2.00
	どちらかといえばそう思わない+そう思わない (n=43)	4.56	-1.74	
自分らしさというものがあると思う	そう思う+どちらかといえばそう思う (n=250)	6.69	0.39	1.27
	どちらかといえばそう思わない+そう思わない (n=105)	5.42	-0.88	
幸せである	そう思う+どちらかといえばそう思う (n=302)	6.77	0.47	3.05
	どちらかといえばそう思わない+そう思わない (n=53)	3.72	-2.58	
将来よりも今の生活を楽しみたい	そう思う+どちらかといえばそう思う (n=246)	6.67	0.37	1.12
	どちらかといえばそう思わない+そう思わない (n=107)	5.55	-0.75	
家族や周りの人に大事にされている	そう思う+どちらかといえばそう思う (n=324)	6.52	0.22	2.32
	どちらかといえばそう思わない+そう思わない (n=31)	4.19	-2.11	
うまくいくかわからないことも意欲的に取り組む	そう思う+どちらかといえばそう思う (n=216)	6.80	0.50	1.23
	どちらかといえばそう思わない+そう思わない (n=139)	5.57	-0.73	
周りの人は自分の意見をちゃんと聞いてくれている	そう思う+どちらかといえばそう思う (n=301)	6.58	0.28	1.73
	どちらかといえばそう思わない+そう思わない (n=54)	4.85	-1.45	
孤独だと感ずる	そう思+どちらかといえばそう思う (n=109)	5.13	-1.17	-1.71
	どちらかといえばそう思わない+そう思わない (n=246)	6.84	0.54	

自分に対する考え 内閣府調査との比較

〈参考：令和4年度 内閣府「こども・若者の意識と生活に関する調査」との比較〉

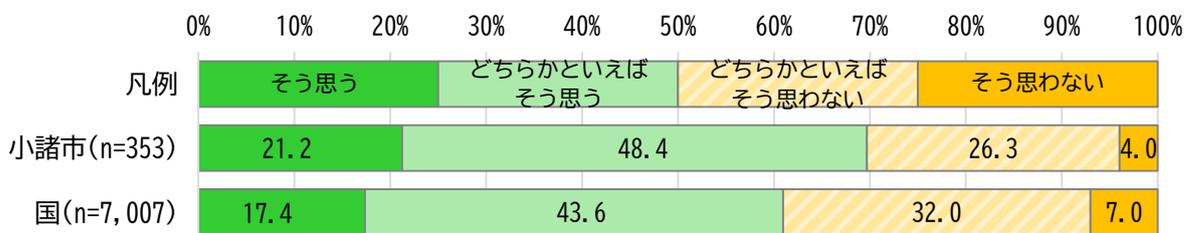
■内閣府「こども・若者の意識と生活に関する調査」実施概要	
・実施時期	令和4年11月
・対象	15～39歳（令和4年4月1日現在）
・有効回収数	7,035

- 自分には自分らしさがあるについては、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合は国の84.3%に比べて小諸市は70.4%で、13.9ポイント低い。
- 将来よりも今の生活を楽しみたいについては、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合は国の61.0%に比べて小諸市は69.6%で、8.6ポイント高い。
- 現在の自分が好きかについては、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合は国の60.3%に比べて小諸市は64.8%で、4.5ポイント高い。
- 幸せであるかについては、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合は国の86.1%に比べて小諸市は85.1%で、同水準となっている。

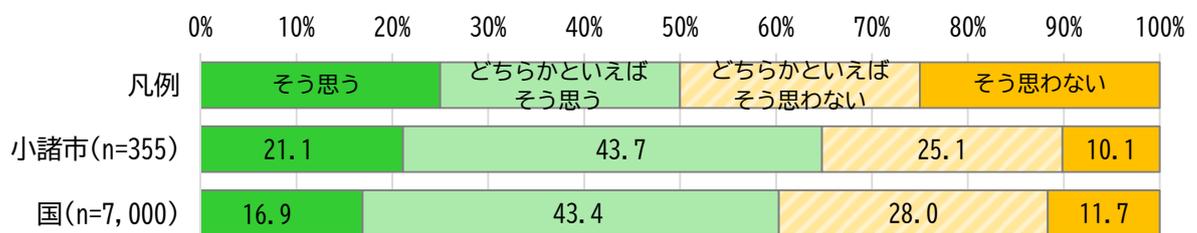
図表 84 自分には自分らしさがある



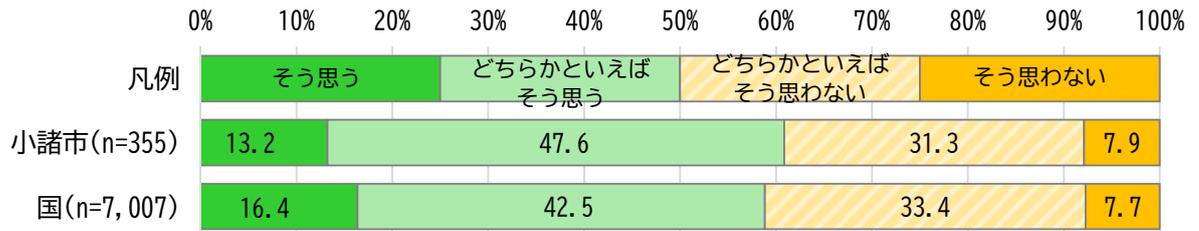
図表 85 将来よりも今の生活を楽しみたい



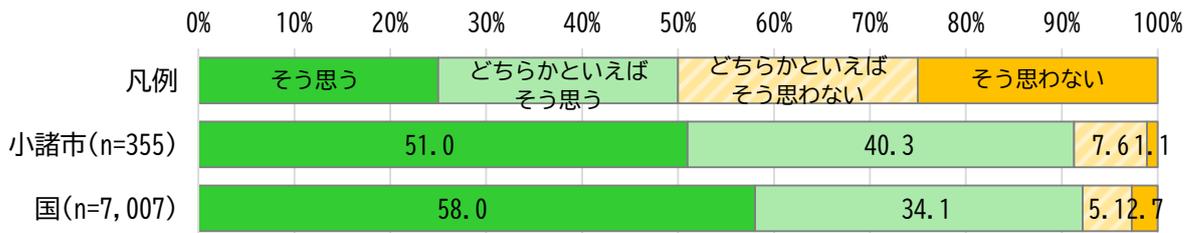
図表 86 自分のことが好きだ



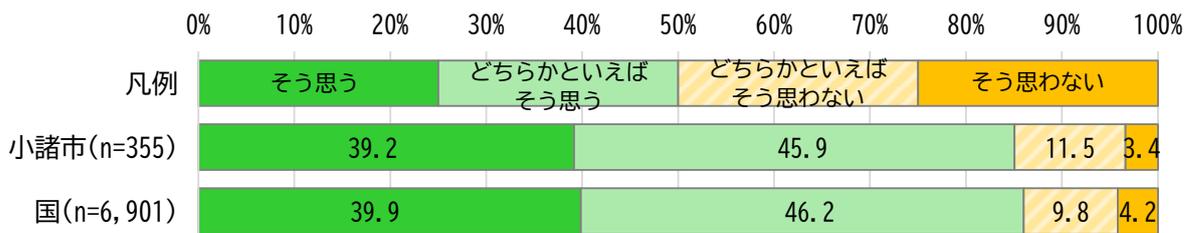
図表 87 うまくいくかわからないことも意欲的に取り組む



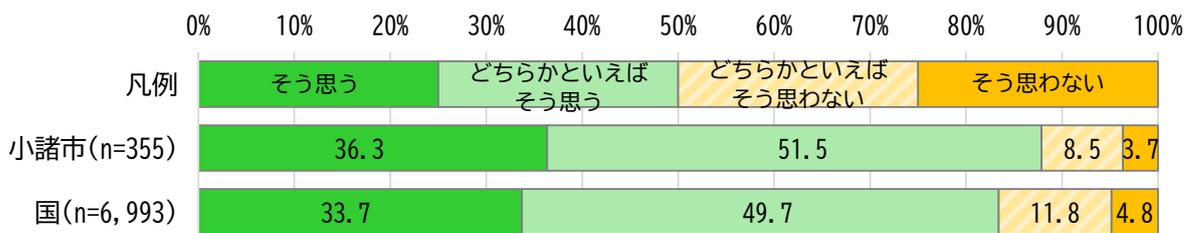
図表 88 家族や周りの人に大事にされている



図表 89 幸せである



図表 90 人や社会の役に立ちたいと思う

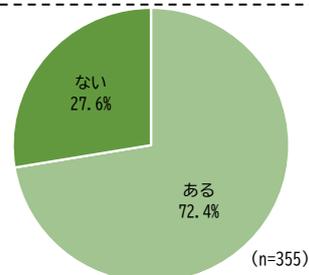


(7) 相談先や悩みごと

- 今、悩んでいることや心配なことが「ある」との回答は、72.4%であった。
- 悩みの内容としては、「お金のこと」が最も多く65.0%、次いで「仕事のこと」53.3%、「家族・子育てのこと」40.9%となっている。
- 年代別にみると、10代は「進学・就職のこと」「勉強のこと」、20代は「お金のこと」「仕事のこと」、30代は「お金のこと」「仕事のこと」に加えて「家族・子育てのこと」の割合が高い。

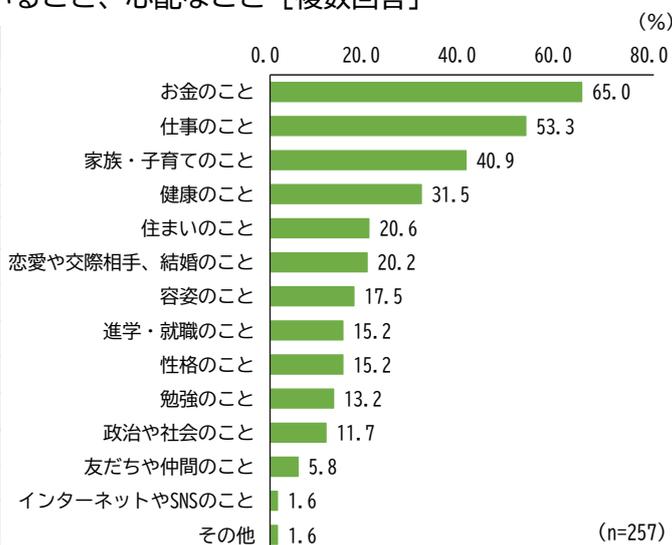
図表 91 今、悩んでいることや心配なこと

	人数	割合(%)
ある	257	72.4
ない	98	27.6
合計	355	100.0

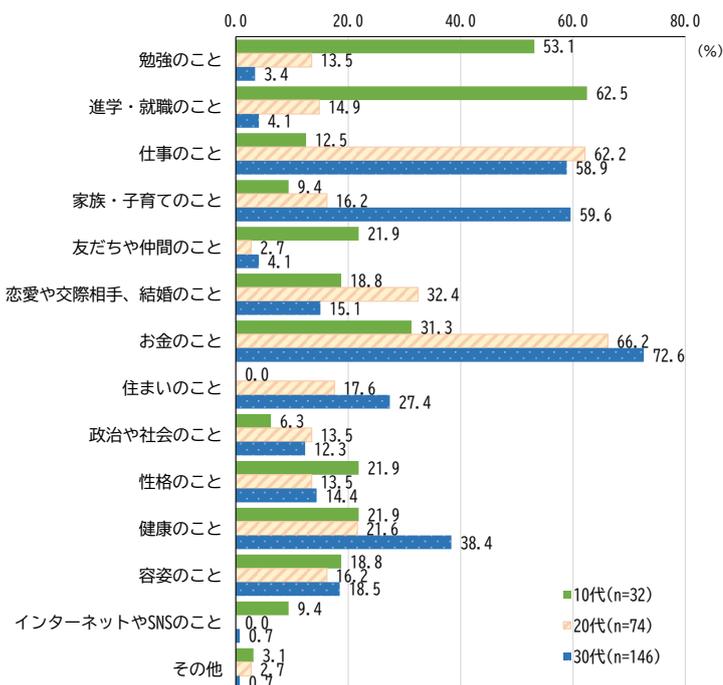


図表 92 回答対象者：あると回答した人 今、悩んでいること、心配なこと [複数回答]

	人数	割合(%)
お金のこと	167	65.0
仕事のこと	137	53.3
家族・子育てのこと	105	40.9
健康のこと	81	31.5
住まいのこと	53	20.6
恋愛や交際相手、結婚のこと	52	20.2
容姿のこと	45	17.5
進学・就職のこと	39	15.2
性格のこと	39	15.2
勉強のこと	34	13.2
政治や社会のこと	30	11.7
友だちや仲間のこと	15	5.8
インターネットやSNSのこと	4	1.6
その他	4	1.6
回答者数	257	



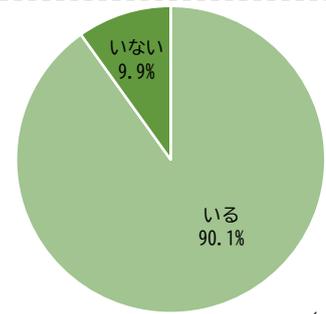
図表 93 年代別 回答対象者：あると回答した人 今、悩んでいること、心配なこと [複数回答]



- 相談する人が「いる」との回答は、90.1%となっている。
- 相談する人としては、「親」が67.2%と最も高く、次いで「友だち」54.1%、「配偶者・恋人」51.9%となっている。

図表 94 悩んでいることや心配なことを相談する人

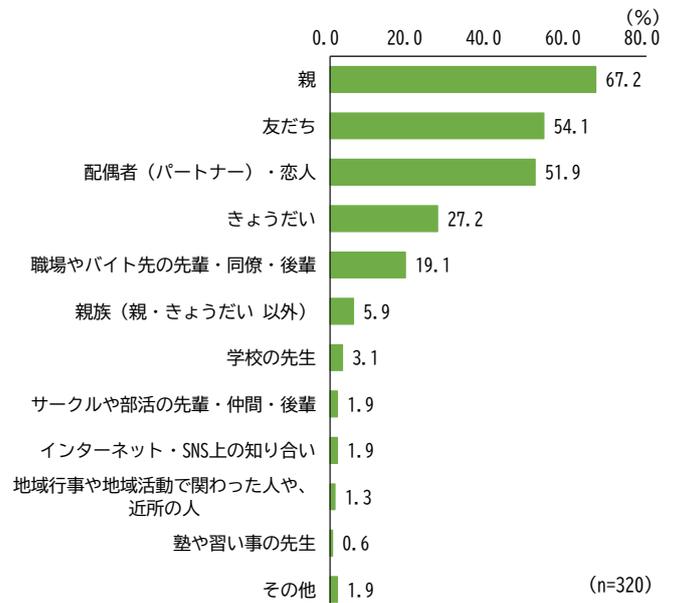
	人数	割合(%)
いる	320	90.1
いない	35	9.9
合計	355	100.0



(n=355)

図表 95 回答対象者：相談する人が「いる」人 相談するのはだれか [複数回答]

	人数	割合(%)
親	215	67.2
友だち	173	54.1
配偶者（パートナー）・恋人	166	51.9
きょうだい	87	27.2
職場やバイト先の先輩・同僚・後輩	61	19.1
親族（親・きょうだい以外）	19	5.9
学校の先生	10	3.1
サークルや部活の先輩・仲間・後輩	6	1.9
インターネット・SNS上の知り合い	6	1.9
地域行事や地域活動で関わった人や、近所の人	4	1.3
塾や習い事の先生	2	0.6
その他	6	1.9
回答者数	320	

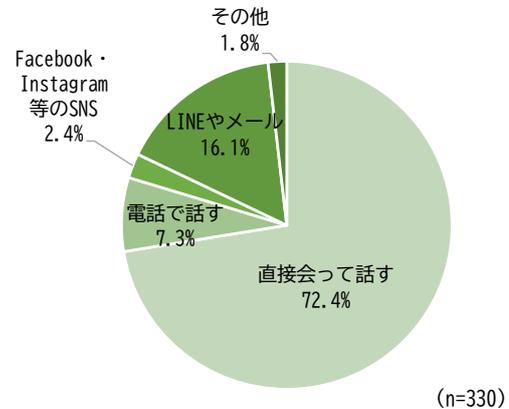


(n=320)

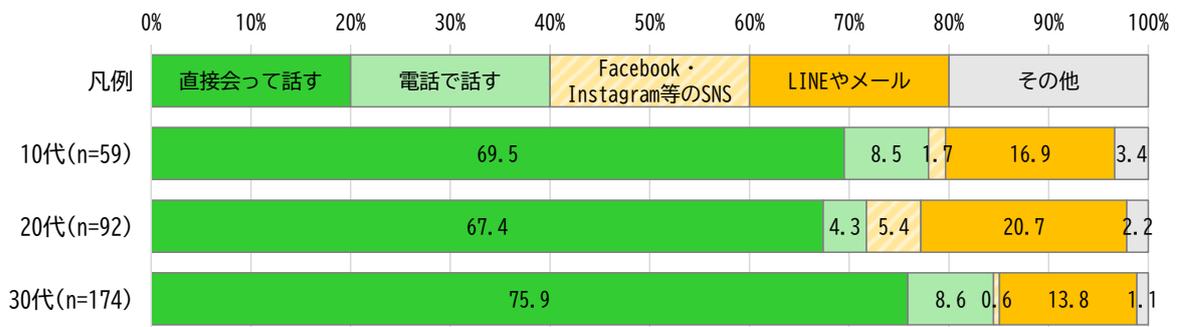
- 悩みを話す方法としては、「直接会って話す」が72.4%と最も高い。
- 年代別にみると、どの年代も「直接会って話す」の割合が高いが、10代、20代では「LINEやメール」の割合も2割程度みられる。
- 自身や身の回りの人が困っていることは「特にいない」は65.0%である。困っていることとしては「経済的に困窮していること」が18.5%、「家族の介護やケアなどのこと」が13.7%となっている。

図表 96 悩みを話す方法

	人数	割合(%)
直接会って話す	239	72.4
電話で話す	24	7.3
Facebook・Instagram等のSNS	8	2.4
LINEやメール	53	16.1
その他	6	1.8
合計	330	100.0

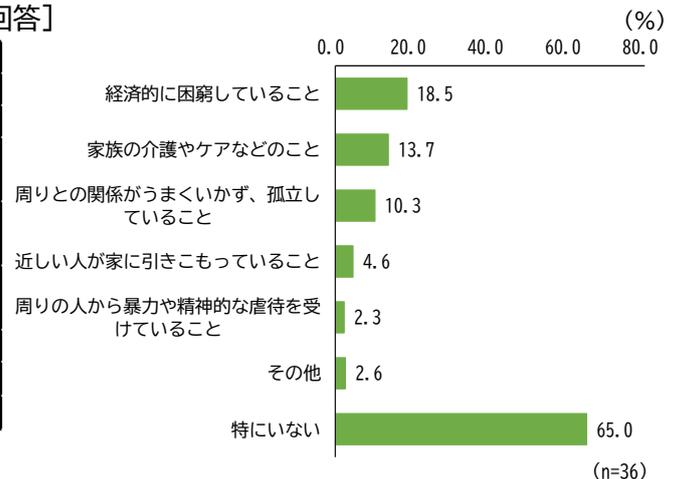


図表 97 年代別 悩みを話す方法



図表 98 自身や身の回りの人が困っていること [複数回答]

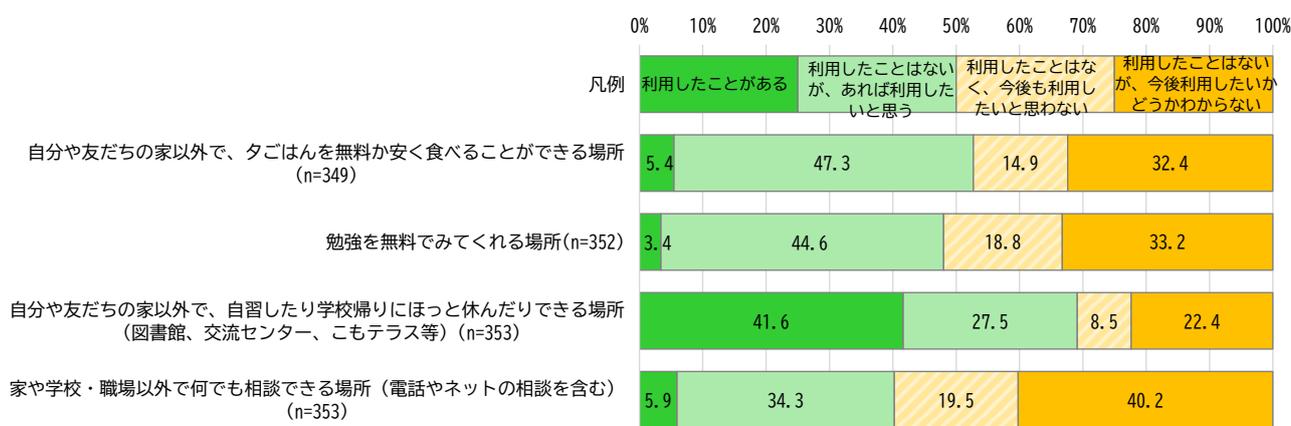
	人数	割合(%)
経済的に困窮していること	65	18.5
家族の介護やケアなどのこと	48	13.7
周りとの関係がうまくいかず、孤立していること	36	10.3
近しい人が家に引きこもっていること	16	4.6
周りの人から暴力や精神的な虐待を受けていること	8	2.3
その他	9	2.6
特にいない	228	65.0
回答者数	351	



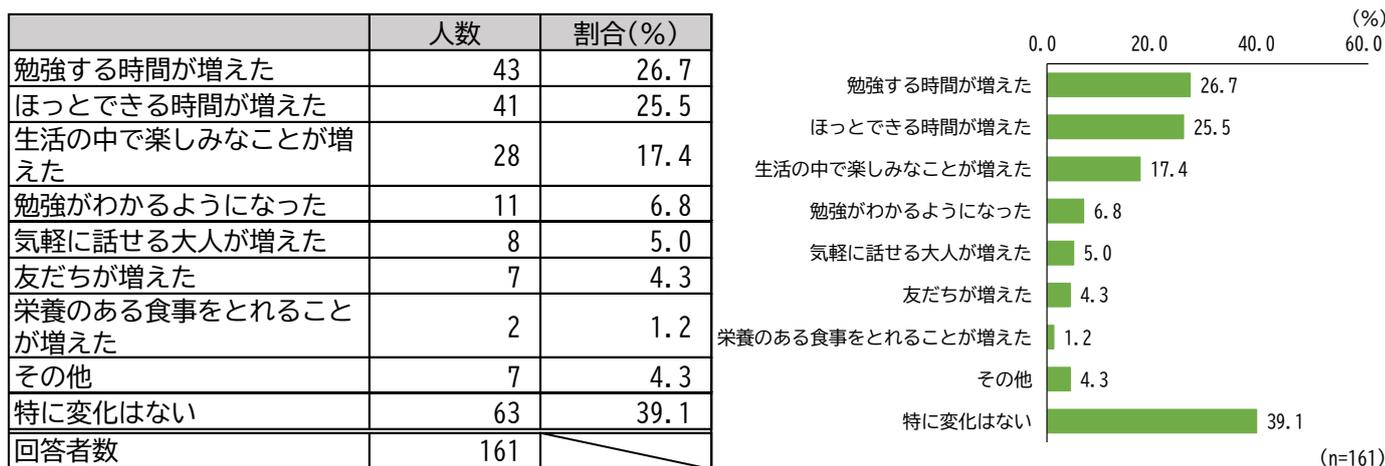
(8) 施設・サービスの利用

- 若者向けの施設・サービスのうち、利用したことがある場所は「自分や友だちの家以外で、自習したり学校帰りにほっと休んだりできる場所（図書館、交流センター、こもテラス等）」が41.6%となっている。
- 利用したことはないが、あれば利用したい場所の割合をみると、「自分や友だちの家以外で、夕ごはんを無料か安く食べることができる場所」が47.3%で最も高く、次いで「勉強を無料でみてくれる場所」が44.6%となっている。
- いずれかの場所を利用したことがある人に、その場所を利用したことで生じた変化をきいたところ、最も割合が高いのが「勉強する時間が増えた」で26.7%、次いで「ほっとできる時間が増えた」で25.5%などとなっている。

図表 99 以下の施設やサービスの利用の有無と利用希望



図表 100 回答対象者：いずれかの場所を利用したことがある人
その場所を利用したことで生じた変化 [複数回答]

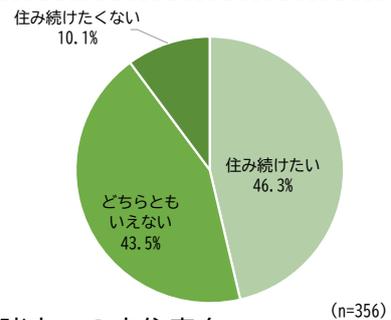


(9) 小諸市への定住意向

- 小諸市への定住意向は、「住みたい」46.3%、「住みたくない」10.1%となっている。
- 令和5年度こもろ・まちづくり市民意識調査と比較すると、「住みたい」の割合が低く「どちらともいえない」の割合が高くなっている。
- 年代別にみると、年代が上がるにつれて「住みたい」割合は高くなり、「どちらともいえない」の割合が下がっている。
- 居場所との関係を見ると、「住みたい」と回答した人で「図書館や公民館、公園など、現在住んでいる地域にある施設」が居場所となっている。

図表 101 小諸市への定住意向

	人数	割合(%)
住みたい	165	46.3
どちらともいえない	155	43.5
住みたくない	36	10.1
合計	356	100.0

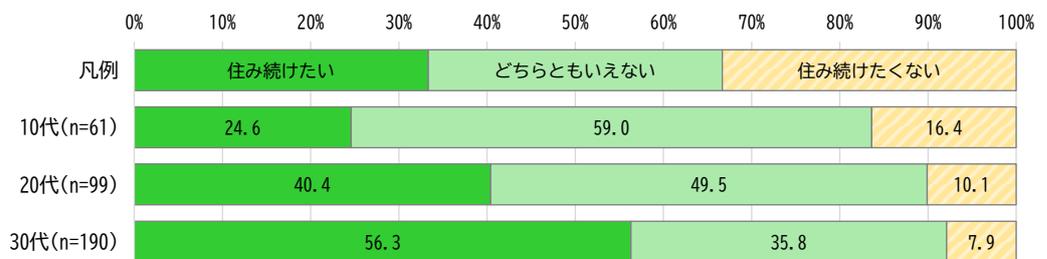


図表 102 令和5年度こもろ・まちづくり市民意識調査との比較 小諸市への定住意向

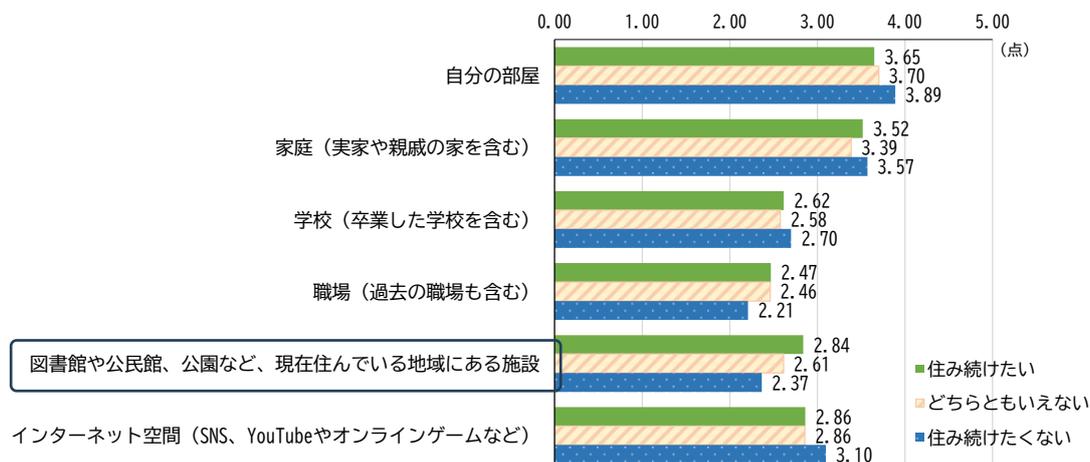
※調査概要は次ページ参照



図表 103 年代別 小諸市への定住意向



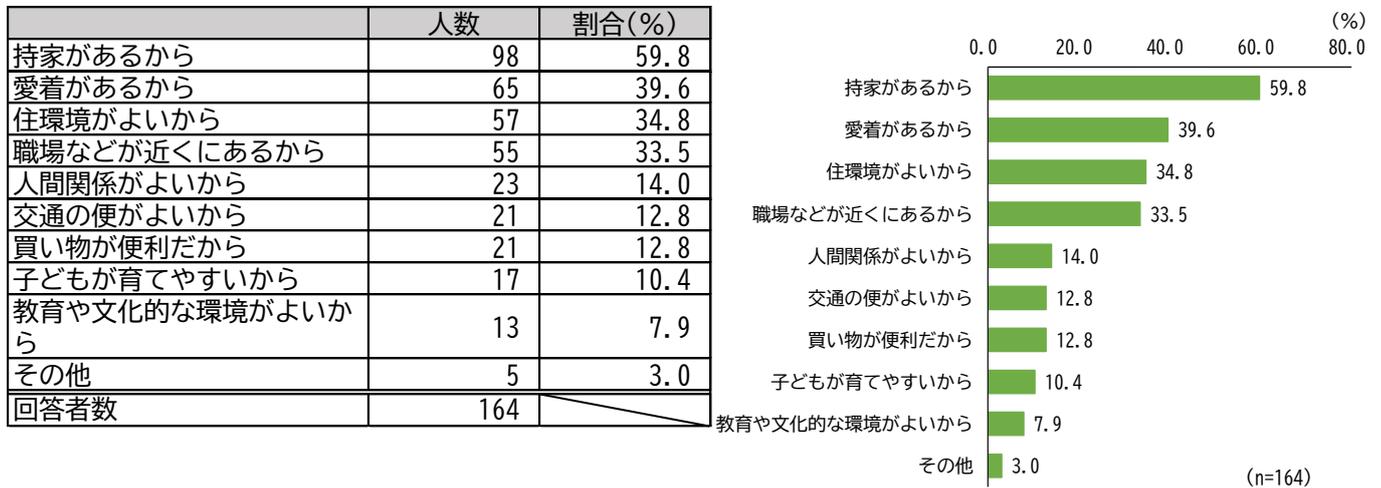
図表 104 定住意向別 あなたにとって居場所（ほっとできる場所、居心地の良い場所など）であるか



※5%水準で統計的検定をした結果、違いが見られた項目を囲っている

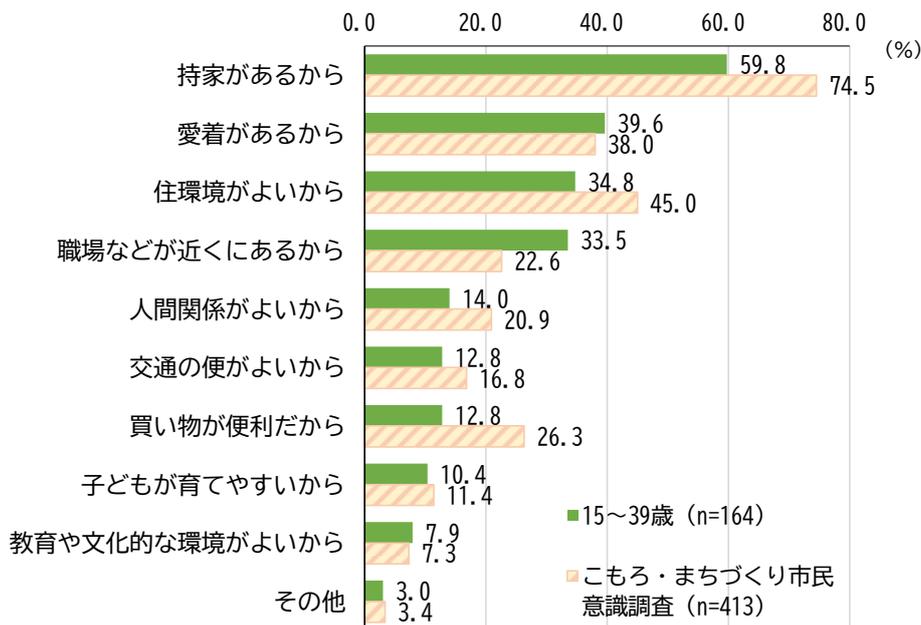
- 住み続けたい理由は、「持ち家があるから」59.8%、「愛着があるから」39.6%、「住環境がよいから」34.8%などとなっている。
- 令和5年度こもろ・まちづくり市民意識調査と比較すると、10ポイント以上の違いがあるのは「持ち家があるから」「住環境がよいから」「買い物が便利だから」であり、本調査（15～39歳）で特に低くなっている。

図表 105 回答対象者：住み続けたい人 住み続けたい理由 [複数回答]



図表 106 令和5年度こもろ・まちづくり市民意識調査との比較

回答対象者：住み続けたい人 住み続けたい理由 [複数回答]

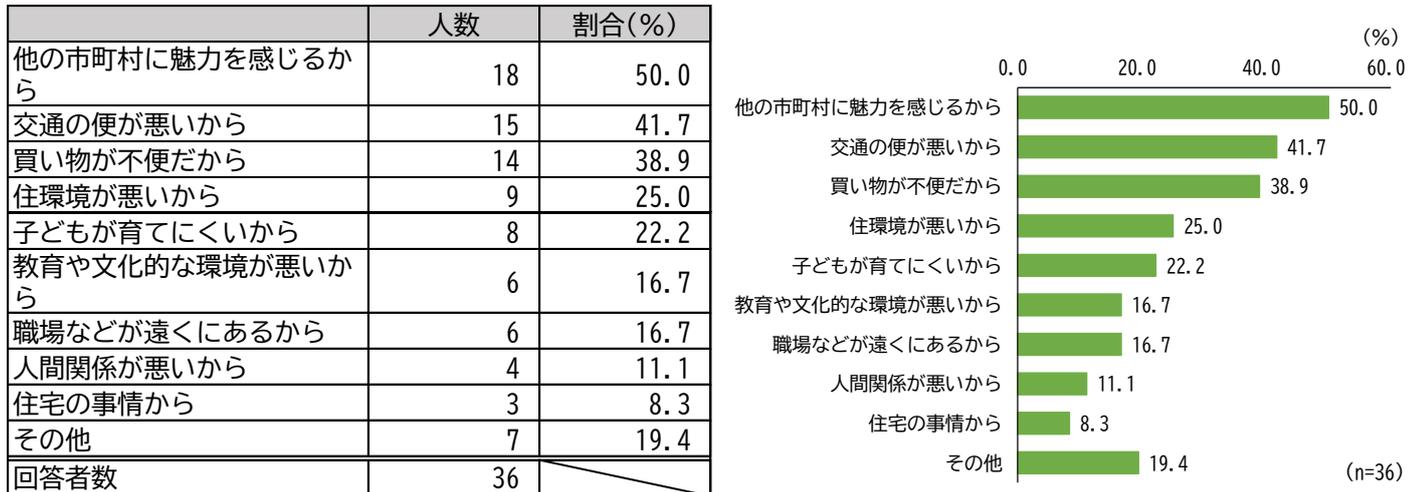


令和5年度こもろ・まちづくり市民意識調査の調査概要

- 調査対象：16歳以上の小諸市民 2,000人
- 抽出方法：令和5年11月9日現在の住民基本台帳から、性別及び年代別の構成比による無作為抽出
- 調査方法：郵送による調査票の発送、同封の返信用封筒での返信による回収
- 調査実施期間：令和5年11月24日（金）～12月15日（金）
- 調査票回収数：650部（インターネット回答 247人）
- 調査票回収率：32.5%（インターネット回答率 12.4%）

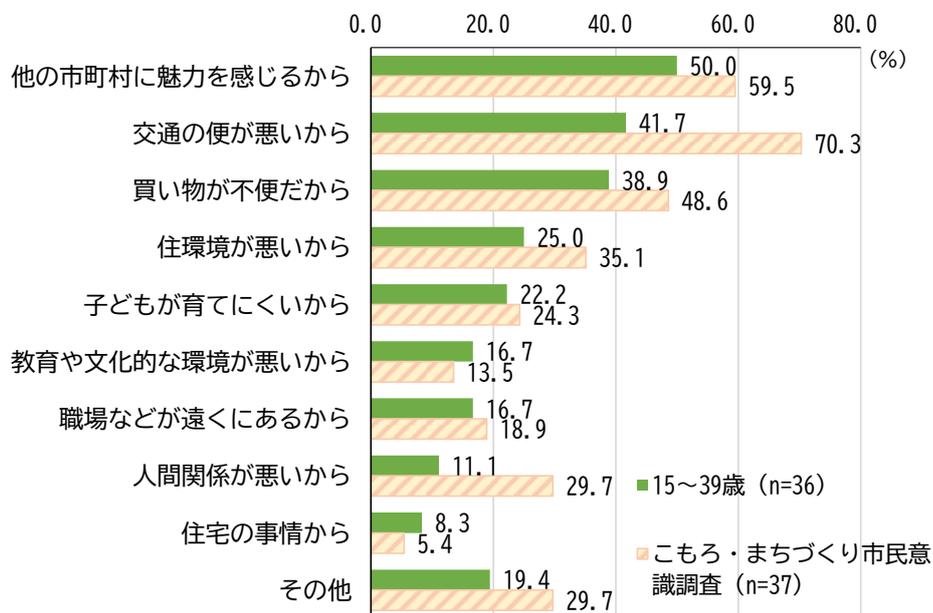
- 住み続けたくない理由としては、「他の市町村に魅力を感じるから」50.0%、「交通の便が悪いから」41.7%、「買い物が不便だから」38.9%などとなっている。
- 令和5年度こもろ・まちづくり市民意識調査と比較すると、10ポイント以上の違いがあるのは「交通の便が悪いから」「人間関係が悪いから」であり、本調査（15～39歳）の方が低くなっている。
- 本調査（15～39歳）では「他の市町村に魅力を感じるから」が最上位であるが、市民意識調査では「交通の便が悪いから」が最上位になっている。

図表 107 回答対象者：住み続けたくない人 住み続けたくない理由 [複数回答]



図表 108 令和5年度 こもろ・まちづくり市民意識調査との比較

回答対象者：住み続けたくない人 住み続けたくない理由 [複数回答]



(10) 自由記述

年齢	性別	意見
15	女性	電車の本数が増えればいいなあと思います。
15	女性	小諸の坂が減るといいな。
16	女性	こもテラスをもっと広くしてほしい。小諸市は遊ぶ所がまったくないので、そういう所をかえて欲しいと思います。お祭りはこれからもずーっとつづけて下さい。おねがいします。
16	男性	居場所がもっとあると良い。
16	女性	電車の本数をもっと多ければいいなあと思います。
16		大学の教育費の軽減の拡充・返済不用の奨学金制度
16	女性	私の街は、本屋、文房具屋、などなどが無く、本屋に行ったりしたい時があっても、小諸に無いので、他の市にわざわざ行かなければ買えない、交通の便が悪い、学生の学ぶ場所などが少ないので、本屋や文房具屋などを増やして欲しい。
16	女性	高校生です。毎朝、美里駅から通学してますが、小海線の混雑に困ってます。中に詰め詰め状態で乗っているとたまに気持ち悪くなります。登下校の時間帯は可能な限り、車両を1両増やすか、電車の本数を欲しいです。
16	女性	イケメンで優しい人と結婚したい。
17	女性	電車の数が増えたらいいな。
17	女性	若い世代が楽しめるようなお店が出来たら嬉しいです。
17	女性	小海線やしなの鉄道などの乗り合わせがすごく悪い。
18	女性	車が無いと何も出来ない、その割に道路が良くない、学校が駅から遠い。
18	男性	学習室が適度に換気されてほしい。
18	女性	小海線もっと時間増やして欲しいなあ。
18	女性	安く利用でき、勉強ができるようなカフェが近くにほしい。
19	女性	もう少しチェーン店など若者が気軽に入れるお店が欲しい。
20	男性	子ども向けの娯楽施設を増やしてほしい。(映画館・プール・公園)。御影新田のような、比較的平らで広い場所の活用。
20	男性	家庭もつ 仕事する。
20	女性	若いうちから、もっとお金がもらえたらいいと思います。最低限の暮らしで余裕がなく、常にお金をもっと貰える仕事に就きたいと考えています。
20	男性	不安になることがないので。
21	女性	気軽に運動や音楽ができる所やサークル等があると良いと思います。図書館がとても良く、勉強するのに使わせていただいています。
21	男性	市内にどのようなコミュニティが存在するか(どんな人に出会えて、困ったら相談できるか)が一覧に見れるようなデバイスがあるとよいなあと思います。
21	女性	佐久市はクーポンとかもらえるし、お店もたくさんあるし、新幹線もあるし住みやすそう。平原はいつになっても、道路できないし、お店も無くなっていく。逆に小諸の良いところはどこですか。結婚するころ、住みやすくなってますか。

22	男性	ゴミの分別がめんどくさい、賃上げを実施してほしい、物価の上昇に給料がおいつかない、少子高齢化をもっと受け止めて、子どもを作ったほうがメリットになる対策を導入してほしい。
23	女性	公民館の利用者(特に高齢者)老人、病院、施設を制限する、を増やすようにし、ポケを減らす。助け合い文化的。
24	女性	ゴミ袋にお金を取らないで欲しい。もう少し、街灯を増やして欲しい。
24	男性	車が欲しい カーリースを増やして欲しい。
25	男性	元々劣等感が強く、大学進学を機に意図的に改善しようとはしたが、自分の中で「これだけは」と思っていた誰にでも出来るハズの事が出来ず、そこからずっと曖昧に生きている。幸か不幸か身内は皆見守ってくれており、曖昧な日々区切りがつかない。このままでいい訳が無いという気持ちと、人生への不安はあることにはあるが、どうなりたいというビジョンは無いのに、明日終われば楽だなという気持ちはあり、ずっと全てが漠然としている。
25	男性	ここに住んでとても幸せです。たくさんのおもだちができました。ここにいる女の子たちと知り合うことができたことです。そして、私に対してすこし心配なこともあります。将来については、今は自分の仕事に集中して考えているからです。発展するために東京のような大都市に行くかもしれません。
25	男性	住民税を払うのはいたしかたないが、その分の還元をしてほしい。
26	女性	他の市は、税金の還元(39クーポン等)があるが、小諸市は市民への還元がない。生活保護の方が多い。
26	男性	神奈川から移住し、長野の風土やくらしは平和でいいものだと感じています。土地や物価も安い。一方で、バリバリと働いてキャリアを積み上げたいが近場に優良で入りたいと思う会社がない。キャリアを求め関東に戻ろうかと悩むことがあります。
26	女性	医療機関が不十分。
26	女性	金銭面 正社員として働いており同世代の平均くらいの収入はあるが、現時点の収入のままでは結婚もできないし、子供も産めないと思っている 現に、車を持つ余裕すらなく、車無し生活を送っている 何も補助がないのであれば、これからの生活が不安でしょうがない。
26	女性	個人経営のお店が増えているが営業時間がわからなかったり駐車場が狭かったり、ないお店も多く利用しづらい(小諸駅前周辺) 飲食チェーン店を増やしてほしい。若者がずっと小諸に住もうて思えるように地域活性化に取り組んでほしい。子供の予防接種(おたふく?) 佐久では補助がでるのに小諸は全額自費なので、同じように補助の対象になると助かる。
27	男性	御代田町の方が町民に対して支援券だったり充実している為、小諸市に魅力を感じない。
27	女性	小諸市のごみ出しが許可されている時間が、6から8時となっていますが、生活する時間帯が違く、ごみを出しづらいと感じております。ご近所でもそういった話は聞きます故、10時から11時くらいまでは許可していただくと嬉しいです。
27	女性	小諸市の手当(結婚や出産など)で受けられるものが少ないもしくはないと感じたことがあります。佐久市や佐久穂町と比べてですが。
28	男性	特別ずっといたいと思えるような対策がないのでどこでも同じと思ってしまう 小諸市で良かったと思えるようになるのは今現在ではたいへん厳しいです。

28	男性	電車に乗る時に SUICA や PASMO などの交通系支払いが使えない。切符が面倒くさい。紙の無駄だと思います。
28	女性	キャッシュレス化推進。(小諸にキャッシュレスの会社があります)現金を持ち歩かないので。・会社で飲んだり食べたりする所が限られてるので、おしゃれでリーズナブルな飲食店が欲しい。お洒落なお店増えてますが、若干値段が高いです。祇園みたいな大型イベントを増やす。年4回くらい。
28	男性	過去にストレスから抑うつ症状あり仕事を転職したが、現在あまり精神的に良好と言えない日々を過ごしている 現在の生活や将来に不安がある。
28	男性	経済的支援がもっと欲しい。
29	女性	運転免許証自主返納者に対する政策をもう少し充実させてもいいのでは?と思います。
29	男性	ごみ捨てにコストと手間がかかりすぎる。ゴミ袋が高い。分別の手間が大きい。駅周辺にカラオケや居酒屋などのチェーン店が欲しい。安心して入れる店が分かりづらい。
29	女性	今後子どもが出来たときのことを考えると、夫は土日休みだが私の仕事はシフト制で土日休みが取りづらく、子どもの世話や学校行事への参加が夫にばかりに偏って負担になってしまうのではないかという不安があります。サービス業である限りは仕方ない事なのかもしれませんが、子どもの居る家庭になったときには夫婦が協力しやすいような休暇制度があると嬉しいなと感じます。
29	女性	未就園児の支援センターが一つしかないためもっと未就園児が遊べる施設を増やしてほしい。1人親家庭への支援が手厚いため、一般家庭への支援も手厚くしてほしい。
30	女性	全体的に小諸市の税金が高すぎると思います。仕事に関しても、働いた分だけ税金が引かれてしまい、時給もあがる意味もない。他の地域と平等にしてほしい。
30	男性	月の初めに朝市というのをやってるのを知って6月に参加して、とてもいい雰囲気でしたのでこれからも継続してくれると嬉しいです。
30	男性	プレミアム商品券を実施している他市町村があります。昨今の物価高により生活費の高騰には苦しいものを感じます。数年前に小諸市も実施していましたが、現在も子供家庭に限定して実施していることは存じてますが、限定せずに行うことはないのでしょうか。子供の有無に限らず生活困窮している家庭はあると思います。限定されてしまうと福利厚生が充実した近隣の市町村へ転入した方が良いのではとも考えてしまいます。ご検討いただくと幸いです。
31	女性	家の近くに公園がほしい!!お金ほしいー!
31	女性	老人向け施設ばかりで若者や子育て世代向け施設が少ない、と感じます。なので休日は、小諸市から出て遊ぶことが多い気がします(プールもなくなりました)。児童館も子どもを預かることをあまりよく思っていないような対応をされ、安心して預けられる所がほしい。(花火大会なんてものもあったらいいです)
31	男性	市役所の周りだけではなく、美南ヶ丘小地区などの近くに学習できるスペースが無いと思うので、あれば良いと思います。
31	女性	大人も子どもも、みんなが利用できる屋内施設があると便利だなと思います、(博物館、科学館、商業施設…など)

31	男性	勤務地の立地上、自動車が生活になくてはならない上で、その自動車にかかる費用（車検、オイル交換代など）がどうしても負担に感じる。そのような負担が少しでも軽くなれば経済的余裕ができるのではないかと思います。
31	女性	決定的にダメなわけではないが、住まいの近所を見渡すと洗練されている雰囲気はせず、以前住んでいた御代田町の別荘感ある洗練された雰囲気と比べてしまいます。もちろん、小諸市と御代田や軽井沢では 地理的な部分や移住者の割合も異なりますのでこれを比較することが良い訳ではないですが、街中でおしゃれな雰囲気が参加している中、街から離れた家周辺も進化出来たらいいなあと思います。
31	女性	第一子を出産し、育児休業を取得中です。元々東京都出身のため、友人が少ない環境ですが、外に出ることや新しいことを始めることは好きなので、引きこもらないように気をつけています。子供ができてから長時間の外出がしにくく、10分でも子供を連れてお散歩したいなと思っているのですが、交通量が多い道路が多いわりに整備された歩道が少ないように感じます。いずれ大きくなる子供の通学も心配です。地方で子育て、穏やかな生活を送りたく東京から越してきているため、立科町へ転出予定です。
31	男性	子供が居るので経済面で楽が出来たら嬉しい。
31	女性	自治会への参加は強制ではないのに、「強制だから」と言って勧誘してくる隣人がおり、そこだけが嫌なところ。今の時代は核家族化していて、夫婦揃って子供を育てる事で金銭面・時間共にギリギリな中で自治会の集まりに行けるわけがありません。出不足金も意味がわかりません。
31	女性	人があたたかいといいなと思う。
31	男性	子どもが安全に通学できるような環境を整えてほしい。
31	女性	木陰のある公園があれば嬉しい。
31	男性	代々続く歴史ある家はあるが、修繕・維持管理には費用がかかる。そこまで収入があるわけではないので今後家を維持していけるかわからない。市には重要建造物の登録制度があるが、市の景観という意味からももう少し建物管理の補助が受けられやすい制度があると嬉しいです。
32	男性	お店がいろいろ増えてきて嬉しいです。もっとお店が増えてくれると嬉しいです。
32	男性	バブルがはじけ、失われた 20 年とも 30 年とも言われる時代の中で育って来ました。バブルの頃のことはわかりませんが、経済的に苦しいながらも安定した（変化のない）時代だったと言えるかもしれません。しかしながらここ 1~2 年コロナあけの円安や物価高の日本の状況はこの先の生活に非常に不安を持ちます。バンバレ日本！！という気持ちです。
32	女性	結婚、出産を期に、小諸市に来た為、周りのことがまだ分からず不安です。友人も居ないため、たよれる人が少ないのですが、子供達が元気に育ってくれるようにしたいとは思っています。
32	女性	小諸市子育て世代の減少。小諸市は 3 人目の保育料がかかる。でも他の市はかからない。小諸市は給食費がかかるけど隣の市はかからないところもある。小諸はゴミ袋が高い。分別が大変。マイナスな話を聞くことが多く、確かに周りの市と比べてしまうと差を感じてしまうことも多々あります。ママ友に小諸市のいいところはなに？ と聞かれても答えられることが住んでる自分でもパツと思いつきません 移住者が増えてるとは聞いたことがあるけど だからと言って自分たちの生活に何か変化があったとは感じませんが小諸で生まれて小諸で育つて 小諸市が好きな気持ちには変わりはなく 移住者が増えて駅前も活気にあふれ 今後より良い小諸市になることを期待しています！

32	女性	近隣の役場に勤めてますが、残業について、超過3時間以上からではないと残業を申請させてもらえないことを改善させたいと考えてます。
32	男性	待機することなく保育園や幼稚園に預けられるか、本人がやりたいことをやらせてあげられるか、費用について悩むことなく進学させられるか等、育児に関する心配や悩みが少なくなるような社会であれば良いと思います。
32	女性	保育料、給食費無料化を実現して頂けたら有難いです。あと子供の進学費用の補助などもあれば助かります。
32	女性	子育てが始まり、1番不安なのは経済面のことです。不自由なく育てたいですし、やりたいことにチャレンジさせてあげたい、できることならもう1、2人産みたいですがこの景気の中、経済面をみてもやっつけいけないか不安です。
33	男性	熊本でTSMCの工場を誘致したように小諸や東信に現代自動車やサムスン電子、SKハイネックスといった韓国資本を積極的に誘致するよう交渉してほしい。そうすると必然的に雇用を生むし、加えて、小諸市も韓国の某市と姉妹都市提携して、韓国との交流を強化してほしい。小諸市から韓国へはばたける人材が出にくい現状は大きな損失です！！
33	女性	ガソリンやガスなどのエネルギー費の高騰が今後の心配事としてあるので、少しでも消費者の負担が軽減されるような政策が施行されたらありがたいと感じます。
33	女性	もえるゴミ週1ありえない。
33	女性	小諸市の外の空気が悪い。牧場みたいな臭いがする。
34	女性	子供達が使う施設を新しくしてほしい（保育園や幼稚園）。施設が古い所が多く、見ててケガをしたりしないかとても心配だし、かわいそう。大人達の施設ばかり新しくなっていて全く子供達に優しくない。・もっと保育園、幼稚園をオープンな環境にしてほしい。不適切な指導をしている先生もいると聞くから、とても不安だし、子供も気持ちが悪くなる。
34	女性	病院の予約が携帯でできると便利だなと思う。具合の悪い子どもを連れて予約を取りに行き、長い時間待っているのはつらい。
34	女性	子供をもう1人か2人欲しいと考えていますが、職場への罪悪感や経済的な事を思うと踏み切れません。子育ての費用の援助の拡大や両親とも育休取るのが当たり前の社会になればいいなと思います。
34	女性	近所、四ッ谷区でのイベントことがなくふれあいがなく、知らない方ばかりで、名前すらわからない方も居ます。何か緊急時であった場合、助け合いたいなど出来たらいいなと思います。
34	女性	社会のために役に立つことはしたいが、仕事が忙しく体力もないのでハードルが高い。
34	女性	三人目の子供ができたが、物価高騰による生活費、今後の学費や子供達の将来に不安を感じている。子供達には不自由なく自分の進みたい道に進んで欲しいが、蓄えが心配。自分と配偶者の老後も心配である。
34	女性	市民プールの復活。
35	女性	小諸市在住で小さな子どもを育てている人を対象に産後や育児に関する体そうや相談できるクラスや教室があったら、参加したいと思う。（今は市外まで行かないとあまりないので）
35	男性	障がい者にも、仕事をもっと下さい。
35	男性	ゴミ袋に氏名など書かないようにしてほしい。（個人情報の観点から考え）

35	女性	副業をしないと子どもを持つことが難しい。賃金の引き上げや減税をしてほしい。
35	女性	子供がいらないからわからないけど、今後子育てする場合は気軽に頼れる機関が欲しい まだわからないけれど周りの市町村の方が小諸より子育てしやすいと聞くから。
35	女性	結婚するつもりはないので、一生独身のままだと、定年後の生活が心配。
35	女性	小諸への移住希望者や農業やりたい人と、地元の人との(独身者対象の)出会いの場の 企画があるといいなと思います。また既にあるとしたら、その情報が広く届けばと 思います。
36	女性	夏場、暑すぎて、子供を外(公園)で遊ばせられないが、小諸にはプールがなく、屋 内で遊べる施設もないので困っています。プール復活、噴水広場のある公園、小学生 の子供が遊べる室内施設があるといいなと思います。
36	女性	もっと若い世代にも優しくしてもらいたい。お年寄りばかり補助や優遇しているイメ ージ。健康診断やインフルワクチンなど、若年中年世代は補助してもらえずビックリ しました。(他の地域はしている)
36	女性	県外から移住してきて、地元にはいた頃のように相談できる人がいないので、県外出身 の方と集まって話す機会が欲しいと感じました。長野県の郷土料理を作るイベントや購 入できるイベントも行って欲しいです。
36	男性	ごみ袋が高すぎる。そのくせ、生ごみ処理機の助成金制度はなし。もう少し市民に還 元してほしい。
36	無回答	数年前に県外から転入した世帯です。自然の中での子どもとの生活に、忙しいいな りの幸せを感じています。以前住んでいた土地と逆で、町内会や学校PTAをはじめ とする、地域的な繋がりが強い土地柄だと感じます。心強さがあるのと同時に、緊 張感がある、という風にも感じます。比較的若い、主に子育て世帯の中には、地域 的な負担が重い、と感じている人も多々いるようです。自分は持ち家がない店子なの でそう感じる場面は少ないですが、多子世帯などは特に忙しそうに立ち回っているよ うに思います。PTAの集会で感じることですが、既存のルールを実状に合わせてア ップデートする、という発想に対して頑なな印象があります。変えようとする向きも あり、少しずつ変化しているとも感じますが、時間がかかりそうです。行政の範疇で はないかもしれないとも思いますが、第三者からの働きかけが必要ではないかとも思 います。暮らしやすさを実現できるよう協力していけたらいい、と思っています。
36	男性	駅周辺の観光地に適した整備。
36	女性	小諸市は佐久へのアクセスもよく、都会からも来やすいし住めそうだと思うが、市が 囿っているイメージアップとは裏腹で想像以上に田舎(ソフトもハードも)。店や娛樂 などは佐久に出ないと基本的でない、交通手段も車のみ、時代に合わない考え方、や る気のない市政や市役所。教育や習い事などの選択肢も、いい病院(特に小児科や産 婦人科)もほとんどない。どんなに移住者などを増やしても、快適に暮らせなければ みんな出ていく。今後を担う若い世代を本気で大切にしないと、小諸市には衰退の道 しかない。
36	女性	世の中全体的に働きすぎではないでしょうか?欧米のように、自分の時間、家族の時 間や余暇を楽しむ心のゆとり、社会のゆとりが欲しいと思います。
37	女性	今の職場で働いて10年以上ですが、市内で就職出来たらと未だに思います。

37	女性	子供の大学進学した時の援助が欲しい。近場で水遊びする場所が欲しい。不妊治療の補助が欲しい。育休中のお金をもっと補助して欲しい。公共交通機関をもっと安くして欲しい。子供服が買える場所が近くに欲しい。子供とも行きやすい食堂が欲しい。
37	女性	子ども達が自由にのびのびと暮らせたら良い。
37	女性	ここ最近、小諸駅周辺も新しいお店が増えつつありますが、雑貨屋さんや洋服屋さんなど可愛いお店が増えてくれると嬉しいです。
37	女性	ニセアカシアの木を切ってほしい。被害が一時なのですぐに忘れてしまうけれど、あの木が花粉をまく季節は車が花粉まみれになるし、アレルギーで頭痛がする。長野県特有のアレルギーだとネットで見た。問題視されているのを見たことがないけれど、立派な健康被害だと思う。
37	男性	転職して年収を上げたい 出会いをして結婚したい。
37	男性	最近は特に光熱費の高騰に苦しんでいる。車がないと不便なのでガソリン代もどうにかしてほしい。
37	女性	子育てに関してですが、小諸市の中心部市役所周辺よりも、美南ヶ丘小学区に子どもが多いですが、支援センターや公園などが少ないと感じます。結局、車ででかけるなら…と小諸市以外の場所に行ってしまう。また、幼保小連携などと言われますが、立地的に学校の近くにある方が、交流する時に便利だったり、身近に感じられたりすると思います。もう既にそれぞれ立っているのだから仕方ないですが、もし立て直し等の機会があれば考えて欲しいです。
38	男性	何でも小諸市役所の近くに集中していて外へ離れて住んでいると本当に不便、公共交通はしかたないにしても、色々点在していても良いのでは？結局買い物等佐久へ行っただ方が、色々あり、一日過ごせる小諸は一日過ごす所が少ない、子供と南城公園に行っても、一日は無理、車に乗らず一日を完結させたい
38	女性	小諸中心部に住んでいますが、子どもを遊ばせる公園が欲しいと思います。私自身も幼少期から小諸で過ごしていますが、小学生の時に外で遊ぶ場所がなく、近くの駐車場などで遊んでいました。南城公園もありますが、小学生にとっては遠くて気軽に行ける場所ではありませんでした。現在も南城公園は日陰があまりなく、もう少し木々が茂った環境ならいいのにも思います。そしてできたら水遊びもできたらいいです。また、昨今の夏の暑さなどで外遊びが難しくなっているので、室内で遊べる場所が欲しいです。幼児を連れて行く場所があまりなく、苦労しています。
38	男性	支払う税金が高いので、見直して下さい。
38	女性	駅の周辺に遊具のある公園があるといいなと思います。
38	女性	回覧板が多い。メール SNS アプリ等に置き換えられないか。電池ごみの回収回数が少ない。保育園の充実。一人目の時は落ちた。保育園のオムツのサブスク。区内一斉清掃の頻度の多さ。室内の子供の遊び場や子連れで行ける施設の充実。土日に雨だと行くところを探すのが大変。 近くの小さい公園の遊具を新しくして欲しい。30年以上前に古いついていた遊具がまだ使用されていて、壊れていたり、現代の安全基準に合っていないと感じる。
38	女性	子どもの長期休業中の居場所(寺小屋のようなもの)がほしいです。気軽に子どもを預かってもらえる場所やシステムづくりをお願いします。
38	女性	発達障害なので、将来自立していけるか不安に思っています。

38	女性	小諸市は子供がいる家庭に対してのお金や、手軽なお手伝い、ベビーシッターなどの援助をもっと積極的にやってほしい。子供がほしくても金銭的に厳しくて諦めるしかない。
39	女性	地区の消防活動について、この便利な時代に、未だ半鐘をならす所がどれくらい残っているのでしょうか。放送で夕方やお昼に流す音楽同様に、あのならすという事自体を廃止していただきたいです。誰か不幸な身にならないと改善できないのでしょうか。普段から訓練している消防士の方とは違うんです。貴重な朝・夜の、しかもぴったりの時間に決まったタイミングで鳴らすって、消防団員の苦勞考えたことありますか。是非市長自らのぼって確かめて頂き、危険なこの活動を廃止にしてもらいたいです。御代田や佐久ももう既にやっていませんよ。小諸だけ遅れていると思います。火事が起きても火の見やぐらにはのぼらないと思います。
39	男性	自転車の運転がうまくなりたいです。
39	女性	パートナーに妊娠妊婦体験をして欲しい。(1日2日体験→つけたまま行動)・パートナーと一緒に色々な事に体験をしたい(妊娠・出産まで)。パートナーにも育児や教育に協力してもらえるように市の方から積極的に伝えて欲しい。(職場にも伝えて納得してもらえるように)
39	女性	大人も子供も楽しめるような、無料もしくは安価のイベントの充実。物価高において、特に子育て世帯に対する支援、サービスが必要だと感じます。
39	女性	公共施設が使いづらい(登録と予約が必要な入浴施設など)・町にもう少し遊べる所がほしい(小さな店は増えているが、割高で気軽に行けない。遊ぶとなると佐久になる)
39	女性	子育てにもどかしさを感じる。もどかしさを感じ、自ら動き始めた市民の活動に手を貸してくださる環境が少ない。人は優しいのにつながっていかないことがもったいない。「一緒に」という感覚が少ない。「お役所仕事」なんて言わせない、心のやりとりを希望します。これからの小諸市が楽しみです。
39	女性	子どもが3人居るが給食費が高くて毎月払うのが大変です。近隣市町村のように無償化になるとその分教育(習い事や将来の学費)に回す事ができるので期待しています。とにかく物価も何もかも上がり育ち盛りの子どもに満足な衣食住をいつまで出来るか先が不安です。小諸は夫のリターンで来ましたが今では自分の実家(東北)より住み心地が良く好きな街です。
39	男性	市民税優遇制度 国民健康保険料の減額。
39	男性	人間関係や悩みを気軽に親身に聞いてくれる場所がほしい。
39	女性	自分が休日(土・日)の時に、自宅以外の施設で保育園と小学生を同時に預かってくれる所があると助かります。
39	女性	両親が遠方において、夫は仕事を急には休めないため、常に、体調をくずせないプレッシャーがある。育児をする中での孤独感、やってあたり前という家事がつらい時もある。そういうどうにもならない気持ちをやわらげていけるような施設や場所があると嬉しいです。子ども連れOKのカフェ等。
39	女性	子供を遊びに連れて行くところが少ないのが不便です。
39	女性	レストランや ショッピングモールが少ない。
39	男性	小諸は学校や習い事、駅までの送迎の距離が遠く、親の送り迎えがあたり前になっています。もっと地域での移動手段が増えれば良いなと思います。AI タクシーなどいかがでしょうか。

39	女性	子供や子育て世代に優しい市では無いと感じています。学校も体質が古く、仕組みも見直して時代に合わせて貰いたい。右ならえなども非常によくありません。市の財政も健全化していただきたい。鶴の一声で決まるような事はあってはならないし、地元にも、公平に、お金を使っただけでいただきたい。
40	女性	小諸市は子供に対するあらゆる面で他の市に比べおこなっていると思う。あそび場所や金銭的なことでも、保育園のことも全てその他にも、生ごみ処理の補助が出なかったりと、家を建てていなければ、他の市に住みたいと思う。周りも小諸市にあまり良い意見はいません。もっと市民のためにがんばってほしい。
—	男性	自然環境（緑の量、気候、災害の少なさ）は良いが、坂が多くて駅から図書館などの移動が大変。自動車を持たない学生、高齢者にとっては移動の面において不便かもしれない。
—	女性	毎週ウォーキングをしていて思いますが、歩道に雑草が生えていて、歩きにくいです。通学路もひどいところがあるので、定期的に草刈りをしてほしい。